

会 議 録

会議の名称		令和4年度第1回つくば市生涯学習審議会	
開催日時		令和4年(2022年)8月19日(金) 開会14:00 閉会16:00	
開催場所		つくば市役所2階 201会議室	
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課	
出席者	委員	飯島 眞市委員、伊藤 達也委員、岡田 克司委員、金川 清治委員、木村 清隆委員(副会長)、佐野 洋子委員、鈴木 朱里委員、関 瑞穂委員、武田 直樹委員(会長)、田中 依子委員、長橋 進也委員、萩原 武久委員、平野 浩之委員、船橋 秀彦委員、星埜 祥子委員、松村 美枝子委員、溝上 智恵子委員	
	その他	森田 充教育長	
	事務局	吉沼 正美教育局長、飯泉 法男次長、久保田 靖彦次長、澤頭 由紀子生涯学習推進課長、色川 純子課長補佐、渡辺 幹高係長、渡邊 亮太主査(社会教育主事)、榎本 香織主任、尾野 千明主任、永野 泉社会教育指導員	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 1名
非公開の場合はその理由			
議題		(1)つくば市の生涯学習推進に関する沿革と第3次つくば市生涯学習推進基本計画の概要について (2)第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和3年度進捗状況について (3)第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和4年度事業計	

		画について	
		(4) コミュニティ・スクールの概要について (説明)	
会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会 議 次 第	1	開会	
	2	任命書交付	
	3	市長挨拶	
	4	自己紹介	
	5	会長及び副会長選出	
	6	議事	
	7	その他	
	8	閉会	
1	開会 事務局	<p>ただ今から、令和4年度第1回つくば市生涯学習審議会を開会します。</p>	
2	任命書交付 事務局	<p>始めに「任命書の交付」をいたします。</p> <p>これから皆様のお名前を読み上げますので、着席のままでお返事をお願いいたします。</p> <p>～委員名簿順に委員名の読み上げを実施～</p> <p>以上19名の皆様を代表いたしまして、飯島 眞市様に任命書を交付させていただきます。飯島様恐れ入りますが前にお進み願います。</p>	
	五十嵐市長	<p>任命書 飯島 眞市 様</p> <p>つくば市生涯学習審議会委員に任命します。</p> <p>委嘱期間 令和4年8月1日から令和6年7月31日</p>	

<p>事務局</p> <p>3 市長挨拶</p> <p>五十嵐市長</p>	<p>まで</p> <p>令和4年8月1日 つくば市長 五十嵐 立青</p> <p>ありがとうございました。なお、その他の委員の皆様におかれましては、任命書を机上に配付させていただいておりますので、御確認のほどお願いいたします。続きまして、市長の五十嵐より皆様に御挨拶申し上げます。五十嵐市長よろしくお願いいたします。</p> <p>改めましてこんにちは。お忙しいところ、生涯学習審議会に御参加をいただきましてありがとうございます。8月1日から新しい委員の皆さんに就任いただき、再任の方もいらっしゃいますけれども、市民委員は1名増やして5名とし、また、幅広い団体の代表の方や、それぞれ普段から活動をしている皆さんといった、本当にいい委員に集まっていたなと思っています。</p> <p>生涯学習というと、一般的には、やや地味な分野と誤解をされている、ちょっと過小評価をされているということが、私の常に持っている問題意識です。実は人生100年時代で、これほど重要な分野はないと考えています。</p> <p>生涯学習が意味するものは、幅広くありますが、やはり地域の中で、学びながら、地域の課題も含めて解決をしていくことであったり、生きがいを見つけていくことであったり、やりがいを見つけること、そして、お互い</p>
---------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

に支え合っていくこと、と本当に多くのことが、その中で包摂をされていると思っています。

つくば市の教育大綱でも、大きな方向性の中で、「善き生への実現能力」という言葉を使っています。その中にも、「社会力」ということを大きなキーワードとして入れてあります。つくば市の元教育長である門脇先生が、もともと考えた言葉ではありますが、つくば市では、定義として、「他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、より良い社会をつくろうとする力」としています。

その中で、社会力コーディネーター養成講座を今年度5回のシリーズでやっており、様々な取組を行っています。そういう取組を通じて、地域の中にいかに社会力を持つ人たちを、どんどん育てていくか、広げていくかというようなことが大きく問われていると思っています。

また、それにプラスして、今、コミュニティ・スクールというものを、国でも、そしてつくば市でも進めています。それは、地域の皆さんと一緒に、地域の学校を作っていこうという取組です。学校を核にして、様々な活動がコミュニティ・スクールの枠組みの中で展開をされていくことになると思っています。

おそらく、そういった説明が担当課からあると思いますが、ぜひ活発な意見を出していただき、率直で忌憚のない、それぞれの立場からの御意見を出していただきたいと考えています。

私は、会議には基本出られませんが、すべての審議会の議事録を一言一句確認させていただいております。そ

	<p>の中で、皆さんの御意見で、もっと掘り下げて聞いてみたいものがあれば担当課に聞くということをやっていきます。いつも議事録を読むことを私は楽しみにしておりますが、とても重要な「生涯学習」というテーマを、皆さんに、ぜひ積極的かつ前向きに議論をしていただき、また、皆さんが普段活動されている中での課題等もあると思いますので、そういったものも遠慮なく出していただき、市としてもっとこんなものが必要なんじゃないか、市としてこういうことをやる必要があるんじゃないか、そういうことも御提案をどんどんいただきたいと思っています。</p> <p>お忙しい皆さんだと思いますが、いづくばをともに作っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。</p>
<p>4 自己紹介 事務局</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、今回の会議から新しい審議会の体制となりましたため、飯島委員から順に自己紹介をお願いしたいと思います。氏名と任命区分につきまして、一言お願いいたします。</p>
<p>飯島委員</p>	<p>市民委員の飯島といいます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>私は元教員で、その教員生活の中で、9年ほど生涯学習の仕事に携わりました。その経験をぜひ生かして、審議会で意見が言えたらと思い、市民委員になりました。</p>

伊藤委員	<p>どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>つくばシルバークラブ連合会の会長を務めております伊藤でございます。よろしくお願いたします。俗にいう老人会組織ですが、我々の活動は比較的元気な高齢者で活動しており、約6,500人の会員で構成しております。</p>
岡田委員	<p>岡田と申します。学識経験者という任命区分ですが、もともと学校の教員でした。つくば市には16年間、小学校2校、中学校3校務めさせていただきました。よろしくお願いいいたします。</p>
金川委員	<p>金川清治と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。コミュニティ・スクールの話が出ましたが、青少年育成という立場から申し上げますと、何はともあれ家庭を意識したコミュニティ・スクールというような位置付けをしてもらえればよいと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
木村委員	<p>改めまして皆さんこんにちは。木村清隆でございます。任命区分は資料に記載のとおりでございますけれども、市議会議員ということで、議会の中には常任委員会が4つあります。その中の文教福祉常任委員会の委員長を務めさせていただいております。そういった位置づけで出席をさせていただいております。</p> <p>皆様の忌憚のない御意見等、また、まとまったものを</p>

<p>佐野委員</p>	<p>市長に提示しながら、さらには議会に持ち帰っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>市民委員の佐野と申します。私は前職が放送局で、長く勤めておりました。ですから、この委員に応募したのも、生涯学習の活動について、その発信、普及とか啓発に向けて、それらをどのようにしたらいいかということについて、何らかの意見を言うことができるのではないかと思います、応募をしました。</p> <p>現在は、夫と一緒に「常民大学」という生涯学習のつどいを立ち上げ、交流センターで月に1回、洞峰公園に犬を連れて散歩している仲間が集って、「こんなことができないか。」ということで自発的にでき上がった集まりですが、そこでそれぞれの職業経験等をもとに、それぞれの専門分野について話して、学び合うといった活動をしております。</p> <p>それから聴覚障害者の人の情報保障ということに興味を持って、パソコン要約筆記等の活動をしております。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>NPO 法人ままとーんの鈴木と申します。よろしくお願ひいたします。子育て支援団体をやらせていただいております。実際に、子供が小学校4年生と1年生でおります。</p>

<p>関委員</p>	<p>市民委員の関瑞穂と申します。私は、放送大学という生涯学習の担当をしている大学で、教育課程編成等を担当させていただいていたことや、また、現職におきましても、リカレント教育等に携わらせていただいた経験及び、来年3月に定年退職する予定ですので、今後つくば市の生涯学習活動に色々と参加したいなという思いから今回応募させていただきました。色々と勉強させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。</p>
<p>武田委員</p>	<p>NPO フュージョン社会力創造パートナーズの武田と申します。茨城大学で、アントレプレナーシップ教育というチャレンジ精神を育むという教育をさせていただいております。</p> <p>つくば市が少しでも社会力溢れる町になるように努力していければと思っています。よろしくをお願いします。</p>
<p>田中委員</p>	<p>こんにちは、市民委員の田中と申します。私は20年前に、つくばに結婚で来まして、それ以来、来た当初は友人も誰もいなかった中で、春秋に開催されている公民館講座をたくさん利用させていただきまして、その中で、テニス、ヨガや大正琴等、好きなことをやっておりますが、3団体の責任者を19年、18年また5年とそれぞれ務めさせていただく中で、本当にたくさんのかげがえのない友人ができました。</p> <p>つくばは、全国から来られている方や、本当に多様性</p>

<p>長橋委員</p>	<p>があるところだと思います。その中で多くの方と色々な繋がりができることが、素晴らしいと思います。また、人と人が繋がるのが今後、ますます大事になってくると思い、応募させていただきました。よろしくお願いいたします。</p> <p>こんにちは、長橋と申します。令和2年度につくば市のPTA連絡協議会というところで会長を務めました。現在は顧問ということで、PTA連絡協議会に携わっておりまして、現職では今鹿島小学校と豊里中学校でPTA会長をやっております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>萩原委員</p>	<p>現在、つくば市のスポーツ協会の会長として、つくば市のスポーツ振興担当理事を仰せつかっています。前職は、筑波大学の教員でした。よろしくお願いいたします。</p>
<p>平野委員</p>	<p>要小学校の校長の平野と申します。よろしくお願いいたします。4月に着任しまして、自慢できる要小学校を目指して頑張っています。学校としての意見等いろいろお話ししたりして、委員会でできることを頑張っていきます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>船橋委員</p>	<p>つくば市福祉団体等連絡協議会副会長の船橋です。私自身は、知的障害のある人たちの18歳以降の学びの場、福祉型専攻科シャンティつくばを運営しています。主に障害のある人たちの生涯学習、これが余りにも遅れてい</p>

<p>星埜委員</p>	<p>ますので、これの格差是正に向けて、少しお役に立てればと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>星埜祥子でございます。乳幼児をお持ちのお父様お母様たちの交流の場、デビューの場を長年開いております。だんだんつくばも私が来た40年ぐらい前からものすごく変わってしまったので、そのことを頭の中に入れてながら、お役に立ちたいと考えています。よろしくお願いいたします。</p>
<p>松村委員</p>	<p>つくば市ボランティア連絡協議会世話人代表の松村と申します。人が好き、おせっかいが好きで、ボランティアを40年余りやってきました。</p> <p>主に高齢者とか、聴覚障害者の関連で活動しております。先ほど佐野委員がおっしゃったように、私も要約筆記に携わっておりまして、茨城県要約筆記者養成講座で指導しておりました。</p> <p>聴覚障害者も住みやすい街に、障害者、健常者、誰でも住みやすいやすいつくば市になるよう、市とも、ボランティアとも協力していきたいと考えています。よろしくお願いします。</p>
<p>溝上委員</p>	<p>こんにちは、筑波大学の溝上智恵子と申します。現在、筑波大学の副学長として11校ございます附属の学校群を担当しており、生涯教育から、初等中等教育までやっております。よろしくお願いいたします。</p>

<p>五十嵐市長</p>	<p>本当に多様なメンバーの皆さんで、心強いです。自己紹介ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、事務局であります教育局の出席者を紹介させていただきます。</p> <p>～教育局出席者を紹介～</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。大変恐れ入りますが、市長は公務のため、ここで退席とさせていただきます。</p> <p>それでは議事に入ります前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出方法につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第5条第2項に、会長及び副会長は、委員の互選によって定めるとあります。</p>
<p>金川委員</p>	<p>事務局案はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。事務局案の提出につきまして、ただいま金川委員から御発言をいただきました。</p> <p>事務局といたしましては、会長は武田委員、副会長は木村委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか？</p> <p>～委員一同拍手で承認～</p>

事務局	<p>ありがとうございました。会長は武田委員、そして木村委員が副会長に決定いたしました。武田会長、木村副会長、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>これから議事に進んで参りますが、議事の進行につきましては、同じく、つくば市生涯学習審議会条例第6条第2項に、会長は会議の議長となると定められておりますので、武田会長に議事を進めていただきたいと思います。それでは武田会長、そして木村副会長、席の御移動をお願いいたします。それでは武田会長お願いいたします。</p>
武田会長	<p>会長になりました武田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。2年間となりますけども、皆さんに御協力いただければと思っております。</p> <p>早速ですが議事に入りたいと思います。</p> <p>最初に議事1番目の「つくば市の生涯学習推進に関する沿革と第3次つくば市生涯学習推進基本計画の概要」について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>～資料1及びつくば市生涯学習推進基本計画の冊子を用いて説明を実施～</p>
武田会長	<p>ただいまの説明につきまして、意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>なお、本会議は、議事録の作成のため、マイクの音声</p>

<p>星埜委員</p>	<p>が直接録音されるシステムを使用しておりますので、発言される前には、マイクを御使用いただいて、発言の最初にお名前を仰ってください。ただいまの説明につきまして、いかがでしょうか。</p> <p>今回のこの計画の元となる教育大綱について言及がありました。出席者の中で、冊子をお持ちでない方もいらっしゃるかと思います。教育大綱の概要でもいいので、次回にでも配っていただけるとよろしいかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>御意見ありがとうございます。教育大綱を冊子で用意できるかどうかを確認いたしまして、可能であれば配布いたします。普通紙に出力した物での配布となってしまう可能性があることと、お時間をいただく可能性があることを御容赦ください。</p>
<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。教育大綱の冊子配布について、事務局は御対応ください。</p> <p>続きまして、議事2ということで、令和3年度事業進捗状況について、説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>議事の2番「第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和3年度の進捗状況」について、説明させていただきます。</p> <p>先ほどの議事に関する補足でございますが、星埜委員</p>

<p>武田会長</p>	<p>からおっしゃっていただいた教育大綱の冊子については、今日中にお配りができないか、確認させていただいております。可能であれば今日中にこの場で配らせていただきたいと思いますと思っております。</p> <p>～資料 2-1、2-2、2-3、2-4 を用いて説明を実施～</p> <p>では、ただいま事務局から御説明いただきました件につきまして、意見、或いは質問等ございましたら、よろしく願いいたします。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>「市民交流施設利便性向上事業」というタイトルに、私は真っ先に着目しました。これは誰でも気軽に利用できる施設づくりを行うということで、具体的に言うと、地域交流センターの維持管理を行うという文言がありますが、日頃地域交流センターを利用して思うことは、Wi-Fi がないということです。地域交流センターにインターネット設備がずっとなく、それを活動している人たちは、ものすごく不便に感じています。</p> <p>その都度、地域交流センターの受付の人にいつ整備されるか等の状況を聞きますが、色々な話があって、今年中に整備されるらしいという話から、今年は調査予算はついているけれども、それだけのことであり、今年度いっぱい整備は無理で、来年度に整備に取りかかることになるという説明を受けたこともあります。</p>

<p>事務局</p>	<p>そのことが、生涯学習推進基本計画のこれらの事務事業の中で、どこに位置付けられているのかがわかりませんので、そこを教えてください。</p> <p>御質問御意見ありがとうございます。まず状況として、昨年度の2回目の審議会でも同じく Wi-Fi に関する意見をいただいております、その後担当課にヒアリングを行い、今年の8月に、前任期の委員の皆さまには一度御報告をさせていただいておりますので、共有させていただきます。</p> <p>まず、地域交流センターの所管課は、文化芸術課というところですが、こちらにつきましては、設置要望や利用件数の多い三つの交流センター、竹園、並木、荃崎交流センターについては、Wi-Fi 環境を今年度中に整備予定であるという回答を得ております。</p> <p>さらに、佐野委員から御指摘いただきました部分につきましては、おっしゃられている通りで、上記の先行導入する3施設と吾妻交流センターを除いた13交流センターと、あとはつくば市の筑波山麓に「働く婦人の家」という施設がありますが、これらの施設について整備のための設計委託業務を今年度実施する予定であるという回答を得ております。</p> <p>また、今回配らせていただいた資料の中で、地域交流センターの Wi-Fi 環境整備について、どこに位置づいているのかということにつきましては、担当課から出ております事業実績・事業計画では、Wi-Fi に関する記</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

武田会長	<p>載はないという状況です。</p> <p>もし、委員からそういったことも事業計画として考えていくべきだということであれば、御意見として、担当課に、この会議が終わった後に、お伝えをさせていただいて、検討させていただくということになります。</p> <p>よろしいですか。</p>
佐野委員	<p>ということであれば、やはり行政の透明性や市民に対するわかりやすさを図る意味でも、せっかく「市民交流施設利便性向上事業」と銘打ってあって、その部分がなぜ盛り込まれてないのだろうと思います。Wi-Fi 整備に関して記載しておき、計画と進捗状況が報告されれば、市民は納得や了解ができると思いますのでぜひお願いいたします。</p>
事務局	<p>次の議事にも絡む部分でございますが、きちんと担当課にお伝えさせていただいて、調整を図って参りたいと考えております。</p>
武田会長	<p>ありがとうございました。他はいかがでしょうか。</p>
溝上委員	<p>溝上でございます。2点お伺いしたいのですが、まず、有効性と効率性の評価に基づいて、両方とも高ければ自動的に、総合評価がSになるということで、事務事業を担当する各課が、自己評価をした結果が資料2-4にな</p>

	<p>っているという理解でよろしいでしょうか。</p> <p>それを前提として、B 評価が妥当だと思うのもあれば、例えば指標数値に対する 80%の達成率であった時に、その評価が「中」だとか、「低」であるといったことは、どんな基準でお付けになったのか、つくば市として何か基準があるのであれば教えていただきたいということが1点目です。</p> <p>2点目に、今回の令和3年度の実績一覧を見ますと、事務事業の総合評価が C と自己評価したものではありません。</p> <p>基準が達成できなかったのは、全部新型コロナウイルス感染症の影響で、総合評価不能というような評価になっているように私には見えてしまいましたが、他にもきっと新型コロナウイルス感染症の影響で、達成できなかったところが多々あるんじゃないかと思いますが、それも自己評価不能であれば、主管課はそれを受け入れる形で判断されたのか教えていただければと思います。</p>
武田会長	<p>事務局より回答をお願いいたします。</p>
事務局	<p>御質問ありがとうございます。最初の有効性及び効率性に関する明確な、いわゆる何十パーセント達成したらこの評価といった明確な基準があるか、という部分につきましては、現在ない状況でございます。</p> <p>資料2-1に示した評価基準に基づき担当課で自己評価を行い、それを生涯学習推進課で集約して、全体の</p>

	<p>施策の方向性としての評価を出しています。</p> <p>また、もう一つの御質問として、評価が新型コロナウイルス感染症の影響で、いわゆる甘くなってしまうという御指摘と理解をいたしました。こちらにつきましては、資料2-1の有効性と効率性の「-」部分の※書きに書いてあるように、やはり新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい事業がたくさんある中で、どうしてもできなかったものについて、簡単に「低」という評価をするのではなく、その中でも努力をしたことを汲もうという、審議会での意見があり、議事録にも残っています。</p> <p>この評価に関する考え方を担当課としては採用し、「-」評価であったり、本来「-」とすべきものが「中」になったりしている状況であると感じています。</p>
武田会長	<p>溝上委員いかがですか。</p>
溝上委員	<p>例えば資料2-4の8ページを御覧いただきますと、中央図書館の調査研究支援事業は総合評価「-」になっています。確かに、職場体験学習受け入れやジュニア図書館員受入人数は、やっていませんが、他の事業は、実施できています。その状況で総合評価をできないとしている。</p> <p>ところが、その下の「多文化共生推進事業」を見ると、フットサル事業の参加外国人率がゼロだが、B評価となっていて、評価が余りにも揺れ動いています。自己評価</p>

	<p>だからいいというのがスタンスであれば、私がどうこう言っても仕様がありませんが、せつかく評価しているのですから、もう少し基準を明確にされたらよろしいのではないかと、今後の課題として申し上げたいと思います。</p>
<p>武田会長</p>	<p>はい。今の点はいかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。評価の揺れ動きというところについては、今後の課題としてありがたく拝聴させていただきます。少し付け加えさせていただくと、総合評価「－」になっているもので、いくつかの実績指標を含む事業について、実績指標の一部が0になっている、いわゆる事業としてやれなかったものが一部でも入っている場合は基本的には「－」とすると考えております。ただし、御指摘いただいた事業については、そこから外れてしまっており、おっしゃる通り評価が揺れてしまっておりますので、やはり明確な評価について検討をしたいと思います。</p>
<p>武田会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ちなみに、昨年度の審議会の中でも、令和2年度の事業の中で「低」評価が確か11個あり、とても多い状況でした。それはやはり新型コロナウイルス感染症の影響によるものであり、どうしてもやりたくてもできないという部分は、分けて考えた方がいいという議論から、「－」が出てきました。</p>

船橋委員	<p>おっしゃる通り評価には難しさがありますが、そういった背景も御承知おきいただきたいと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p> <p>質問というより、出された評価に関して補足させていただこうということで1点、あと質問で1点、2点発言します。</p> <p>資料2-4の5ページの「障害者の生涯学習関連事業」についてです。補足というのは、つくば市が頑張っているということ、ぜひ委員の皆さんにも知っていただきたいということです。国で、ここ数年、障害のある人たちの生涯学習に関して取り組んでいます。つくば市でも、もう3、4年前から熱心に取り組んで、私も協力しています。</p> <p>非常に残念であるのは新型コロナウイルス感染症の影響下で、例えばヨガ講座ができないとか、ウォークラリーができないとか、企画したものがいろいろできませんでした。ですが、ずっと積極的につくば市は取り組んでいまして、特に知的障害の人たちの生涯学習について努力しています。この分野は取り組むことが難しいです。聴覚障害者や、肢体不自由ということであれば、車椅子や手話といった形でコミュニケーション手段や移動手段を補えば事業ができますが、知的障害者の場合は、コミュニケーション、関わり方そのものが、一つの専門性を持つので、なかなか協力機関と一緒にないと事業実施が難しいと思います。</p>
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>武田会長</p>	<p>ですが、つくば市の生涯学習推進課の方々は、熱心に、年に何度も取り組もうとして頑張っていますので、皆様にぜひ知っていただきたいです。</p> <p>ただし、実施している取り組みの一般化をまだできていません。障害がある人達は多様ですから、誰でも入っていいという形での受け入れがまだできていません。もう少し時間はかかると思いますが、担当課も頑張っているということだけ、補足させてください。</p> <p>質問ですが、9ページで、「地域交流センター講座等事業」があります。これはかなり積極的に、年間講座98回ということで、すごいと思います。市内に17施設あるということですが、障害者を対象とした講座といったものはその中にありますか、或いは障害者に対するボランティア向け講座も含めて、どうであったかということをお伺いできればと思います。</p> <p>ありがとうございます。事務局から説明をよろしくお願いたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>御意見ありがとうございます。まずはお褒めいただき非常に嬉しいと感じております。</p> <p>御質問に関しては、文化芸術課所管事業であり、手元に講座の一覧がないため、即答できず恐縮ですが、会場にインターネット環境はありますので、職員で確認させていただいて、可能であれば、この会議中に回答し、不可能であれば後日回答ということにさせていただきます。</p>

<p>武田会長</p>	<p>いと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。他はいかがでしょうか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響下で、オンライン講座が普及していると思います。その効果として参加しやすくなったりといったことがあるとは思いますが、NPO法人ままとーんの子育て支援拠点でも、オンラインのイベントをさせてもらったり、あとは、子供の学校のオンライン授業を見させてもらっていても、オンラインの恩恵がありながら、その反面、対面に勝るものはやはりないということを強く感じております。</p> <p>多分、次の議事の令和4年度の事業計画で出てくるとは思いますが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて、どういった形で、オンラインと対面を取り扱っていくのか、対面は人と人の繋がりを作ることができることがやはりよさであると思いますので、お聞かせいただければと思います。</p>
<p>武田会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。では事務局からお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。他課の事業については、この場で、この事業はオンラインについてこれからどのように考えていくかといったことは、大変恐縮ですが即答できません。</p>

	<p>その中で、多くの事務事業を所管している生涯学習推進課についてお話させていただきます。人間学講座や、先ほど紹介させていただいた社会力講座などは、基本的には鈴木委員におっしゃっていただいた通り、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて、やはり対面の大切さということも鑑み、対面実施を原則としてやらせていただいているところであります。</p> <p>さらに、オンラインのよさである、離れていても参加できるといったメリットもありますので、特に社会力講座については、対面でもやりながら、オンラインも併用開催するといった形で取り組んでいる事業もあります。</p> <p>生涯学習推進課所管の事務事業については、そういう考え方、双方のいいところを取りながら事業を進めていきたいと考えています。</p>
鈴木委員	どうもありがとうございました。
武田会長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
長橋委員	<p>つくば市 PTA 連絡協議会の長橋です。資料 2-410 ページの「家庭教育学級」についてお話します。家庭教育学級は、参加した方から、参加してよかったという声が聞こえては来ますが、一方で、家庭教育学級に対して負担感とか義務感といったことを訴える保護者の方も結構多いのが実情です。</p> <p>学校で開催してやっている効果だと思いますが、参加</p>

<p>武田会長</p>	<p>人数が非常に多く、また、コロナ禍であってもオンラインの開催が増えているので、参加人数が増えていると予想しますが、その義務感がどうして強くなってしまふのかと、いろいろお話を聞いていますと、家庭教育学級の内容について、いろいろ指導を受ける中で、やりたいことができないという声が多いと思っています。</p> <p>それがよく表れているのが基本計画の冊子の46ページに、生涯学習に取り組んでみたい人の割合が、80%近くあって、生涯学習に満足している人の割合が令和元年度実績で33%程度ということは、やってみたいことと実際にその行われている生涯学習施策のところにとちょっと乖離があるのかなという感想を持ちました。</p> <p>小学校・中学校の保護者は非常に若い方が多く、また地域性もあります。さらに、ここに新しくつくば市に越してこられた方もいて、若い人は、生涯学習についてあまり意識が高くないかもしれませんが、先ほどあったように、対面で開催することによって、交流をもって、生涯学習に取り組んでいくということのきっかけになればいいのかなと思います。あまり締め付けをしないで、開催したいものをどんどん開催するという方向でやっていただけるといいと思います。これは意見です。</p> <p>今の件ですが、そうすると、何かやりたいけども、それは、ちょっと駄目だと言われるといった話があるということですか。</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

長橋委員	<p>3年か4年ぐらい前にそういったことがありました。家庭教育学級の内容は、こういう内容で開催してくださいということが示されるようになり、それに対する批判が結構寄せられている状況です。</p> <p>あとは、その負担感については、年度の後半になってくると、「やらなければいけない」という声や、あと1回開催しなければいけないといった声が聞こえてくるので、やりたいことをやるということは、楽しく開催すべきと思いますが、やらなきゃいけないとか、こういった内容でやらなければいけないということになってくると、負担感・義務感が増えてきてしまうのかなと思っています。</p>
武田会長	事務局からいかがですか。
事務局	<p>御意見ありがとうございます。長橋委員の御意見のとおりにありますが、過去に、その時々ニーズによった皆さんがやりたいこと、例えばヨガをしたり、足裏健康法の講座を開設したりといった趣味的な講座に偏っていたときもありました。ただし、趣味に関する講座は、他部局や一般が主催する講座もあるというところを鑑みまして、生涯学習推進課が所属する教育局では、学びを大切にすることで、保護者に学んでいただくといった趣旨の講座を展開しているというところがございますので、御承知おきいただければと思っております。また、いただいた御意見として会議後に、課内で共有をしてい</p>

<p>長橋委員</p>	<p>きます。ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございます。現在は、希望があればそのように開催できるということによろしいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>家庭教育学級については、講座の柱として、五つ掲げてその中で実施していただいています。</p> <p>その中には、ぜひ皆さんに知っていただきたい人権課題といった内容や、いわゆる広範の社会教育の部分として、伝統文化に親しむといった幅広い部分もあります。保護者のニーズと、つくば市として是非知っていただきたい部分との折り合いを合わせるべく、社会教育指導員と家庭教育学級の学級生との間で進めているところです。</p> <p>確かに、今までの家庭教育学級を経験された方からすると、どういうふうに家庭教育学級の講座を考えていったらいいのだろうと、難しい部分や、負担感が生じているところであろうかと思います。</p> <p>そういった部分を、社会教育指導員や、我々生涯学習推進課の職員も話を聞きながら、こんな講座はどうでしょうかなど、なるべく負担感が少なく、かつ多くの保護者が参加でき、そして充実した学びができる進め方をしたいと考えています。</p> <p>我々も市民の皆さまからいただいたお金を使って事業をやらせていただく責務もありますので、色々なバランスを取っていきたいと考えています。</p>

	<p>加えて、負担に関して、いろいろ書類を書いていたいたり、学級に関する事項を決めていただいたり、学級生に周知いただいたりといった形でかなり多い部分もあると認識しております。できる限り軽減していく手段をどんどん考えていきたいと考えております。よろしくお願いたします。</p>
武田会長	<p>よろしいですか。佐野委員どうぞ。</p>
佐野委員	<p>先ほど行った質問にも少し関連しますが、新型コロナウイルス感染症によって実施できなかったという評価が並んでいますが、新型コロナウイルス感染症の向かい風が強いという状況は、1年前でも、令和3年度の計画段階でも同じだったと思います。</p> <p>そうすると、新型コロナウイルス感染症の影響でできませんでしたというだけでは、計画の評価として適切ではないと思います。私は、前回の計画段階時には委員ではありませんので、今更感があることを申し上げますが、新型コロナウイルス感染症によって対面のイベントが難しいということであれば、それをいかにしてITによって補うのかということ、どうサポートするかということ、計画に盛り込むべきだったのではないかと思います。</p> <p>具体的には、主催者側が色々なITを活用して、オンラインでイベントをしようとするときに、オンラインの体制を組むことについてのサポートを行うとか、高齢者</p>

	<p>になかなか IT リテラシーがない傾向にあるので、参加することが難しいわけですが、なるべく多くの高齢者の参加を得られる、例えばオンラインで自宅と会場を結んで歌とか体操といった繋がり活動ができるようにするべきだと思います。</p> <p>まずは、その高齢者に対して、IT のハードルを下げる取り組みとか、そういうことを構想して、IT によって少しでも補完できるようにするべきであったと思います。</p> <p>今回の事業評価としては、そういうことも事業として構想すべきであったということまで盛り込むのであれば、IT で新型コロナウイルス感染症によってできませんでしたということの一点張りで評価を得るといふことの不足を補えるのではないかと思います、提案する次第です。</p> <p>それから、障害者の学びについてですが、障害者は、私が日頃一緒に活動させていただいている聴覚障害者の人も含めて、何らかの合理的な配慮がないと、なかなか生涯学習の集まりに参加しにくいということがあります。</p> <p>生涯学習における、障害者に対する合理的な配慮のガイドラインというか、サポートする仕組みについて何らかのものがあってもいいのではないかと思います。</p> <p>それは、次年度の計画において反映されるか、もしくは、もう少し長いストロークで考えなければならないことなのかもわかりませんが、例えば、やさしい日本語を</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>使うとか、それから会場に車椅子等の肢体不自由の方が参加する場合には、そのサポートにあたるスタッフを用意するとか、いろいろな工夫が考えられると思います。</p> <p>そういうことを例示しながら、こんな方法がありますよ、こんな手段がありますよと、主催者側に情報提供をして、より障害者の方が、生涯学習に取り組みやすい環境を整えていただけるといいと思います。</p> <p>それからあともう一つは、資料2-4 6ページに記載されている手話奉仕員養成講座が、生涯学習の事業関連事業として挙げられていることです。</p> <p>私は、手話奉仕員養成講座、この中のいくつかに参加して、奉仕員登録は行っていますが、これが生涯学習に位置付けられているということを知って、ちょっと驚きました。それは、奉仕員は生涯学習の問題として要請されるわけではなく、実際に障害者のために奉仕するために要請されているからです。</p> <p>それからもう一つは、社会福祉協議会で行っているような福祉教室、これがどこに位置付けられるかということがよくわからず、そこについても明確な記載がないことを残念に思いました。というのは、福祉、多様性を理解ということと言うと、色々な人がいるということ、まず学齢期の段階で、理解したり、体験したりする機会がすごく必要だと思います。そこをどう喚起するかっていうことが、具体的にこの生涯学習の中に位置付けていただいて、明確に書かれていると、とても素敵だなと思いました。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事務局	<p>御意見ありがとうございます。まず1点目の、新型コロナウイルス感染症の影響が予見されており、それを踏まえた内容にすべきではなかったのかという御意見につきましては、十分に検討していくことが必要とさせていただきますと思います。</p> <p>ただし、実際問題として、例えば、この1月に行われた成人式ですと、3日前にPCR検査とか、抗原検査を初めて茨城県から要請されて実施したりと、我々としてもいつ何が起こるかわからないという状況で事業を実施している状況です。現在は、緊急事態宣言等が出た状況であっても、一定の基準を持てばイベントは開催できるとルールも変わりましたので、そういった中で様々な事業をさせていただいています。しかし、今年のまつりつくばも記憶に新しいかと思いますが、やはり状況がなかなか読めず、我々としても2方面作戦、3方面作戦と用意しながらも、事業を行うことが難しい状況です。</p> <p>もちろん市役所は、感染対策を真っ先にやらなければならない立場です。その中で、一部オンライン講座ということで、つくば人間学講座等は、オンライン配信を同時に実施する形で、講座をつくばカピオで実施させていただいたということもあります。このようにいろいろな形で、より充実した、状況に応じて対応を切り換えていく体制を、まだまだ市役所として弱い部分ではあるかと思いますが、この計画の中で強化していきたいというふうに考えております。</p>
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>2番目の、支援のガイドラインの作成などの仕組みづくりをもっと強化すべきではないのかという御意見ですが、こちらにつきましては、計画の中にも「生涯学習ワンストップ対応事業」の中に、指針の作成を位置づけています。先ほどもお話があったとおり、障害者のための生涯学習について事業を進めさせていただいていますが、我々も試行錯誤しながらどのような形が望ましいのかということを見つけていっている段階です。</p> <p>これから、いろいろな団体と関わっていく中で御意見を伺いながら、はっきりとした指針の作成とを進めていければというふうに思います。</p> <p>また、国等でも例えば、最近のニュースでいえば、博物館等の施設で様々な障害を抱えていらっしゃる方に関してのガイドラインが作成されたといった情報も入ってきております。積極的に私達も情報収集していきながら、活動に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>3点目の、手話奉仕員講座等も含めた、計画に入っている事業、入っていない事業についての部分の整理については、第3次つくば市生涯学習推進基本計画は基本的に計画に位置付ける事業を絞り込んでいきます。ただし、その他の事業を全くやらないというわけではなく、その他の事業も進めていく、特に計画に位置付けて強化していくのはこの部分ですという考え方で策定させていただいたものです。</p> <p>前回の計画が、位置づけ事業が非常に多く、具体的に細かく書き込まれていましたが、今回は抽象度がやや高</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>いこともあり、網羅的でない部分があるという御指摘については、申し訳ございませんが、そういった考え方で計画させていただいたということを御理解いただきたいと思います。</p> <p>手話奉仕員講座に関しても、生涯学習の考え方そのものにも繋がってきますが、生涯を通じた学びという観点で、手話や、点訳を位置付けることを担当課と相談し、入れています。</p> <p>もちろん、障害者への奉仕は純粋なボランティア精神の発露と承知をしておるところではございますが、そういった学びをしていただき、より活躍していただく人材を育成することは、社会力を持った人材の育成という生涯学習の結果を生かした活動につながるという意味で、手話奉仕員活動も重要な活動であると、話し合っ入れてさせていただいておりますので御理解いただければと思います。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。</p>
事務局	<p>IT に関するサポートについては、つくば市で行われているものもあると記憶しています。スーパーシティ構想の中で、高齢者のデジタルディバイドが一つ課題として挙げられていて、インターネットで今検索をかけても、つまびらかに説明できる資料が見つかりませんが、アプローチしている事例はありますので、審議会の後に確認させていただいて、情報提供させ</p>

	<p>ていただきます。こういった情報を共有していくことは、今後の議論のためにも大切なことだと思いますので、お時間をいただければと思います。</p> <p>また、個人的な意見も含まれますが、奉仕員講座の生涯学習としての位置づけを考えたときに、学ぶ人、そしてそれを学ぶのをサポートする人がいる中で、サポートする人がそれに資する講座を受けること自体も一つの生涯学習ではないかという見方もできます。あと、そのような人を育てれば、生涯学習が全体として進むという見方もできると思います。</p> <p>こういったいわゆるサポートする側の事業についても、福祉の部門と調整させていただいて、生涯学習推進に資する事業だということに入れさせていただいております。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。かなり時間が押していますので、次の議事3の令和4年度事業計画についてに進ませさせていただいて、併せて意見交換をまたやっていければと思います。御理解ください。</p> <p>では、第3次つくば市生涯学習推進基本計画の令和4年度の事業計画について、事務局から説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>～資料3を使用して説明を実施～</p>
武田会長	<p>ただいまの説明について、意見質問をお願いします。</p>

萩原委員

つくば市スポーツ協会の会長、そして現在、つくば市スポーツ振興担当理事という立場でこの発言をさせていただきながら申し上げます。回答は要りません、提言だと思って聞いてください。

資料3 11 ページに「学校施設開放事業」があります。これについては、資料2-4でも高い評価で、A評価をされています。厳しい言い方をすると、この評価は行政側の評価で、参加した皆さんも同じ評価をしているかどうかです。残念ながらグラウンドを使っている子供たちや、大人たちの多くは、よかったとは思っていないのではないのでしょうか。

この厳しい財政状況の中で何をするのか、そういうことも含めて提言をさせていただきます。稼働率を上げること、利用率を上げることとセットに、施設のメンテナンスとか、コントロールをすることも含めておいていただきたい。

稼働率が高まり、利用率が高まれば高まるほど、物は痛みます。グラウンドも体育館も、維持管理をセットにして考えておいていただかなければ、利用者は満足できないと思います。

生涯学習の究極の目的は、一人一人が自立をするために、スポーツをしたり、文化活動を営んだりすることなのではないのでしょうか。行政はそのきっかけを作っています。そうならば、その環境づくりにも、アフターサービスも併せて考えなければいけないと思います。ほった

	<p>らかしにしたら駄目じゃないでしょうか。</p> <p>つくば市の財政状況も仕組みも、市役所職員の仕事のやり方もわかっている今の私の立場で、あえて申し上げたい。つくばが、それをセットにして考えることによって、生涯学習が実を結んでいくのではないのでしょうか。</p> <p>これは別にスポーツだけの話ではありません。文化活動の場面でも、共通しています。そこをぜひ勘案していただき、生涯学習を進めていただければありがたいと思います。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。</p>
松村委員	<p>今のことに関してですが、より具体的に申し上げますと、体育館の利用は10名以上でないと利用できないという規則があります。</p> <p>荃崎地域は特に高齢化してしまっていて、1人欠け2人欠けで10名集めるのが大変だという状況で、でも元気な高齢者5名はいる、7名はいるっていう団体はあります。ずっと長らく使わせていただいていますので、この10名以上での利用についても、柔軟に考えていただけたらと利用者の方から意見を伺いました、</p>
武田会長	<p>一旦事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>学校施設等の開放事業について2人の委員から意見をいただきましてありがとうございました。こちらにつ</p>

<p>武田会長</p>	<p>きましては、担当課へ報告の上、今後検討させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>田中委員</p>	<p>ちょっと今の意見に関連していますが、資料3の1ページ目に、地域交流センターの維持管理を行うということがありましたが、今つくば市には、地域交流センターが17ヶ所あり、中心部はフルに稼働していて、周辺部はそうでもないとかといった状況があります。</p> <p>今つくば市がつくばエクスプレス沿線で人口が変わってきています。私の知り合いもみどりのとか研究学園とか、お子さんを頼ってくる高齢者の方とかもいて、そういった地域に地域交流センターそれに類するものがないということや、また、施設が老朽化をしまして、それこそ施設に階段しかないというような場所もあり、今は階段を自分の足で上がっているけど、5年も経ったら上がれなくなるといった切実な問題も、よく耳にいたします。</p> <p>市の財政への影響等、大きな課題だと思いますが、そういう今、発展している地域で全く地域交流センターがないことなど、将来的な展望を持って考えていくということが、生涯学習にみんなが参加できるように、また、身体に障害のある方も今のままの施設ではやっぱり使えないと思いますので、必要だと思います。</p>

武田会長	<p>ありがとうございます。松村委員、引き続きどうぞ。</p>
松村委員	<p>基本に帰ってということになりますが、第3次つくば市生涯学習推進基本計画の5ページに、令和6年度にアンケート調査を実施し、本計画の評価及び次期計画の策定の基礎資料とする予定とあります。ただし、22ページの2019年度のアンケート結果は、34.2%の有効回収率となっています。</p> <p>令和6年度に、アンケートを実施するにあたって、この34.2%という回収率を上げるために、どんな工夫をされる予定でしょうか。この34.2%の回収率では多くの市民の声が反映されているとは思えません。</p> <p>アンケートは取り扱いが非常に難しく、取るのは簡単ですが設問の設定や、集計などがとても難しいです。多くの市民の声を反映させるために、例えば、市の公共施設を利用している方に、講座終了後に、アンケートに回答してもらうとか、わざわざ郵送料払って、無差別に郵送するといった方法ではなく、確実に利用者の声を取り込むためにも、そのような一つの方法があるのではないかと考えて、提案したいと思います。</p> <p>それから障害者の生涯学習について、前回も申し上げたと思いますが、できれば、各々の障害に特化した講座を開いて欲しいと思っています。</p> <p>健聴者や、健常者の中に入って参加する形式では、なかなか参加しづらいです。聴覚障害者は聴覚障害者、その合理的配慮した上での講座、そうすると、手話奉仕員</p>

	<p>講座を卒業した方がサポートに回れるなど、いろいろなネットワークができていくと思います。</p> <p>車椅子体験講座とか、シニア体験講座を受講した方が、そこにボランティアとして携わっていくということもできていくと思うので、そのあたりも、障害はたくさん種類があるので大変かと思いますが、御一考願いたいと思います。以上です。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。溝上委員どうぞ。</p>
溝上委員	<p>松村委員の御意見のところ、1点だけ申し上げます。まず、第3次つくば市生涯学習推進基本計画22ページの生涯学習に関する市民意識調査ですが、回収率34.2%を低いとおっしゃいましたが、郵送でこれだけ返ってきているのは、高いと言えます。通常、郵送方式のアンケート調査でこれほどは返ってきません。この調査は、無作為抽出というところに意味のある市民意識調査です。ここに、施設利用者を混ぜることは、施設を利用しているというバイアスがかかってしまうので、それは分けてお考えいただいた方が、よろしいかと思います。2つを一緒にしない方がいいということです。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。事務局の方からお願いします。</p>
事務局	<p>御意見をいただきましてありがとうございます。萩原</p>

事務局	<p>委員は、以前、生涯学習という意味で、過去も現在も未来もを含めて、今後も議論して欲しいとお話ししてください、貴重な御意見をいただいたと感じております。</p> <p>また、第2次つくば市生涯学習推進基本計画では、すでに多様化する市民ニーズへの対応と、そして人と人との絆や地域の絆の構築と、課題解決に向けた取り組みがこれから生涯学習の推進には重要と位置づけ、それをさらに進めて現在の3次計画では、「社会力」に重点を置いて進めているところでありますので、今後も皆様の御意見をいただきまして、つくば市生涯学習推進本部会議に報告していきたいと思っております。</p> <p>田中委員からいただいた意見、そして萩原委員からいただいた意見については、先ほど課長補佐の色川から申し上げた通りでございます。</p> <p>また、松村委員からいただきましたアンケートについては、溝上委員にも補足いただいたところですが、アンケートをいろいろな手段を組み合わせることは、考え方として持つべきだと思います。今後、次期計画を考えていくにあたってのアンケートは、委員の皆様にお諮りしながら作っていく部分だと思いますので、ぜひ御協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>また、障害者の学習に関して、いろいろな障害を持った方に特化した講座という、健常者に入れるという発想ではなくという形式の講座については、今年度の障害者のための生涯学習事業計画において、障害者の自発性と</p>
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>という言葉を使いましたが、基本的に知的障害の方々で実施する事業、健常者に混ぜてという形ではなく、まさに障害者のための生涯学習事業としてやれるよう取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>その他の分野の発展という部分については、今後の課題だと思っております。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。時間が迫っておりますので、手短かにお願いいたします。</p>
関委員	<p>初めての市民委員ということで昨日この資料を2時間ほどゆっくり読ませていただきました。すごく我々市民に、市役所の職員はじめ、関連した事業者の方がいろいろとやっていただいております、感謝申し上げます。</p> <p>そういった中で、細かいことで申し訳ありませんが、資料3 12ページの、「つくば市OB人材活動支援事業」について、令和3年度は、活動登録者の活動回数6回が達成状況です。それに対して、令和4年度が700回という目標になっています。令和3年度も、目標値600回に対して実績が6回で、総合評価がBになっていますこういった状況で、令和4年度の700回という目標値の立て方がちょっと理解できませんでした。</p> <p>もう1点は、資料3の15ページの「地区リーダー勉強会事業」ですが、令和3年度は1回開催で、100人程度という目標設定の中で、中止になりましたとなっております「一」評価となっています。その中で、令和4年度は</p>

<p>武田会長</p>	<p>再度1回やって参加者目標は100人となっている。実績の測定が0か1かという部分が、計画としていいのかどうか疑問です。</p> <p>最後、特に事務局からコメントはいりませんが、全体を見ますと「誰もが、自分らしく生きるための生涯学習」という言葉の「誰もが」という中に、視点としてLGBTQといったジェンダーの視点が抜けているなど思っていました。どこかでそういったことも、考えていただければと思います。</p> <p>ありがとうございます。今の点につきまして事務局から説明お願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>関委員ありがとうございます。まず、OB人材の活用事業というところで、担当課への確認も要するところではございますが、計画の主管課としてこれを見たときにこういった意図だろうと思うところとしましては、登録者活動回数6回でのB評価というところについては、資料2-1に書いてある、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたけれども工夫してできたものは「中」にするという部分で、この評価が下されているという認識でございます。ただし、確認はさせていただきたいと思います。</p> <p>また、併せて、目標値の700回というところについても確認は要しますけれども、資料の説明の流れを見ると、令和3年度にオンラインでできる体制が整い、令和</p>

<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>武田会長</p> <p>事務局</p>	<p>4年度はその体制をもってしてオンラインで活動して、令和3年度の目標並みまで持っていきたいというメッセージというふうに理解をして、会議にかけさせていただいています。こちら確認の上、またお伝えさせていただきたいと思います。</p> <p>また、地区リーダーの勉強会事業については、こちらは今年度の開催の考え方等、0か1かの1にするための工夫があるのかといったところを確認させていただいて、後日の回答というふうにさせていただければ幸いです。</p> <p>もう1点補足します、計画に位置付ける事業数を多くしてしまいますと、第2次計画では130幾つぐらいありましたが、やはり網羅的すぎて、進捗状況の確認が全体としてしづらいつの意見がありました。</p> <p>それで、今回の第3次計画は、社会力を高める事業に絞り込んだ方がいいではないかという議論の流れの結果、完成した経緯があります。</p> <p>そういった点で、LGBTQがない等の掲載されている内容に関する御意見はあるかと思いますが、全庁的には、事業は取り組んでおりますので御理解いただければと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>LGBTQの件ですが、この計画に一番近いところとして</p>
----------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>は、資料3 6ページに、「男女共同参画啓発事業」という事業が位置付けられています。その中で男女共同参画セミナーという業務が今年計画で位置付けられています。今インターネットで詳細にこのセミナーの内容を見たところ、今年の10月に、まさにLGBTに関するセミナーが計画されております。本文には表現されていませんけれども、もちろん、LGBTQを意識した事業を展開していくという内容になっております。</p> <p>実績をご報告させていただく分には今回の意見を踏まえて、御報告できるような形にすると、委員の意見に対する回答もできるのかなと思っております。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。最後の議事4に進ませていただきます。少し時間をオーバーいたしますが御容赦ください。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>～資料4を使用して説明を実施～</p>
武田会長	<p>ただいまの件につきまして御意見御質問等ございますでしょうか。</p>
船橋委員	<p>1点だけ意見します。コミュニティー、それは地域ですが、地域の中の学校、と大変良い事業だと思います。その地域の中に、特別支援学校に通学しているお子さんがいるということを配慮してください。特別支援学校に</p>

	<p>在籍する子どもも地域の子なのです。コミュニティ・スクールを強化することが、障害のある人たちを排除することにつながらないようにお願いしたいなと思います。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>貴重な意見をいただきありがとうございます。以上です。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
長橋委員	<p>地域や保護者との関わりという団体の代表としては、私に関わっている PTA や、あと学校評議会、そういった団体とコミュニティ・スクールの関わり合いはどういう感じになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>この学校運営協議会の中に委員の方々が選ばれますが、例えば PTA の代表の方が、委員として参加をしていただくといった関わり合いが出てきます。</p> <p>委員の方の選出については、学校、それと地域の実態等に関わりますが、基本的に推薦は学校長からとなります。そういった方々に入っていただいて、学校運営について学校運営協議会でお話していただいたものを、例えば PTA に戻って共有していただいて、議論を生かしながら、反映させながらコミュニティ・スクールを進めていくということになります。</p>

<p>武田会長</p>	<p>もう一点、学校評議員制度に関しては、今後つくば市では、学校運営協議会に移行していきますので、特定の段階で、実施しないということになりますので、御承知おきをお願いします。</p> <p>ありがとうございます。その他いかがでしょうか。</p> <p>以上をもちまして、本日予定された議事は、審議終了とさせていただきます。</p> <p>不慣れな司会で、少し時間が押してしまいましたが、御協力いただきありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>武田会長、議事進行ありがとうございました。次第の7に移らせていただきます。「その他」といたしまして、事務局から御案内をさせていただきます。チラシを1枚お手元にお配りさせていただいているかと存じます。</p> <p>こちらは、第三次つくば市生涯学習推進基本計画の中で施策の柱として位置付けております社会力について、社会力を養成するための講座を現在開催しております。こちらにつきまして、事務局より説明させていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回の会議の中でも出てきました社会力コーディネーター養成講座についてですが、一番直近で開催されるもので第2回が8月28日でございます。</p> <p>会場は、豊里交流センターです。今回の講師が、市民</p>

事務局	<p>活動、NPO といった界限では、全国トップランナーと っております富永一夫さん、松原明さんを講師に呼んで 実施をいたします。</p> <p>今回のスポット参加でも結構です。講座の参加申込締 め切りを延長して受け付けておりますので、ぜひ今後の この会議にも生きてくるものだと思いますので、御興味 のある委員の方には、御参加をいただきたいと思いま す。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>こちらの講座につきましては、本日お集まりの委員の 皆様にもぜひ参加していただきたいと考えております ので、もし御興味がおありでしたら、事務局まで御連絡 をお願いいたします。</p> <p>審議会の後に何か質問が改めてあった場合は、メール や、お電話で結構です。事務局までお寄せくださいま すようよろしく願いいたします。</p> <p>もう1点が、次回の審議会の開催時期についてござ います。つくば市生涯学習推進本部会議の開催を経て開 催となっております、来年の2月頃を予定してござい ますので、その際はどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和4年度第1回生涯学 習審議会を閉会いたします。なお本会議の会議録につ きましては、事務局で作成の上、委員の皆様を確認の依頼 をさせていただき予定しておりますので、またよろしくお 願いいたします。本日は大変ありがとうございました。</p>
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和4年度第1回つくば市生涯学習審議会 次 第

日時 令和4年(2022年)8月19日(金)

午後2時から午後4時まで

会場 つくば市役所 2階 会議室201

- 1 開 会
- 2 任命書交付
- 3 市長挨拶
- 4 自己紹介
- 5 会長及び副会長選出
- 6 議事
 - (1) つくば市の生涯学習推進に関する沿革と第3次つくば市生涯学習推進基本計画の概要について
 - (2) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和3年度進捗状況について
 - (3) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和4年度事業計画について
 - (4) コミュニティ・スクールの概要について(説明)
- 7 その他
- 8 閉会

※配布資料一覧は裏面に記載

【配布資料一覧】

- 資料 1 つくば市の生涯学習推進に関する沿革と第3次つくば市生涯学習推進計画の概要について
- 資料 2-1 第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価基準
- 資料 2-2 令和3年度評価のまとめ
- 資料 2-3 令和3年度事務事業評価一覧
- 資料 2-4 令和3年度事務事業進捗状況調査票
- 資料 3 令和4年度事務事業進捗状況調査票
- 資料 4 コミュニティ・スクールの概要

- 参考資料 つくば市生涯学習推進基本計画
つくば市生涯学習審議会条例
つくば市生涯学習審議会委員名簿



第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価基準

資料2-1

①方向性ごとの達成状況と課題

評価者：生涯学習推進課

方法：方向性ごとに、達成状況と課題を抽出

評価：A 計画以上に進んでいる

B 計画どおり進んでいる

C 計画より遅れている

— 評価することができない

②事務事業評価

事務事業評価は、つくば市役所の全課が自分の課で行っているすべての事務事業を評価しているものです。

有効性と効率性を評価した後、その組み合わせで総合評価(SからEまでの6段階)で評価します。

なお、特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)により、総合評価を行わない場合は、「—」で表記します。

■有効性

事業を実施した結果、成果の達成度合いを年度当初と比較するもの

高…年度当初の目標値と比較し、成果が大きく向上、又は高水準を維持

中…年度当初の目標値と比較し、同程度の成果

低…年度当初の目標値と比較し、成果が大きく低下、又は低水準を維持

—…特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)が生じたため、
年度当初の目標値と比較することができない

※特別な事情により、事業が実施できなかった場合は、「—」と表記してください。

事業内容を工夫して実施できた場合は、「中」と表記してください。

■効率性

得られた成果に対して、費やした事業費や人件費(=費用対効果)を評価するもの

高…年度当初の目標値と比較し、費用対効果が大きく向上、又は高水準を維持

中…年度当初の目標値と比較し、同程度の費用対効果

低…年度当初の目標値と比較し、費用対効果が大きく低下、又は低水準を維持

—…特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)が生じたため、
年度当初の目標値と評価することができない

※特別な事情により、事業が実施できなかった場合は、「—」と表記

事業内容を工夫して費用対効果を評価できた場合は、「中」と表記

■総合評価

有効性/効率性

高/高 S成果・費用対効果を維持して継続実施

高/中 A成果を維持して継続実施

中/高 A費用対効果を維持して継続実施

中/中 B成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施

高/低 C成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り

低/高 C費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り

中/低 D費用対効果を向上させる必要有り

低/中 D成果を向上させる必要有り

低/低 E事業の抜本的な見直しの必要有り

—/— —総合評価は行わない

※有効性及び効率性の両方又はいずれかに「—」がある場合は、特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)を考慮して総合評価は行いません。

第3次つくば市生涯学習推進基本計画 令和3年度評価のまとめ

資料2-2

① 「施策の方向性」に対する評価

年度	A	B	C
R3	1	6	1
	施設の利便性の向上	参加機会の拡充	生涯学習の相談、情報の提供
		参加への障壁をなくす取組	
		主体的に活動に参加できる取組	
		地域で学ぶきっかけ作り	
		地域で学びつづける仕組み作り	
	実践できる人材の育成		

② 各事務事業に対する評価

年度	評価事業数	有効性／効率性 総合評価									
		高/高 S	高/中 A	中/高 A	中/中 B	高/低 C	低/高 C	中/低 D	低/中 D	低/低 E	—/— —
		成果・費用対効果を維持して継続実施	成果を維持して継続実施	費用対効果を維持して継続実施	成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り	費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り	費用対効果を向上させる必要有り	成果を向上させる必要有り	事業の抜本的な見直しの必要有り	総合評価は行わない ※有効性／効率性いづれかが「—」であった場合は、総合評価は「—」とする。
R3	34	2	3	1	20	0	0	0	3	0	5

令和3年度(2021年度)事務事業評価一覧

資料2-3

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	頁 (資料2-4)	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度事務事業評価		
								有効性	効率性	総合評価
多様な学びの実現										
1-(1)-ア	施設の利便性の向上	「施設の利用」は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける部分であるが、予防対策や事業の創意工夫を行うことで、一定の実績を上げ、特に地域交流センターについては目標値を大きく上回る実績を上げており、計画以上に施策が進んでいると評価することができる。	A	1	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館利便性向上事業	中	中	B
1-(1)-ア					誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課	市民交流施設利便性向上事業	高	中	A
1-(1)-イ	参加機会の拡充	民間企業等での生涯学習講座の実施促進については、つくば市内の企業や研究機関のニーズの把握の段階にあり、実施数という評価指標から低い事業評価となったが、その他の2事業は目標値に近い、もしくは高い実績となり、十分な有効性をあげており、施策全体としては計画どおり生涯学習に対する参加機会の拡充を図ることができていると評価する。 オンラインによる事業の展開は、今後も社会からの要請も高いことが想定されるが、配信に要する人的・物的コストは高いと考えられ、効率性とバランスをとることが重要になると考えられる。	B	2	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業での生涯学習事業	低	中	D
1-(1)-イ					ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンラインによる生涯学習講座事業	高	中	A
1-(1)-イ					夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課	地域交流センター活用事業	中	中	B
1-(1)-ウ	生涯学習の相談・情報の提供	2事業とも目標値に届かない結果となった。「生涯学習」という幅広い分野をカバーする領域に対して、市民にとってわかりやすく、利用しやすい相談業務や情報発信をおこなうためには、その基盤となるホームページや周知に要する資料等の媒体を整理・準備する必要があり、丁寧な事業及び施策の進行を行っていく必要がある。	C	3	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	生涯学習相談事業	低	中	D
1-(1)-ウ					広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	情報収集・発信事業	低	中	D

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	頁 (資料2-4)	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
								有効性	効率性	総合評価
誰一人取り残さない生涯学習										
1-(2)-ア	参加への障壁をなくす 取組	全ての事業において、オンライン形式での事業実施に積極的に取り組んだ結果、十分な実績をあげること成功している。 特に「外国人市民向け情報発信・講座事業」においては、オンライン形式にすることにより、参加できる人の幅が広がったという効果を発揮することにもつながっており、計画どおり施策が進んでいると評価できる。	B	4	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	生涯学習ワンストップ 対応事業	中	中	B
1-(2)-ア				4	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	広報力向上事業	中	中	B
1-(2)-ア				5	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際交流室	外国人市民向け 情報発信・講座事業	高	高	S
1-(2)-イ	主体的に活動に参加 できる取組	スポーツや障害者を対象とした事業は、オンライン形式への切り替えは難しい分野ではあるものの、日程や内容の変更などの柔軟な対応に取り組むことで、一定の実績を上げること成功しており、計画どおり施策が進んでいると評価できる。 さらに、事業の見直し・取組への反映という観点も事業評価シートに多く盛り込まれていた(障害者の自発性を取り入れた事業展開の検討、アンケート調査による新しい方策の検討、周知の強化)。今後の施策の進捗にも期待ができる状態である。	B	5	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	障害者の 生涯学習関連事業	中	中	B
1-(2)-イ				6	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画啓発事業	中	中	B
1-(2)-イ				6	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ推進事業	中	中	B
1-(2)-イ				6	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害福祉課	生涯学習関連事業 (障害のある人や支援者対象)	-	中	-

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	頁 (資料2-4)	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
								有効性	効率性	総合評価
地域で学び合う生涯学習										
2-(1)-ア	地域で学ぶきっかけ作り	一部事業については、オンラインへの切り替えが難しい事業(緊急事態宣言による図書館の臨時休館に起因するイベント中止)もあったが、施策に含まれる多くの事業は、オンライン形式を取り入れることで、多くの事業の指標として位置付けられた講座の開催数や参加者数について一定の実績をあげることができており、計画どおり施策が進んでいると評価できる。 また、事業評価の理由として、他団体との連携による効果的な講座運営やアンケート調査の好結果なども挙げられており、魅力的な事業展開ができていると考えられる。	B	7	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	つくば人間学講座	中	中	B
2-(1)-ア				7	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	文化財展示講座事業	中	中	B
2-(1)-ア				8	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	調査・研究支援事業	-	-	-
2-(1)-ア				8	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際交流室	多文化共生推進事業	中	中	B
2-(1)-ア				9	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	スポーツ教室事業	中	中	B
2-(1)-ア				9	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課	地域交流センター講座等事業	高	中	A
2-(1)-ア				9	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業	中	中	B

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	頁 (資料2-4)	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
								有効性	効率性	総合評価
2-(1)-イ	地域で学びつづける 仕組み作り	<p>事業評価において、目標値をおおむね達成している事業が多く、計画どおりに進んでいると評価をおこなった。</p> <p>高い成果を挙げた事業については、講座を動画配信形式に切り替えて積極的に展開したこと(家庭教育学級)や、施設を利用する団体に密を避けて利用してもらうためのガイドライン作成や団体間の調整回数を増やした(学校施設開放)等の丁寧な事業運営に努めたことが成果の要因として挙げられる。</p> <p>一方、課題や今後の展開については、人材の意欲・意識を低下させないための新規事業の検討(文化財サポーター事業)や、情報提供の強化(生涯学習活動相談事業)、生涯学習に取り組む団体の要望等の解決に向けた調査研究等が挙げられており、「学び続ける」ために必要な取組が様々な事業で検討されており、今後の施策の進捗に期待を持つことができる。</p>	B	10	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動相談事業	-	-	-
2-(1)-イ				10	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	高	高	S
2-(1)-イ				10	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業	中	中	B
2-(1)-イ				11	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	学校施設開放事業	中	高	A
2-(1)-イ				11	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	文化財サポーター事業	中	中	B
2-(1)-イ				12	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	つくば市OB人材活動支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				12	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課	市民活動団体支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				13	文化協会の支援	文化芸術課	文化団体等育成支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				13	文化振興財団の支援	文化芸術課	(公財)つくば文化振興財団支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				14	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	高齢者生きがい活動支援事業	-	-	-

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	頁 (資料2-4)	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
								有効性	効率性	総合評価
「社会力」を持った人材の育成										
2-(2)	実践できる人材の育成	一つの事業について新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができず評価できない事業はあるが、それ以外についてはおおむね目標値に近い実績を上げることができたため、計画どおり施策が進んでいると評価した。 その他の施策における事業評価を関連全部署で共有し、施策推進力の底上げを行っていく。	B	15	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	「社会力」人材育成事業	中	中	B
2-(2)				15	地区リーダー勉強会の開催	市民活動課	地区リーダー勉強会事業	-	-	-
2-(2)				15	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	地域まちづくり支援事業	中	中	B

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継 続	修 正	中 止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	引き続き土日の閉館時間を午後5時から午後7時に変更し、開館時間を2時間延長するとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上を図る。 市内47か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車2台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションには2週間に1回の頻度で巡回する。令和3年度には、現在の2台の移動図書館車両に加え、右左外架書架設備による最大限約600冊積載可能な移動図書館車を新たに1台導入し、サービスの拡充を図るとともに、新型コロナウイルスの影響下における中央図書館への来館者の分散化を図る。 並木・広岡・大穂・豊里の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターで図書資料の返却ができるようにする図書返却事業を実施する。また、新たに島名交流センター及び筑波大学附属中央図書館へのブックポストの設置について検討を進める。	土日の開館時間を2時間延長し、午後7時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上を図った。 市内48か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車2台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。既存の2台の移動図書館車両に加え、右左外架書架設備による最大約600冊積載可能な移動図書館車両を新たに1台導入した。新規車両は、令和4年度から運行し、サービスの拡充を図るとともに新型コロナウイルス感染症の影響下における中央図書館への来館者の分散化を図っていく。 島名交流センターにブックポストを設置し、新たに図書の返却できるサービスポイントを増設した。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	緊急事態宣言発出等による臨時休館もあり、大半の取組で目標の達成には至らなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも一定の実績をあげることができたため。	なし	継続		
			年間開館日数291日 年間開館時間2740.5時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数55,000冊 返却窓口への返却冊数130,000冊	年間開館日数260日 年間開館時間2,458時間 自動車図書館利用人数9,678人 自動車図書館貸出冊数37,244冊 返却窓口への返却冊数162,984冊	高	中	A	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響によりさまざまな制限がある中でも、目標値を達成することができたため。	なし	継続						
1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課	生涯学習活動として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多種多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。	地域交流センター利用者数200,000人 地域交流センター登録団体650団体	新型コロナウイルス感染症の影響で、部屋の定員を通常定員の50パーセントとしての貸出としたが、利用者数、登録団体ともに目標値を上回った。	高	中	A	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響によりさまざまな制限がある中でも、目標値を達成することができたため。	なし	継続				
						地域交流センター利用者数276,376人 地域交流センター登録団体1,287団体											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点 令和3年度 事業計画	年度内の実績 令和3年度 事業の成果・ 達成状況	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課			有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性 継続 修正 中止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業でのニーズと必要性に沿った生涯学習の機会を提供していく。提供方法は、会場参加・オンライン・動画配信により実施し、参加機会を拡充する。 また、講座終了後にアンケートを実施し、アンケート等の集計結果から、今後の講座内容として反映させ、生涯学習の環境や取組みを促進する。 講座開催数2回 参加者数(動画視聴含む)40人	市内民間企業に対する家庭教育学級を1回実施し、併せてつくば市出前講座の周知を実施した。 講座開催数1回 参加者数(動画視聴含む)13人	低	中	D	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、実施実績を作ることができたため。	市内の企業や研究所が集まる会議体(例:筑協、団地協)に対して出前講座、生涯学習講師情報提供制度、家庭教育学級の周知を行い、民間企業等での出前講座実施数を増やすよう努める。 また、民間企業等の求める出前講座のモデルを検討する必要があり、民間企業等に対するアンケート実施を検討する。	継続
			1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	市民が希望している生涯学習に応じた生涯学習講座を把握し、気軽に参加できる生涯学習講座をオンラインや動画配信等で行う。 オンライン講座3回 動画配信3回	オンライン講座(同時配信のみ、現地と同時配信の併用)については、人間学講座で2回、社会力講座で4回の実施を行った。 動画配信(事後のアーカイブ閲覧が可能であるもの)については、ちびっ子博士事業及び人間学講座のうち1回(「私とGeorgia(ジョージア)」)にて実施を行った。 オンライン講座6回 動画配信2回	高	中	A		オンライン講座の積極的な実施を図り、目標値を大きく上回る実績を得ることができたため。	オンライン講座に関する市民ニーズの把握を行う必要がある。 ただし、動画配信は、配信に要する技術を持った職員を用意する必要があり、また、事後の配信には時間的なリソースが多く割かれてしまう。	継続
			1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課	新型コロナウイルス感染拡大防止のため対策を行ったうえで、夜間や休日に地域交流センター講座を開講することで、夜間休日における学習機会を提供する。 夜間休日の講座の開講10回	天体観測や日本舞踊等の夜間講座を開催した。また、応急手当や防災に関する講座等を休日に開催した。平日には交流センター講座への参加が難しい人に対して学習機会を提供することができた。 夜間休日の講座の開講11回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、夜間及び休日の講座を開催することができたため。	なし	継続

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性 継続 修正 中止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	気軽に生涯学習を相談できる機会として、生涯学習相談をオンラインで行い、情報提供体制を整える。 相談数5件	具体的なオンラインでの生涯学習に関する相談受付の実現には至らなかったが、インターネットに掲載したつくば市生涯学習指導者情報に対して10件の情報提供をおこなない、また、つくば市出前講座についてはオンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成を行った。 相談数0件	低	中	D		オンライン相談の基盤づくりは実施できたが、具体的な相談数は0であるため、有効性を低とした。	つくば市公式ホームページの「生涯学習」に関するページをマイナーチェンジし、見やすく・相談しやすい形にすることで市民が気軽に相談ができる環境を構築する。 フェイストゥフェイスで生涯学習に関する相談を有効かつ効率的に実施できる手法(連携できる事業)を調査研究する。	継続
			1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	市の生涯学習に関する取組みについて、生涯学習推進課だけでなく、様々な部署で行われ全庁的な実施体制である一方、個別に周知を行っているため、開催スケジュールなど、市民のわかりづらさがあるとの声に応える。各課で行っている生涯学習について、情報収集し市民に提供できる体制を整え、情報収集した内容を広報誌やホームページ等で広く市民に周知していく。 広報紙5回 ホームページ5回	つくば市出前講座について、オンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成をおこなった。 広報紙0回 ホームページ1回	低	中	D		出前講座ガイドブックの作成は、事業情報の一元発信に寄与したが、その他に生涯学習情報の一元的な発信に寄与する事業が展開できなかったため。	つくば市報における生涯学習特集ページの作成を検討する。 つくば市公式ホームページ上の「生涯学習」関連ページにてつくば市イベントカレンダー等の関連情報媒体をシェアする。	継続

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課			令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	誰一人取り残さない生涯学習の実現に向けて、これまで生涯学習に十分に取組むことができなかった方々が参加できるよう、障壁を取り除くことが必要となることから生涯学習に取り組もうと考えている人をサポートするために取組みを行う。 ホームページ1回	誰一人取り残さない生涯学習の実現という観点で、第3次つくば市生涯学習推進基本計画において障害者の生涯学習推進を施策の柱として位置付けており、令和3年度は市内の障害者教育施設と連携し、Zoomを活用した障害者が参加するお弁当講座と障害者教育に関する講演会を実施し、ホームページ上で広報を実施した。 ホームページ2回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの影響下の中でも、Zoomを活用とした事業を実施することができた。	市役所が講座を企画し、障害者に参加してもらう形式には継続性と自主性が見込めないため、障害者自身の自主性を尊重した事業展開を図っていく。	継続
			1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	全庁的な職員の広報力向上を目的として、職員向け広報力向上セミナーを年3回程度実施する。なお、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、会場参加またはオンラインにより実施する。 また、年間を通じて、チラシ・ポスター等広報物のデザインチェックや、事業の動画撮影に係る相談や支援を随時行う。 セミナー参加者数150人	新型コロナウイルス感染症の状況により、多数の職員を集めた対面型の広報力向上セミナーの実施が難しかったため、対面型と動画配信型(申込者にURLを公開。実施日以降も視聴可能。)を選択できるよう工夫し、職員一人ひとりの業務形態に合わせたセミナーを実施した。2月末時点で目標値に達していなかったため、3月下旬から全庁職員を対象にセミナー動画URLを公開し、視聴できる環境をより広げた。 また、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。 セミナー参加者数136人	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響により、対面型を憂慮する職員に対しても動画配信を実施することで、広報力向上に係る学びの機会を確保することができた。	なし	継続

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継 続	修 正	中 止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際交流室	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報誌を発行 4言語の多言語ホームページでの情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援 (大人対象:日本語講座をレベル別に昼 コースと夜コースを設けて開催) (外国にルーツを持つ子どもたち対象:プ レスクール・プレクラス、こども日本語勉強 会、就学・進学支援を開催)	外国語広報誌については、当初の目標通り 年4回、8言語で発行し、新型コロナウイルス 感染症やワクチン接種に関する情報を重 点的に掲載した。 新型コロナウイルス感染症やワクチン接 種に関する情報については、特に多言語 ホームページでの情報発信に力を入れた 結果、予算の執行を伴うホームページの更 新(情報発信)回数は当初の目標を大きく 上回る回数となった。また、これ以外にも 予算の執行を伴わない情報発信を129回 行った。 大人向け日本語講座はオンラインでの実 施としたことで参加できる人の幅が広が り、延べ231人と目標を大幅に上回る人 数が受講できた。 こども日本語勉強会はオンラインと対面 のハイブリット形式とし、令和3年度は対 象学校を拡大して実施できた。	高	高	S	多言語ホームページでの情 報発信において、目標値を 大幅に上回る回数の多言語 情報発信を行ったほか、大 人向け日本語講座受講者数 も目標値を大きく上回った ため。	なし	継続			
		主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習 を楽しめる講座の実施 と生涯学習に取り組む 障害者への支援体制の 構築	生涯学習推進課	障害者のための生涯学習講座について は、新型コロナウイルス感染症の感染状況 に応じて、会場参加・オンライン・動画配信 のいずれかの方法により年4回実施する。 また、講座終了後にアンケートを実施し、 アンケート結果や、オンライン・動画視聴回 数等の集計結果から、次年度の開催形式 を検討し、講座内容として反映させる。	6月5日に「～健康と自立を応援する～ オープンで作るかんたん♪唐揚げ弁当」と題 した障害者も参加できる料理教室を Zoomを活用したオンライン形式で実施 し、4名の参加者を集めた。 12月11日に「自分らしさを輝かせ、豊か に生きる生涯学習体験～知的障害者の18 歳以降の学びの場と生涯学習～」をテー マとした講演会をZoomを活用したオンラ イン形式で実施し、36名の参加者を集め た。	中	中	B	新型コロナウイルスの影響 下の中でも、Zoomを活用 とした事業を実施すること ができた。 講座参加者に対するアン ケート結果も満足度が高く、 継続していく価値があると 考える。	市役所が講座を企画し、障 害者に参加してもらう形式 には継続性と自主性が見込 めないため、障害者自身の 自主性を尊重した事業展開 を図っていく。	継続			

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性 継 修 中 続 正 止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画に関するセミナーの開催 仕事と家庭の両立支援をはじめ、再就職支援やキャリアアップ講座など、学習機会の充実を図る。	新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期となったセミナーがあり、年8回の実施となった。 参加者層は、40代28%、60代23%、70代以上16%で、10~30代の参加は18%であった。	中	中	B		新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、感染症対策を行いながら、当初の目標数のセミナーを企画・実施することができた。参加者数も徐々に戻りつつあり、セミナー内容によっては、勤労者や男性の参加者を多く集客することができた。	幅広い年齢層に啓発する機会とするため、セミナー内容や対象年代に合わせた企画内容等の工夫が今後も必要である。	継続
			1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ活動を推進するため、筑波大学の受託研究として委託契約を締結し、市民の障害者スポーツに対する意識や取り組みやすい活動の分析及び検討を行う。併せて障害者スポーツの体験も可能な障害者スポーツサポーター養成講座を開催する。	新型コロナウイルス感染症の影響で、教室の中止や、講座の日程や開催方法の変更を余儀なくされたが、主な取組における目標値は達成することができた。 【実施講座】 障スポサポーター養成講座 車いすバドミントン体験講座Aコース 車いすバドミントン体験講座Bコース	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	主な取組の目標値は達成したものの、講座の受講者が限定的で、広がりが見られなかった。	これまで実施してきた、障スポサポーター養成講座の対象者を変えて実施し、更にニーズと課題を明確にするため、アンケート調査を実施するなど、新たな方策を検討する。	修正
			1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、舞台発表は中止とし、作品展示のみとする。作品展は3/8~3/13で実施する。開催前に茨城県庁及びつくば市役所庁舎内にて、令和2年度制作の作品を展示し、一般市民に向けた広報啓発を行う。令和3年度おひさまサンサン生き生きまつりについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止。 令和3年度の奉仕員養成講座の開催については、手話奉仕員養成講座入門コース6月9日から30回、基礎コース6月8日から30回、音訳奉仕員養成講座10月7日から10回、パソコン要約筆記養成講座10月6日から10回、点訳奉仕員養成講座10月1日から10回実施する。	おひさまサンサン生き生きまつりは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。奉仕員養成講座事業は、手話及び点訳奉仕員養成講座の受講希望者が定員より少なかったが、参加者へ感染防止対策をとっていたり、日程を調整するなど、参加者の不安軽減に努めた。チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表は中止としたが、作品展示を実施し、20周年記念事業としてコンサートやワークショップを感染防止対策の上実施したこともあり、一定の参加者数を保つことができた。	—	中	—	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や内容変更としたものもあったが、参加者への感染対策や実施方法を工夫したため、一定の参加者を得られた。	奉仕員養成講座事業の参加者募集については、講座実施体制の説明や講座受講のメリットを更にPRするなど成果向上の工夫に取り組む。	継続
						男女共同参画セミナー10回	男女共同参画セミナー8回								
						講座の開催数2回 講座の参加者数(延べ人数)20人 障害者スポーツニュースのメール配信回数12回	講座の開催数3回 講座の参加者数(延べ人数)46人 障害者スポーツニュースのメール配信回数12回								
						チャレンジアートフェスティバル来場者数3,350人 奉仕員養成講座受講者数75人	チャレンジアートフェスティバル来場者数2,139人 奉仕員養成講座受講者数51人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性
															継続
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	<p>学びの成果を生かして地域社会に貢献するなど、生涯学習の成果を生かし、活躍する社会をつくるに当たっての地域の課題や最新の情報を知る学びの場が求められる中、市民との協働事業を行う。人間学講座については、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、会場参加・オンライン・動画配信のいずれかの方法により年4回実施する。</p> <p>また、講座終了後にアンケートを実施し、アンケート結果や、オンライン・動画視聴回数等の集計結果から、次年度の開催形式を検討し、講座内容として反映させる。</p>	<p>以下の日程と内容で延べ4回の講座を実施し、うち2回を現地開催と併せてZoomを活用したオンライン配信を実施した。</p> <p>(現地開催のみ)</p> <p>① 10月2日「つくば市誕生秘話」参加者114人</p> <p>② 1月29日「スクールロイヤーからのメッセージ」参加者28人(現地開催・オンライン配信併用)</p> <p>③ 11月13日「わたしとGeorgia(ジョージア)」参加者105人</p> <p>④ 12月5日「生きづらさを抱えた大人のための学び舎」参加者40人</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	オンライン同時配信の可否について、講師の意向を確認しながら、可能な範囲で実施し、一定の参加者数を確保することができた。	なし	継続
			2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	<p>11月～2月にかけて巡回企画展を、関連する催事として11月に体験講座を、12月に講演会を実施する。</p> <p>市域の江戸時代の古文書を題材にした、古文書講座を10～11月に全7回実施する。</p> <p>文化財保護強調週間と関連して、平沢官衙遺跡周辺を歩いて解説するウォーキングイベントを11月に実施する。</p>	<p>昨年度は新型コロナウイルス感染症等の影響で中止となった古文書講座を10・11月で再開することができ、18名の参加者があり、初心者を含めて古文書や地域の歴史に親しむことができた。</p> <p>巡回企画展「つくば市の遺跡と発掘調査-先人の営みを探る-」も11～2月で開催でき、企画展約1,200人、講演会62人、体験学習12人(市内在住・在学の小中学生及び保護者)の来場者・参加者を得た。アンケートの満足度も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。</p> <p>11月に平沢官衙遺跡周辺歴史ウォーキングを実施し、16名の参加者があり、史跡平沢官衙遺跡周辺の遺跡などを体感することができた。</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	講演会や体験講座及び古文書講座について、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者の人数を減らして対応することとなったが、アンケートなどによる評価は、満足度が高いものであった。	なし	継続
				企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2回	巡回企画展参加人数1,500人	企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2回	巡回企画展参加人数1,187人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性	
															継 続	修 正
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れ、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座、ワークショップなど、各種イベントを行う。 参考資料を充実させるとともに、電話やインターネットからの調査・研究の質問を受け付け、専門職員から資料情報を提供する。 つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出図書冊数15,000冊 ジュニア図書館員受入人数75人 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数170人 レファレンス受付件数1,800件	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標の達成に至らなかった。 また、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れについては、同様の理由により実施が見送りとなった。 レファレンスについても、新型コロナウイルス感染症による臨時休館などもあり、目標の達成に至らなかった。 つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク23校 団体貸出図書冊数7,780冊 ジュニア図書館員受入人数0人 社会科見学等の図書館見学受入回数3回 職場体験学習受入人数0人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数49人 レファレンス受付件数1,440件	—	—	—	新型コロナウイルス感染症	緊急事態宣言発出による臨時休館のため、ジュニア図書館員、職場体験学習については受け入れが中止となった。 学校訪問ブックトーク、社会科見学は、新型コロナウイルス感染症の影響で、申し込み後のキャンセルが多数あった。 学校図書館司書教諭補助員等の研修に関しては、対面式の研修ではなく、事前に録画した動画を各学校で観る形式に変更となった。	ジュニア図書館やワークショップなどのイベントに関しては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすいため、講義形式や資料配布形式にするなど、開催方法や内容を変更する必要がある。	修正	
			2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際交流室	国籍を越えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人住民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援 つくばワールドフットサルの外国人参加率20% 世界お茶飲み話開催数12回 周知協力イベント(事業)数4事業	国際交流協会主催で「世界お茶のみ話」を11回開催。新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、オンラインを活用してできる限り実施したほか、Youtubeで録画配信を行うことでより多くの方に見ていただけるよう工夫した。(無観客開催2回、有観客開催9回) また、アイラブつくばまちづくり補助金交付事業等、国籍を超えた国際交流に資するイベント等について周知協力を行った。 なお、つくばワールドフットサルについては、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止した。 つくばワールドフットサルの外国人参加率0% 世界お茶飲み話開催数11回 周知協力イベント(事業)数4事業	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染拡大等により、予定通り実施できなかった事業もあったが、オンラインの活用等によりほとんどの事業が実施でき、目標値を達成したため。	なし	継続	

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性	
															継 続	修 正
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	市民のスポーツ活動の促進を図るため、さまざまな種類のスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさや健康維持の手法等を学ぶ機会やスポーツをはじめる機会を提供する。	新型コロナウイルス感染症の影響で、目標としていた回数の教室を実施することができなかったが、1回当たりの教室参加者数が多く、参加者数は目標に近い人数となった。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	年度当初には新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を予測することができず、回数の面では目標達成できなかったが、1回あたりの参加者数は目標値に近い数値であったため。	なし	継続	
							教室の開催数10回 教室の参加者数(延べ人数)720人	教室の開催数7回 教室の参加者数(延べ人数)714人								
			2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課	新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を行ったうえで、講座を開講する。利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、地域交流センター17施設で前期講座及び後期講座を開講した。	高	中	A	新型コロナウイルス感染症	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で前期講座が中止となったが、令和3年度は前期・後期とも講座を開催することができたため。	なし	継続	
					年間講座数80回	年間講座数98回										
2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、講座や会議等の多くが実施できなかった。令和3年度はオンラインや動画配信等を活用し実施する。また、令和3年度中に「筑波山地域ジオパークアクションプラン前期(2021-2024)」を策定し、生涯学習講座の現状・課題・活動内容を整理する。	令和3年度は、環境政策課や文化芸術課が主催する事業への協力や、茨城県及び他市からの依頼を受けジオパークに関連する講座を開催するなど、市民向け講座等を計5回開催した。筑波山地域ジオパークとしても、地域住民が参加する多くの講座やイベント(26回)、部会、シンポジウムを実施し、生涯学習の場を提供することで、地域住民のジオパークへの理解をさらに深めることができた。また、ジオガイドのスキルアップを目的に、インタープリテーション研修を実施した。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	市民向け講座は希望団体等から依頼を受けて実施しているため、新型コロナウイルス感染症の影響もあり昨年度は目標値より少ない開催数となったが、他団体との連携により効果的に市民向け講座を実施することができた。また、ジオガイドについても、オンラインを活用し会合やスキルアップ講座を実施することで、生涯学習講座の担い手の育成を図ることができた。	なし	継続				
					市民向け講座開催数10回 部会開催数9回 ジオガイド養成講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座開催数5回 部会開催数14回 ジオガイド養成講座開催数1回 学術シンポジウム開催数1回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性 継続 修正 中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	市民から生涯学習に対し相談があったときに、適正に支援ができるようにする。また、生涯学習の取組を継続して行えるよう市民にサポートを行う。 支援数2回	生涯学習に関する取組として、市民が主催する学習会等に暮らしに役立つ内容や市政の関する出前講座を新型コロナウイルス感染症対策を行いながら36回実施し、市民の市政に関する理解を深めたいという生涯学習に対する要望に応えた。出前講座の場を活かして、今後の出前講座で取り扱ってほしいテーマが4件挙げられた。 支援数0回	—	—	—	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの影響もあり、具体的な支援(出前講座の新規講座立ち上げ及び実施)には至らなかった。	事業の目的は、生涯学習に関する全般的な分野に対する支援を目指しており、1-(2)-ア「生涯学習ワンストップ対応事業」と同様、市民にわかりやすく相談しやすくなる情報発信を多角的に行っていく必要がある。	継続
			2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級・家庭教育セミナーを開催する。 学級の運営にあたり社会教育指導員が指導・助言を行い、講演会や学習会を開催する。 家庭教育学級 幼稚園 16園、小学校 29校、中学校 12校、義務教育学校 4校 乳児 3か所、幼児2か所の開設 社会教育講演会 年2回開催 家庭教育学級3,000人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー18回	家庭教育学級については、多くの講座を動画配信で実施することで、新型コロナウイルスの影響下であっても事業規模を確保することができた。 社会教育講演会については、以下の内容で2回実施した。 ①10月23日「子どものからだところの今～子どものからだの”おかしさ”を科学する～」会場:つくば市役所 参加者74人 ②3月5日「コロナ禍のメンタルケアの備えのために～社会抑うつ度調査から見えるもの～」オンライン配信 参加者94人 なお、両会とも家庭教育学級にて動画配信を実施している。 家庭教育セミナーについては、学校にすべての保護者が集まる行事を利用して家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会として実施した。 家庭教育学級10,139人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー37回	高	高	S	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの状況下においても、積極的に動画配信を行い、成果を挙げることができた。 動画に対するアンケート結果も、内容について「とても良かった・良かった」と回答する割合が多い。	なし	継続
			2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	令和2年度においては、生涯学習を希望する市民に対し、希望に沿う指導者を紹介することができた。 令和3年度においても、市民が希望する学習の指導者を紹介することに努める。 情報提供数20回 新規登録数5人 登録者総数250人	情報提供について、語学・運動・ダンス・礼儀作法等幅広い分野に関する講師情報の提供を行うことができた。 情報提供数10回 新規登録数11人 登録者総数256人	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	情報提供回数目標値を下回っていることについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと考えられる。ただし、新規登録数や累計登録者数は目標を上回り、生涯学習に対する市民の意欲は高い状態である。	情報提供数が最も大事な数値目標であると考えており、指導者情報の提供するチャンネルの増加や情報提供依頼につながる魅力的な情報発信が必要である。	修正

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点 令和3年度 事業計画	年度内の実績 令和3年度 事業の成果・ 達成状況	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課			有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性	
															継 続	修 正
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに義務教育学校1校を開放した。 跡地利活用の決定に伴い、旧筑波東中学校の開放を令和3年度の事業をもって終了した。 令和3年度の延べ申請数は521件であった。(うち16件は新規団体)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ガイドラインを作成し、感染拡大に注意を払って活動を運営する。 施設開放の制限については、国や県、学校からの制限等に準拠する。</p> <p>小学校施設開放事業238団体(重複込) 中学校施設開放事業77団体(重複込) 義務教育学校施設開放事業21団体(重複込)</p>	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに義務教育学校1校を開放した。 跡地利活用の決定に伴い、旧筑波東中学校の開放を令和3年度の事業をもって終了した。 令和3年度の延べ申請数は521件であった。(うち16件は新規団体)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ガイドラインを作成・見直しを行い、感染拡大に細心の注意を払って事業を運営した。 施設開放の制限については、国や県、学校からの要請等に準拠した。</p> <p>小学校施設開放事業204団体 中学校施設開放事業71団体 義務教育学校施設開放事業25団体</p>	中	高	A	新型コロナウイルス感染症	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用する団体を調整する会議の回数が多くなったが、密を避けながら効率的に行うことができた。 使用団体数の目標値には到達しなかったものの、利用率については小学校・中学校・義務教育学校のいずれにおいても、95%以上と非常に高い水準を維持していた。</p>	なし	継続	
			2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて学校等の依頼が激減したが、5名が解説ボランティアとして新規登録してもらい、ボランティア登録者数は合計で15名となった。今年度は、感染症対策を徹底しながら10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 また、新型コロナウイルスの影響で解説依頼が激減している中、登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講する。 小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施する。</p> <p>文化財サポーター参加人数(令和3年度末)20人</p>	<p>10月～12月に谷田部・桜地区の解説を目標とした第3回解説ボランティア養成講座を開催、修了者8名のうち新規登録者8名で、計23名となった。 また、年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。</p> <p>文化財サポーター参加人数(令和3年度末)23人</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	<p>新型コロナウイルスの影響でサポーターの活躍の機会が少なかったものの、新規の登録者を増やすことができた。</p>	<p>登録者の意識が低下しないよう、参加の機会や登録者の知見の向上を目指す研修も必要となる。 引続き解説ボランティア養成講座を定期的開催し新規登録者を増やすほか、登録者向けのステップアップ研修も実施する。</p>	継続	

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性 継 修 中 続 正 止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、登録者のオンライン対応の可否について個別に把握し、オンライン形式を推進することで、停止中の対面形式での活動を補完するかたちで事業継続を図る。 また、シニア・エキスパート便覧(第19版)の発行・配布などの広報活動については、対面形式の再開を見据え、継続的に実施する。</p>	<p>昨年度からマッチングを中断していたが、10月にはアフターコロナを見据えた本事業の再構築に当たり、11月からのマッチングの再開について明確にした。 併せて、つくば市シニア・エキスパート便覧の改訂(第19版)に当たり、オンライン形式に対応可能であるシニア・エキスパートを一覧化したことで、感染拡大期においてもオンライン形式での対応ができる体制を整えた。</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	オンラインに対応するなど、制限された中でも必要な対応を取ることができた。	状況に応じてハイブリッド形式とオンラインに限定する形式とを使い分けることで、感染症の状況に柔軟に対応する環境を整えた。	継続
							登録者の活動回数690回	登録者の活動回数6回							
			2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課	<p>市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。 アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民主体の公益的な活動を応援する。</p>	<p>市民活動センターが市の直営となったが、円滑な業務運営の継続を図るため、センター管理運営方針の決定、市民活動団体から収集した情報や助成金情報等を広報紙やホームページ等を通して提供するとともに、活動団体等が必要とする講座等による学習の場の提供、今後のセンター運営等の参考にするためのアンケートを実施するなど、市民活動団体等支援のための様々な業務に取り組むことができた。 また、アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体等が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響から市内施設の利用ができない期間が生じたり、市民活動団体等の活動制限により利用者数や相談件数、補助金採択事業数は目標値には達しなかったが、一定の実績をあげることができたため。	<p>おおむね月2回程度の一般的な講座・専門的講座の開設を目指す。また、センター広報紙(行政主体の)以外での市民活動団体情報等の提供や市民活動団体等と市役所担当部署との連携支援等、市民活動団体等の要望等の解決を目指していく。 アイラブつくばまちづくり補助金交付回数終了後の自主財源確保に向けた採択団体のニーズについて、市公式フェイスブック「つくば市民活動のひろば」取材時に調査を行い、課題解決に向けた施策について調査・研究を行う。</p>	継続
							市民活動センター利用者数6,000人 市民活動センター相談件数255件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数30件	市民活動センター利用者数1,742人 市民活動センター相談件数138件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数22件							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継 続	修 正	中 止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業の実施の際には、新型コロナウイルス感染症対策や、会計処理について指導を行う。	市民ホールや交流センター、美術館など、つくば市内を拠点として事業を展開した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の延期や中止が発生したため、当初目標としていた事業数を達成するにはいたらなかったが、感染症対策を講じながら、事業を推進することができた。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の中止・延期が発生したが、感染症対策を講じながら実施可能な範囲で取り組むことができたため。	感染症拡大の影響に左右されてしまう可能性が高いため、感染症対策を講じながらの事業実施形態について、情勢に応じて検討していく必要がある。	継 続		
			2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、つくば文化振興財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	ノバホールやつくばカピオ、市民ホールなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小学生を対象としたアウトリーチ、アーティストを対象としたワークショップなども並行して展開し、事業を推進した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の延期や中止が発生したが、感染症対策を講じながら、おおむね目標を達成することができた。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の中止・延期が発生したが、感染症対策を講じながら実施可能な範囲で取り組むことができたため。	感染症拡大の影響に左右されてしまう可能性が高いため、感染症対策を講じながらの事業実施形態について、情勢に応じて検討していく必要がある。	継 続		
						主催事業の実施10回	主催事業の実施8回										
						文化芸術振興事業の実施23回	文化芸術振興事業の実施22回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課			令和3年度事業計画	令和3年度事業の成果・達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性
													継続	修正	中止		
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	<p>各種イベントやシルバークラブ活動への支援</p> <p>シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施</p> <p>シルバークラブ育成支援:年間を通じて、委託先の社会福祉協議会と連携し、シルバークラブ連合会の事務局として支援する。</p> <p>補助金を交付し、シルバークラブ連合会と連合会に所属する単位シルバークラブの活動を支援する。補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。茨城県健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する。種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、パタンク、輪投げ</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。</p> <p>また、133の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。</p> <p>いばらきねんりんスポーツ大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止</p> <p>シルバー人材センター 新規入会者79名 退会者104名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。</p> <p>補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。</p>	<p>各種イベントやシルバークラブ活動への支援</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。</p> <p>また、133の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。</p> <p>いばらきねんりんスポーツ大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止</p> <p>シルバー人材センター 新規入会者79名 退会者104名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。</p> <p>補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。</p>	—	—	—	新型コロナウイルス感染症	<p>シルバークラブ活動支援や高齢者労働能力活用事業費補助事業に関しては、内容変更等対策を講じ実施する事ができた。しかし、いばらきねんりんスポーツ大会については開催中止となってしまう、事業全体として年度当初の目標値と比較することができないため。</p>	<p>各種イベントやシルバークラブ活動への支援</p> <p>シルバークラブの会員減少について、若手会員の加入促進や魅力ある活動メニューを広げる取組みに努めることで、シルバークラブ連合会全体の活性化を支援する。</p>	継続		
													継続				

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性	
															継 続	修 正 中 止
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	地域の課題を地域で解決できるよう、社会力を持った人材を育成するため、社会力講座を会場参加・オンライン・動画配信のいずれかの方法により年5回実施する。また、講座終了後にアンケートを実施し、アンケート結果や、オンライン・動画視聴回数等の集計結果から、次年度の開催形式を検討し、講座内容として反映させる。 講座開催数5回	以下の日程と内容で延べ4回の講座を実施し、全ての講座で現地開催と併せてZoomを活用したオンライン配信を実施した。 ① 9月25日 「つくば市内大学での社会力育成の取組み」 参加者22人 ② 10月24日 「地域を学びの場に社会力育てを目指すつくばね学」 参加者24人 ③ 12月5日 「女性の社会力が地域を育てる」 参加者12人 ④ 2月6日 「社会力を活かしたサステナブルな地域活性化の取組み」 参加者14人 講座開催数4回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの影響を受けながら、Zoomを活用して事業を展開することができた。	社会力の育成について、毎年単純な講座のみではなく、年度ごとに内容を深化させ、目標である社会力を持った人材を育成していく必要がある。	継 続	
			2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民活動課	つくば市の地域社会のリーダーである区長のスキルアップを図り、各地域のコミュニティ活動を活性化させることを目的とした、勉強会(講演会)を実施する。 人材づくりイベントの参加者数100人	東日本大震災から10年が経過し、その後も大規模な自然災害が全国各地で発生している中、被害を最小限にとどめるために、住民一人一人が災害のリスクについて認識し、自分の身は自分で守る「自助」、自治会や自主防災組織など地域で互いに助け合う「共助」に関する内容で、6月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した。その後、改めて8月に開催を目指したが、茨城県独自の緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の対象エリアとなったため中止とした。 人材づくりイベントの参加者数0人	—	—	—	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を実施することができなかったため。	なし	継 続	
			2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【まちづくりに関する講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。 講座開催数1回 申請に応じた専門家の派遣8回	【まちづくりに関する講座の実施】 1回実施し、計13名の市民の参加があった。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体2団体の申請に応じ、計7回の専門家派遣を行った。 講座開催数1回 申請に応じた専門家の派遣7回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	【まちづくりに関する講座の実施】 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、定員を超える申込みがあり、多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進グループ及び地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。	なし	継 続	

令和4年度		第3次生涯学習推進基本計画事務事業進捗状況調査票						資料3										
基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)			評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映					
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継続	修正	中止	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	<p>土日の開館時間を2時間延長し、午後7時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上を図った。市内48か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車2台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。既存の2台の移動図書館車両に加え、右左外架書架設備による最大限約600冊積載可能な移動図書館車両を新たに1台導入した。新規車両は、令和4年度から運行し、サービスの拡充を図るとともに新型コロナウイルスの影響下における中央図書館への来館者の分散化を図っていく。</p> <p>島名交流センターにブックポストを設置し、新たに図書の返却できるサービスポイントを増設した。</p>	<p>土日の開館時間の2時間延長と祝日の特別開館を継続実施し、利用者の利便性向上を図る。</p> <p>市内50か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションには2週間に1回の頻度で巡回する。また、新たなステーションの設置を検討する。</p> <p>並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続するとともに、さらなる利便性向上のため、新たなブックポストの設置について検討を進める。</p>	<p>年間開館日数260日 年間開館時間2457.5時間 自動車図書館利用人数9,678人 自動車図書館貸出冊数37,244冊 返却窓口への返却冊数162,984冊</p>	<p>年間開館日数291日 年間開館時間2,743時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数55,000冊 返却窓口への返却冊数130,000冊</p>								
			1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、部屋の定員を通常定員の50パーセントとしての貸出としたが、利用者数、登録団体ともに目標値を上回った。</p>	<p>生涯学習活動として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。</p> <p>また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多種多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。</p>	<p>地域交流センター利用者数276,376人 地域交流センター登録団体1,287団体</p>	<p>地域交流センター利用者数280,000人 地域交流センター登録団体1,300団体</p>								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	市内民間企業に対する家庭教育学級を1回実施し、併せてつくば市出前講座の周知を実施した。 講座開催数1回 参加者数(動画視聴含む)13人	民間企業等での講座実施回数を昨年度より増やすことを目標とし、そのために周知活動を強化する。具体的には、市内の企業や研究所が集まる会議体(例:筑波研究学園都市交流協議会)への事業周知を積極的に実施する。 また、今後の民間企業等が求める生涯学習講座へ進化させるための検討材料としてアンケートの実施を検討する。 民間企業等での講座開催数2回 周知活動実施回数5回										
			1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンライン講座(同時配信のみ、現地と同時配信の併用)については、人間学講座で2回、社会力講座で4回の実施を行った。動画配信(事後のアーカイブ閲覧が可能であるもの)については、ちびっ子博士事業及び人間学講座のうち1回(「わたしとGeorgia(ジョージア)」)にて実施を行った。 オンライン講座6回 動画配信2回	生涯学習推進課で実施する事業の動画配信(同時配信、アーカイブ方式含む)を継続して実施していく。 動画配信回数5回 配信動画の満足度60%										
			1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課	天体観測や日本舞踊等の夜間講座を開催した。また、応急手当や防災に関する講座等を休日に開催した。平日には交流センター講座への参加が難しい人に対して学習機会を提供することができた。 夜間休日の講座の開講11回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため対策を行った上で、夜間や休日に地域交流センター講座を開講することで、夜間休日における学習機会を提供する。 夜間休日の講座の開講12回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映					
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性			
																継続	修正	中止	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	具体的なオンラインでの生涯学習に関する相談受付の実現には至らなかったが、インターネットに掲載したつくば市生涯学習指導者情報に対して10件の情報提供を行い、また、つくば市出前講座についてはオンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成を行った。	つくば市ホームページの改修をとおし、生涯学習情報を市民が見やすく・問合せしやすい状態を作り出し、市民から生涯学習に関する相談が寄せられる環境づくり(ホームページ上での相談窓口開設等)を行う。 また、オンラインによる生涯学習相談に関する他自治体の先進事例についてヒアリング等による調査を実施し、事業改善の参考とする。											
							相談数0件	相談数3件 ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回											
			1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	つくば市出前講座について、オンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成を行った。	つくば市報等において、市民にわかりやすい生涯学習に関する新たな情報発信を実施する。 つくば市ホームページの改修をとおし、つくば市の生涯学習関連情報を市民が分野横断的で簡単に入手することができる環境を作る。 つくば市が令和4年(2022年)4月に供用を開始したスマートフォンアプリ「つくスマ」を積極的に活用し、プッシュ型の通知で市民に情報提供を行う。											
							広報紙0回 ホームページ1回	広報紙1回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数10回											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	誰一人取り残さない生涯学習の実現という観点で、第3次つくば市生涯学習推進基本計画において障害者の生涯学習推進を施策の柱として位置付けており、令和3年度は市内の障害者教育施設と連携し、Zoomを活用した障害者が参加するお弁当講座と障害者教育に関する講演会を実施し、ホームページ上で広報を実施した。	1-(1)-ウ「情報収集・発信事業」と連動して、つくば市ホームページ改修をととした生涯学習情報発信のワンストップ化を進める。 生涯学習講座における配慮事項を示した指針について、他自治体の先進事例を研究し、ヒアリング等調査により作成に向けた検討を行う。										
			1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	新型コロナウイルス感染症の状況により、多数の職員を集めた対面型の広報力向上セミナーの実施が難しかったため、対面型と動画配信型(申込者にURLを公開。実施日以降も視聴可能。)を選択できるように工夫し、職員一人ひとりの業務形態に合わせたセミナーを実施した。2月末時点で目標値に達していなかったため、3月下旬から全庁職員を対象にセミナー動画URLを公開し、視聴できる環境をより広げた。また、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物等のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。	職員それぞれの広報力向上を目的として、職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、昨年に引き続き対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報部物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。										
						ホームページ2回	ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回											
						セミナー参加者数136人	セミナー参加者150人											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映					
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性			
																継続	修正	中止	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	外国語広報紙については、当初の目標通り年4回、8言語で発行し、新型コロナウイルス感染症やワクチン接種に関する情報を重点的に掲載した。 新型コロナウイルス感染症やワクチン接種に関する情報については、特に多言語ホームページでの情報発信に力を入れた結果、予算の執行を伴うホームページの更新(情報発信)回数は当初の目標を大きく上回る回数となった。また、これ以外にも予算の執行を伴わない情報発信を129回行った。 大人向け日本語講座はオンラインでの実施としたことで参加できる人の幅が広がり、延べ231人と目標を大幅に上回る人数が受講できた。 こども日本語勉強会はオンラインと対面のハイブリット形式とし、令和3年度は対象学校を拡大して実施できた。	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援(大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催) (外国にルーツを持つ子ども達対象:プレスクール・プレクラス、こども日本語勉強会、就学・進学支援を開催)											
						外国語広報紙発行回数4回 多言語ホームページ掲載回数24回 大人向け日本語講座の受講者数231人 こども日本語勉強会の登録人数28人	外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数240人 こども日本語勉強会の登録者数30人												
		主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	・6月5日に「～健康と自立を応援する～オープンで作るかんたん♪唐揚げ弁当」と題した障害者も参加できる料理教室をZoomを活用したオンライン形式で実施し、4名の参加者を集めた。 ・12月11日に「自分らしさを輝かせ、豊かに生きる生涯学習体験～知的障害者の18歳以降の学びの場と生涯学習～」をテーマとした講演会をZoomを活用したオンライン形式で実施し、36名の参加者を集めた。	令和4年度は、「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。											
							講座開催数2回 会場参加者数36人 オンライン参加者数36人 動画視聴数(延べ)36回	開催回数2回 講座参加者の満足度80%											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映					
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性			
																継続	修正	中止	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期となったセミナーがあり、年8回の実施となった。 参加者層は、40代28%、60代23%、70代以上16%で、10~30代の参加は18%であった。	男女共同参画に関するセミナーの開催 仕事と家庭の両立支援をはじめ、再就職支援やキャリアアップ講座など、学習機会の充実を図る。											
							男女共同参画セミナー8回	男女共同参画セミナー10回											
			1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	新型コロナウイルス感染症の影響で、教室の中止や、講座の日程や開催方法の変更を余儀なくされたが、主な取組における目標値は達成することができた。 【実施講座】 障スポサポーター養成講座 車いすバドミントン体験講座Aコース 車いすバドミントン体験講座Bコース	障害者が日常的にスポーツ・レクリエーションに取り組むことができるよう、ニーズや課題を抽出するため、アンケート調査を実施する。併せてスポーツ関連事業者等を対象に、障害者のスポーツ支援に必要な知識を得るための講座を開催する。 また、フェスティバル内で障害者スポーツ体験コーナーを設置したり、スポーツ教室の1つで、車いすバドミントン教室を開催するなど、障害者スポーツに親しむ機会を設ける。	講座の開催数3回 講座の参加者数(延べ人数)46人 障害者スポーツニュースのメール配信回数12回	講座の開催数2回 講座の参加延べ人数20人 障スポサポーター登録者数10人									
1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	おひさまサンサン生き生きまつりは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。 奉仕員養成講座事業は、手話及び点訳奉仕員養成講座の受講希望者が定員より少なかったが、参加者へ感染防止対策をとっていたり、日程を調整するなど、参加者の不安軽減に努めた。 チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表は中止としたが、作品展示を実施し、20周年記念事業としてコンサートやワークショップを感染防止対策の上実施したこともあり、一定の参加者数を保つことができた。	チャレンジアートフェスティバルは、前年度実施できた展示や映像作品の上映のほか、舞台発表実施の検討を行う。茨城県庁やつくば市役所庁舎内での巡回展示による、一般市民への広報は引き続き取り組む。おひさまサンサン生き生きまつりの開催は検討とする。手話奉仕員養成講座は7月からの開催、音訳・点訳・要約筆記の奉仕員養成講座は9月以降の開催を予定する。	チャレンジアートフェスティバル来場者数2,139人 奉仕員養成講座受講者数51人	チャレンジアートフェスティバルへ参加者数2,150人 奉仕員養成講座受講者数55人												

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	以下の日程と内容で延べ4回の講座を実施し、うち2回を現地開催と併せてZoomを活用したオンライン配信を実施した。 (現地開催のみ) ① 10月2日「つくば市誕生秘話」参加者114人 ② 1月29日「スクールロイヤーからのメッセージ」参加者28人(現地開催・オンライン配信併用) ③ 11月13日「わたしとGeorgia(ジョージア)」参加者105人 ④ 12月5日「生きづらさを抱えた大人のための学び舎」参加者40人 講座開催数4回 会場参加者数213人 オンライン参加者数61人 動画視聴数(延べ)24回	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を継続して提供していく。各講座においてはアンケートを実施し、次年度以降の開催に関する意見を集め、魅力的な事業の展開に活かしていく。 開催数4回 参加者数300人										
			2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	昨年度は新型コロナウイルス感染症等の影響で中止となった古文書講座を10・11月で再開することができ、18名の参加者があり、初心者を含めて古文書や地域の歴史に親しむことができた。 巡回企画展「つくば市の遺跡と発掘調査-先人の営みを探る-」も11～2月で開催でき、企画展約1,200人、講演会62人、体験学習12人(市内在住・在学の小中学生及び保護者)の来場者・参加者を得た。アンケートの満足度も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。 11月に平沢官衙遺跡周辺歴史ウォーキングを実施し、16名の参加者があり、史跡平沢官衙遺跡周辺の遺跡などを体感することができた。 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催回数2回 巡回企画展参加人数1,187人	9月～1月にかけて、大河ドラマに関連した小田氏と小田城について紹介する催事を、関連事業として10月に体験講座を、11月に講演会を実施する。 市域の江戸時代の古文書を題材にした、古文書講座を7～9月に全7回実施する。 文化財保護強調週間と関連して、平沢官衙遺跡周辺を歩いて解説するウォーキングイベントを11月に実施する。 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催回数2回 巡回企画展参加人数1,500人										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標の達成に至らなかった。 また、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れについては、同様の理由により実施が見送りとなった。 レファレンスについても、新型コロナウイルス感染症による臨時休館などもあり、目標の達成に至らなかった。	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れ、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座、ワークショップなど、各種イベントを行う。 参考資料を充実させるとともに、電話やインターネットからの調査・研究の質問を受け付け、専門職員から資料情報を提供する。										
							つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク23校 団体貸出図書冊数7,780冊 ジュニア図書館員受入人数0人 社会科見学等の図書館見学受入回数3回 職場体験学習受入人数0人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数49人 レファレンス受付件数1,440件	つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出図書冊数15,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数170人 ファーストブック講座参加人数40人 レファレンス受付件数1,800件										
			2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	国際交流協会主催で「世界お茶のみ話」を11回開催。新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、オンラインを活用してできる限り実施したほか、Youtubeで録画配信を行うことでより多くの方に見ていただけるよう工夫した。(無観客開催2回、有観客開催9回) また、アイラブつくばまちづくり補助金交付事業等、国籍を超えた国際交流に資するイベント等について周知協力を行った。 なお、つくばワールドフットサルについては、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止した。	国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援										
							つくばワールドフットサルの外国人参加率0% 世界お茶飲み話開催数11回 周知協力イベント(事業)数4事業	世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等と連携事業数3回 姉妹都市等との連携イベント数2回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	新型コロナウイルス感染症の影響で、目標としていた回数の教室を実施することができなかったが、1回当たりの教室参加者数が多く、参加者数は目標に近い人数となった。 教室の開催数7回 教室の参加者数(延べ人数)714人	市民のスポーツ活動の促進を図るため、さまざまな種類のスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさや健康維持の手法等を学ぶ機会やスポーツを始める機会を提供する。 教室の開催数12回 成人の方が教室参加後、今後もスポーツを続けたいと思った人の割合(スポーツを継続者も含む)65%										
			2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、地域交流センター17施設で前期講座及び後期講座を開講した。 年間講座数98回	新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を行った上で、講座を開講する。利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。 年間講座数102回										
			2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和3年度は、環境政策課や文化芸術課が主催する事業への協力や、茨城県及び他市からの依頼を受けジオパークに関連する講座を開催するなど、市民向け講座等を計5回開催した。筑波山地域ジオパークとしても、地域住民が参加する多くの講座やイベント(26回)、部会、シンポジウムを実施し、生涯学習の場を提供することで、地域住民のジオパークへの理解をさらに深めることができた。 また、ジオガイドのスキルアップを目的に、インタープリテーション研修を実施した。 市民向け講座開催数5回 部会開催数14回 ジオガイド養成講座開催数1回 学術シンポジウム開催数1回	令和4年度も引き続き、ジオパークを活用した生涯学習講座を実施する。 また、将来的に、より多様で充実した生涯学習講座を実施するため、これまでの実績を整理し、今後の方針を検討する。 市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習に関する取組として、市民が主催する学習会等に暮らしに役立つ内容や市政に関する出前講座を新型コロナウイルス感染対策を行いながら36回実施し、市民の市政に関する理解を深めたいという生涯学習に対する要望に応えた。 出前講座の場を活かして、今後の出前講座で取り扱ってほしいテーマが4件挙がった。 支援数0回	出前講座事業について、新規講座を立ち上げ、市民が継続して生涯学習に取り組む支援をおこなう。 また、1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談しやすい環境を創出するための検討を行う。 出前講座新規講座1講座 周知活動回数5回										
			2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級については、多くの講座を動画配信で実施することで、新型コロナウイルスの影響下であっても事業規模を確保することができた。 社会教育講演会については、以下の内容で2回実施した。 10月23日「子どものからだところの今～子どものからだの”おかしさ”を科学する～」会場:つくば市役所 参加者74人 3月5日「コロナ禍のメンタルケアの備えのために～社会抑うつ度調査から見えるもの～」オンライン配信 参加者94人 なお、両会とも家庭教育学級にて動画配信を実施している。 家庭教育セミナーについては、学校にすべての保護者が集まる行事を利用して家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会として実施した。 家庭教育学級10,139人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー37回	家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。学級の運営について、社会教育指導員が指導・助言を行い、講演会や学習会を開催する。 家庭教育学級5,000人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー39回										
			2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	情報提供について、語学・運動・ダンス・礼儀作法等幅広い分野に関する講師情報の提供を行うことができた。 情報提供数10回 新規登録数11人 登録者総数256人	1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動し、情報提供数増に向けた周知活動を実施する。 指導者リストの更新及びホームページの改修を行い、市民が利用しやすい情報提供体制を構築する。 周知活動回数5回 情報提供数20回 ホームページ改修回数1回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに義務教育学校1校を開放した。 跡地利活用の決定に伴い、旧筑波東中学校の開放を令和3年度の事業をもって終了した。 令和3年度の延べ申請数は521件であった。(うち16件は新規団体)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ガイドラインを作成・見直しを行い、感染拡大に細心の注意を払って事業を運営した。 施設開放の制限については、国や県、学校からの要請等に準拠した。</p> <p>小学校施設開放事業204団体 中学校施設開放事業71団体 義務教育学校施設開放事業25団体</p>	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 新たに中学校1校(体育館・武道場)、義務教育学校1校(大体育館)の計2校を開放する。</p> <p>つくば市学校開放新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づき、感染拡大に注意しつつ事業を運営する。 施設開放の制限については、国や県の制限、学校からの要請等に準拠する。</p> <p>小学校施設開放事業90% 中学校施設開放事業90% 義務教育学校施設開放事業90%</p>										
			2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	<p>10月～12月に谷田部・桜地区の解説を目標とした第3回解説ボランティア養成講座を開催、修了者8名のうち新規登録者8名で、計23名となった。 また、年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。</p> <p>文化財サポーター参加人数(令和3年度末)23人</p>	<p>令和3年度も引き続き新型コロナウイルスの影響もよりサポーターの活動機会がほとんどなかったものの、登録者は当初の目標を達成することができた。 今年度も、感染症対策を徹底しながら10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 また、新型コロナウイルスの影響で解説依頼が激減している中、登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、講座修了者からボランティア登録者を募り、展示施設や文化財の解説のほか、学校支援業務への協力、文化財の見回り、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施する。</p> <p>文化財サポーター登録人数25人</p>										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	<p>昨年度からマッチングを中断していたが、10月にはアフターコロナを見据えた本事業の再構築に当たり、11月からのマッチングの再開について明確にした。併せて、つくば市シニア・エキスパート便覧の改訂(第19版)に当たり、オンライン形式に対応可能であるシニア・エキスパートを一覧化したことで、感染拡大期においてもオンライン形式での対応ができる体制を整えた。</p> <p>登録者の活動回数6回</p>	<p>昨年度からオンラインでの対応が可能となったことで、感染症の影響を最小限に止め切れ目なく事業を継続するとともに、シニア・エキスパート便覧を改定する(第20版)等の必要な広報活動を実施する。</p> <p>登録者の活動回数700回</p>										
			2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課	<p>市民活動センターが市の直営となったが、円滑な業務運営の継続を図るため、センター管理運営方針の決定、市民活動団体から収集した情報や助成金情報等を広報紙やホームページ等を通して提供するとともに、活動団体等が必要とする講座等による学習の場の提供、今後のセンター運営等の参考にするためのアンケートを実施するなど、市民活動団体等支援のための様々な業務に取り組むことができた。</p> <p>また、アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体等が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。</p> <p>市民活動センター利用者数1,742人 市民活動センター相談件数138件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数22件</p>	<p>市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。</p> <p>アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民主体の公益的な活動を支援する。</p> <p>市民活動センター利用者数3,000人 市民活動センター相談件数270件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数30件</p>										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	市民ホールや交流センター、美術館など、つくば市内を拠点として事業を展開した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の延期や中止が発生したため、当初目標としていた事業数を達成するにはいたらなかったが、感染症対策を講じながら、事業を推進することができた。	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業実施の際には、新型コロナウイルス感染症対策や、会計処理について指導を行う。										
							主催事業の実施8回	主催事業の実施10回										
			2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	ノバホールやつくばカピオ、市民ホールなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小学生を対象としたアウトリーチ、アーティストを対象としたワークショップなども並行して展開し、事業を推進した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の延期や中止が発生したが、感染症対策を講じながら、おおむね目標を達成することができた。	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。										
							文化芸術振興事業の実施22回	文化芸術振興事業の実施23回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映							
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性					
																継続	修正	中止			
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	<p>各種イベントやシルバークラブ活動への支援 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、133の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止</p> <p>シルバー人材センター 新規入会者79名 退会者104名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。</p> <p>シルバークラブ会員数6,292人 単位シルバークラブ数133団体 契約件数2,990件 参加者数0人</p>	<p>シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 シルバークラブ育成支援:年間を通じて、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 高齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 茨城県健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する。</p> <p>種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、パタンク、輪投げ</p> <p>シルバークラブ会員数6,670人 単位シルバークラブ数140団体 契約件数4,400件 参加者数600人</p>													

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和3年度 事業の成果・ 達成状況	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
																継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	以下の日程と内容で延べ4回の講座を実施し、全ての講座で現地開催と併せてZoomを活用したオンライン配信を実施した。 ① 9月25日 「つくば市内大学での社会力育成の取組み」 参加者22人 ② 10月24日 「地域を学びの場に社会力育てを目指すつくばね学」 参加者24人 ③ 12月5日 「女性の社会力が地域を育てる」 参加者12人 ④ 2月6日 「社会力を活かしたサステナブルな地域活性化の取組み」 参加者14人 講座開催数4回	令和4年度は「社会力について知る」という令和3年度の講座からバージョンアップし、社会力を生かして活躍していく人材である「社会力コーディネーター」を養成することをテーマとした講座を年5回実施する。 令和5年度以降の社会力を具体的に育成していくための事業展開を検討していく。 講座実施回数5回 講座満足度80%										
			2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民活動課	東日本大震災から10年が経過し、その後も大規模な自然災害が全国各地で発生している中、被害を最小限にとどめるために、住民一人一人が災害のリスクについて認識し、自分の身は自分で守る「自助」、自治会や自主防災組織など地域で互いに助け合う「共助」に関する内容で、6月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した。その後、改めて8月に開催を目指したが、茨城県独自の緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の対象エリアとなったため中止とした。 人材づくりイベントの参加者数0人	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。9月に開催を計画している。 人材づくりイベントの参加者数100人										
			2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【まちづくりに関する講座の実施】 1回実施し、計13名の市民の参加があった。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体2団体の申請に応じ、計7回の専門家派遣を行った。	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。 講座開催数1回 申請に応じた専門家の派遣7回	都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣8回									

つくば市は導入に向けて計画を進めています！

コミュニティ・スクール



近年、子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校教育のみでは極めて困難な社会全般の問題が出てきています。

それらの教育課題に対応するため、9年間を見通した「縦につながる小中一貫教育」を柱に、学校・家庭・地域の思いや願いを共有し、連携・協働しながら、社会全体で未来の創り手となる子供たちの育ちの場・学びを支えられるよう、保護者・学校・地域・行政が協力した「横につながる小中一貫教育」を目指し、「コミュニティ・スクール」導入を進めていきます。

つくば市教育長 森田 充

コミュニティ・スクールを通して 子供も 大人も 地域も ともに育ちあう
「地域づくり」「人づくり」を目指します

コミュニティ・スクールとは

学校運営協議会（地教行法第47条の5）を設置している学校のことです。学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みです。

※**学校運営の責任者は校長**であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

つくば市生涯学習審議会での議論のポイント

育てたい子供像
共通の目標・ビジョン

社会力を持った人材の必要性 →
どう育て、どう発揮するか
(人づくり、環境づくり)

学校と地域が
同じ目標に
向かっていける

学校

学校運営協議会

地域住民や保護者等が
学校運営に参画

パートナーシップ
学校と地域が一体となって連携・協力

地域

地域学校協働活動

学校運営協議会で熟議した
内容を踏まえた活動

子供を中心に、学校・家庭・地域・行政がつながる

コミュニティ・スクールの効果は

- 1 組織的・継続的な体制の構築 = 持続性
- 2 当事者意識・役割分担 = 社会総掛かり
- 3 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

コミュニティ・スクールの魅力

【子供たちにとって】

- ・豊かで多様な体験や学びが充実
- ・多くの人とのかかわりによる社会力の育成
- ・地域の担い手としての自覚の高まり
- ・安心、安全な生活

【学校にとって】

- ・地域の理解と協力を得た学校運営の実現
- ・地域資源を活用した、教育活動の充実
- ・地域との協働により、子供と向き合う時間の確保
- ・防犯・防災体制等が構築

【地域にとって】

- ・個々の経験を生かすことによる、充実感ややりがいの醸成
- ・学校を通じた多くの人との交流
- ・地域の活性化につながる
- ・防犯・防災体制等の構築

【保護者にとって】

- ・保護者同士や地域のみなさんとの人間関係の構築
- ・学校や地域に対する理解の深まり
- ・地域の中で子供たちが育てられているという安心感

学校運営協議会の役割

- 1 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 2 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる
- 3 教職員の任用※に関して、教育委員会に対して意見を述べるができる
- 4 学校評価（学校関係者評価）を行う

※任用とは、学校の課題解決や教育活動の充実のために校内体制の整備充実を図る観点から、学校と学校運営協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。特定の職員の採用任用に関する事、分限及び懲戒に関する事ではありません。

今後のコミュニティ・スクール導入計画

令和4年度にモデル検証校で実施し、年度ごとにコミュニティ・スクール導入校を増やしていく予定です。地域や学校等の実情を踏まえながら、令和7年度末までにつくば市内全小中学校、義務教育学校へコミュニティ・スクールの導入を目指します。



○つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

(設置)

第1条 市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動(以下「生涯学習」という。)の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

- (1) 生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項
- (2) その他生涯学習の推進に必要な事項

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学する者
(平9条例43・平30条例29・一部改正)

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 [前条第2項第1号](#)又は[第2号](#)に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(平9条例43・一部改正)

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平9条例43・一部改正)

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 [前項](#)の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

(委任)

第8条 [この条例](#)に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

[この条例](#)は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年条例第43号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成30年条例第29号)

この条例は、公布の日から施行する。

つくば市生涯学習審議会委員

任期:令和4年8月1日～令和6年7月31日

No.	氏名	よみ	任命区分	備考
1	飯島 眞市	いいじま しんいち	市民委員	
2	伊藤 達也	いとう たつや	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会 会長	
3	岡田 克司	おかだ かつじ	学識経験者 元学校長(手代木中学校長)	
4	金川 清治	かねかわ せいじ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会 会長	
5	木村 清隆	きむら きよたか	市議会議員	
6	佐野 洋子	さの ようこ	市民委員	
7	鈴木 朱里	すずき あかり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとーん 副代表理事	
8	関 瑞穂	せき みずほ	市民委員	
9	武田 直樹	たけだ なおき	学識経験者 NPO法人 フュージョン社会力創造パートナーズ理事 専務	
10	田中 秀夫	たなか ひでお	各種団体等の代表者 つくば市文化協会 会長	
11	田中 依子	たなか よりこ	市民委員	
12	長橋 進也	ながはし しんや	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会 顧問	
13	根本 典子	ねもと のりこ	市民委員	
14	萩原 武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市スポーツ協会 会長	
15	平野 浩之	ひらの ひろゆき	各種団体等の代表者 つくば市学校長会(つくば市立要小学校校長)	
16	船橋 秀彦	ふなばし ひでひこ	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 副会長	
17	星埜 祥子	ほしの しょうこ	各種団体等の代表者 子育て休憩室・ほっとステーションオアシス代表	
18	松村 美枝子	まつむら みえこ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会世話人代表	
19	溝上 智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 筑波大学 副学長	

敬称略、50音順

※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項
委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの

会 議 録

会議の名称		令和4年度第2回つくば市生涯学習審議会		
開催日時		令和5年(2023年)3月8日(水) 開会10:00 閉会12:00		
開催場所		つくば市役所2階 203会議室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	武田 直樹委員(会長)、木村 清隆委員(副会長)、飯島 眞市委員、岡田 克司委員、金川 清治委員、佐野 洋子委員、鈴木 朱里委員、田中 秀夫委員、田中 依子委員、長橋 進也委員、根本 典子委員、船橋 秀彦委員、星埜 祥子委員、松村 美枝子委員		
	その他	森田 充教育長		
	事務局	吉沼 正美教育局長、飯泉 法男次長、久保田 靖彦次長、澤頭 由紀子生涯学習推進課長、色川 純子課長補佐、渡辺 幹高係長、渡邊 亮太主査(社会教育主事)、尾野 千明主任、大久保 竣介主事、永野 泉社会教育指導員、佐藤 博社会教育指導員		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 意見交換「社会力の『発揮』について」 (2) 令和4年度以降の第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価方法について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会	1 開 会			

議次第	<p>2 教育長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 意見交換「社会力の『発揮』について」</p> <p>(2) 令和4年度以降の第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価方法について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
<p>1 開会</p> <p>事務局</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>森田教育長</p>	<p>ただいまから令和4年度第2回つくば市生涯学習審議会を開会いたします。はじめに教育長の森田より、委員の皆様に挨拶申し上げます。森田教育長よろしく願いいたします。</p> <p>皆様おはようございます。本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。</p> <p>学校では、心配いただいております新型コロナウイルス感染症の感染者がこのところは大分減ってきております。一方で、インフルエンザ感染者がかなり見られているという状況もあり、こちらも心配ではありますが、中学校は卒業式を来週の月曜日に迎えられる状況になっており、大変ながらも順調に進んでいると思っております。</p> <p>本日の審議会においては、次第の議事にありますように、新たな試みとして、意見交換を取り入れさせていただいております。今回のキーワードは「社会力」ということになっております。社会力は、つくば市教育大綱の一つの大きな柱であり、「他者を積極的に理解し、良い</p>

事務局	<p>す。今回は第1回目となり、まず意見交換の概要について事務局から説明をお願いします。</p> <p>～資料の1、2-1、2-2、3を説明～</p>
武田会長	<p>ありがとうございました。今説明があったとおり、意見交換のファシリテーターを私が務めさせていただきます。</p> <p>この後の進め方は、私が皆様から丁寧に御準備いただいた事前記入シート全員分をすべて読ませていただいております。それを踏まえて、市民委員の方を中心にしながら、五名程度を目安に、私から質問もさせていただきながら発表していただいて、その後、自由に意見交換をしていく流れで進めます。</p> <p>最終的に、今回の目的である「社会力の発揮において重要なこと」を抽出し、今後のつくば市生涯学習推進基本計画にいかしていきたいと考えております。</p> <p>早速ですけれども、まず飯島委員、お話いただいてよろしいですか。飯島委員が社会教育主事として御活躍いらした頃、私も前職でとてもお世話になりました。5分を目安に御発表お願いいたします。委員の皆さまは、資料3の1ページ目を御覧ください。</p>
飯島委員	<p>市民委員の飯島です。よろしく願いいたします。それではシートを御覧ください。最初に自身の活動ではありませんが、自身の住む地区で、何度か活動に参加し、</p>

	<p>社会力がうまく発揮できていると思うものを御紹介させていただきます。「上郷市街地活性化協議会」というもので、つくば市のサポートもあって出来上がった協議会ですが、筑波大学や明治大学をはじめとして、たくさんの方の地元の飲食店や団体と十分に話し合いをしながら、連携協力しているという点が社会力を発揮できていると思う一つのポイントです。</p> <p>もう一つは、地元の活性化のために、会員一人一人が大変意欲的に企画したり、運営したり、評価をしているという点です。</p> <p>次に、自身が社会教育主事ということで茨城県の生涯学習の事業を担当していましたので、その事業を一部紹介させていただきます。</p> <p>最初に茨城県生涯学習ネットワークフォーラムという事業があります。資料3で紹介したのは、令和2年度のフォーラムの内容ですが、いよいよ実施というところで新型コロナの緊急事態宣言が出て直前で中止になってしまいました。しかし、この事業が、私が実施したいと強い思いのあった事業であり、また、企画、準備は十分に整っていましたので紹介させていただきます。</p> <p>まずテーマなのですが、子どもたちを取り巻く問題が多い中で、食育も話題になっている時期でありましたので、テーマは子どもの未来を考える「子ども・子育て応援フォーラム」としました。副題として「子どもの未来のために、今私たちができることを考える」としました。</p> <p>このようにその時の社会の状況を把握してテーマを</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

決定しました。そして、このテーマを解決するために、どのような人に参加していただくか、これに一番時間をかけて、話し合いをしました。最終的に、食育の講話をしてもらうこととなり、コウ ケンテツ氏に講師として「キッチンから始まる家族の絆」というテーマで講話をいただくことにしました。

それから、研究者では子育ての研究をしている大学の教授の先生、それから社会福祉法人、子育て支援団体、保護者の代表の方に参加してもらうということとし、決定しました。

関係者とは十分に打ち合わせをして、本番を迎えるはずだったのですが、残念ながら中止になってしまいました。

次に紹介したい事業は、茨城県生涯学習ボランティア総合センター事業という事業です。「スマイルステーション」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。茨城県の生涯学習ボランティア総合サイトといいまして、ボランティア活動をしたい人、ボランティアを探している人をつなぐマッチングサイトです。

そのサイトにアクセスすれば、ボランティアになりたい人は登録ができ、こういうボランティアが欲しいという人は、そこから検索をして依頼できる、というサイトで、私はそのサイトの運営管理をしていました。

それからこの事業では、ボランティアの養成研修を実施しました。だんだんボランティアをする人が少なくなってきましたので、この養成研修は大変重要な事業でし

	<p>た。この養成研修の講師として、武田先生には毎年何回も来ていただいて講話をお願いしました。</p> <p>次に今現在、地区の区長をしておりまして、今年度こういうことがありました。地区に危険な道路があり、小学生の通学路を変更したほうがいいのではないかという話があって、色々な立場の人とどうしたらいいか、より良い方法を協議しました。</p> <p>結果、4月から新しい通学路を登下校することになったのですが、その過程で関係者が本当に真剣にどうしたらよくなるだろうかということ話し合いの中で出してくれました。これも社会力の発揮に関係すると思い、紹介します。</p> <p>事前記入シートの項目2番目の社会力をうまく発揮できているという考えるポイントですが、自分の経験から、一つ目は社会の状況、これを正確に把握する必要があります。今、社会は何を求めているのか。課題は何なのか。社会の現在の状況を把握することが一番大事ではないかなというふうに思っています。</p> <p>二つ目は、様々な団体や施設との連携協力、丁寧な対応をしてコミュニケーション能力が必要になってくると思います。</p> <p>三つ目は、課題解決への意欲です。意欲がないと、色々な工夫もできないし、課題解決までには到達できないと思いますので。</p> <p>それから四つ目は、評価です。変容の確認、これが大事であると思っています。以上です。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>武田会長</p>	<p>とてもわかりやすくまとめていただき、ありがとうございます。まとめていただいているように、社会力を発揮するためのポイントは四つということで、まず、社会の状況をきちんと把握して、その課題に対してアプローチをしていくこと。二つ目はコーディネーション、つなぐということ、合意形成であるとか、その辺りが大事なのではないかということです。三つ目に、広報の部分、やはり思いのこもった伝わりやすい広報をどのようにしていくかということ。最後に4番目として変容の確認ということも、プロジェクトをどのようにマネジメントしていくか、PDCA サイクルをまわしていくのかということであると感じました。</p> <p>そういったところがうまく発揮できていた、或いはそこに苦心しながら、社会教育主事として活動されていたのだと思います。とてもわかりやすくまとめていただきましてありがとうございます。</p> <p>続きまして、佐野委員お願いいたします。特に資料に書いていただいた各活動の中で、2番目の「竹園手話サークル」、後は3番目の「PCY298」についてとても興味深かったので、これらを中心にしながら、発表ください。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>課題の意図をちゃんと理解できているかどうか自信がありませんが、順にお話したいと思います。</p> <p>最初に私が「常民大学」という活動を挙げたのは、常民大学は、夫と私がやっている月に1回の生涯学習の試</p>

みです。もともと、公園の犬の散歩仲間同士の話し合いで、こんなことができたらいねという話があり、それを端緒に始まったものです。

自分たちのことを知る、自分の専門でやってきたことや、自分が打ち込んできたことをみんなと共有するという、そうした話の場です。その中で、資料3を読んでいただければわかりますが、いろいろなテーマを取り上げてお話しています。次回のテーマは、つくば市等には多く見られるのですが、「犬卒塔婆」という卒塔婆があります。そこから、犬をめぐる民俗について、茨城県の話をする予定です。

この地域に住む自分達の文化というものがどういうものなのか、それから自分が生きてきた人生の中でどのような知識、ナレッジを獲得してきたのか、ということをし客観視して、それをお互いに学ぶという場を作っています。

この活動が、公園で散歩をしている仲間同士で「このようなことを始めよう」という話が端緒になって始まった会であること、それがとてもいいことだと思っています。このことから、公園には、生涯学習における出会いの場という機能もあるのだなと思っています、そのことを皆さんと共有したく、資料の始めに挙げました。

その次に「竹園手話サークル」という活動を挙げています。このサークル自体は、とても伝統のあるサークルで、もう20年以上の歴史があります。月2回、第1第3月曜日の10時から12時まで、手話を言語とする耳の

	<p>聞こえない聾の人と、耳が聞こえて、手話は自分の言語ではないけれどその手話を学ぶ人、学びたいと思う人が集まって手話でのコミュニケーションをしていく会です。</p> <p>私自身は聴こえる人なので、なぜその手話に関心を持ったのかというと、基本的にはつくば市の手話奉仕員養成講座に申し込んで、手話奉仕員養成講座を計 60 回受講して、それから手話を通して聾の人の、手助けと言う訳ではなく、一緒に社会を生きる対象として一緒に時間を過ごしていきたいと思い、手話サークルにその後登録しました。</p> <p>手話サークルは、耳の聞こえる人にとっての生涯学習というか、生涯学習とは要するに多様性を理解するということがものすごいキーポイントだと思います。聞こえる人にとっての生涯学習の場であるけれども、耳の聞こえない方にとっても、自分たちの言語を話す場というのが中々ないので、その場としても貴重です。</p> <p>今年の 1 月には、つくば市生涯学習推進課に御協力をいただいて、つくば市の防災についての出前講座をつくば市の危機管理課の職員を講師として開きました。その際に、耳の聞こえない人にとっては手話通訳が必要であったため、つくば市で手話通訳を充てていただきました。それが大評判で、とてもみんな喜んでいたということがあります。行政情報は中々届きにくいものではありますが、そういう場合に、それぞれの交流センターでの市民の活動の場に、市の出前講座を活用して、行政情報を</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>届けていくというのも生涯学習の一環であると思い、この場で今後の生涯学習を考える何らかのヒントを汲むことができればと思い、お話ししました。</p> <p>それから「PCY298」は、NPO 法人で、パソコン要約筆記をしている団体です。この活動については、私も参加しているし、それからそれ以外に、私はパソコン要約筆記というものの市の講座を受け、そして自分の技能を生かして、他の局面でもパソコン要約筆記のボランティアをしています。</p> <p>これらが生涯学習推進を考えるに当たってのポイントだと思っていることを2点お話しします。</p> <p>1点目は、出前講座とか、そうしたことが市の行政情報を届けるための一つのアイテムになるので、それをどんどん活用していくようにしていくといいのではないかなと思うことです。</p> <p>それからもう一つは、ここに書いていませんが、去年の12月から、私は民生委員になりました。ところが私の住んでいる地区では区会もなく、地域の方と接する方法がない状態です。ですので、そうした場合に、例えば民生委員がその地域の交流センターのいろいろなサークルに御挨拶に伺う、その地域のわずかにある区会のところに御挨拶に伺うなど、地域の核になる人が地域にアウトリーチするときのアシストをしていくと、やがては核になる人が育って行って、ネットワークができてくるということになります。その核になる人、シードを発見すること、それから種が育つことを支援することが重要</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>武田会長</p>	<p>であると思います。</p> <p>ありがとうございました。佐野委員から、出前講座をうまく活用した方がいいということ、また、ニーズをどのように発見していくか、先ほどの飯島委員の社会状況の把握、これに通じるところがあるかと思いますが、後はそれを支援する力がとても大事なのではないかというお話であったかと思います。</p> <p>あと、私がお話を聞いてポイントであると思ったことは、この手話サークルが、聾の方が代表で、当事者自らが動かれているというところも、大きなポイントであると思います。それをサポートしていくということは、市民の役割になるかと思いますが、ある意味「当事者力」ということができると感じました。ありがとうございます。</p> <p>続きまして鈴木委員お願いいたします。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>よろしく申し上げます。私が所属しております「NPO法人ままとーん」の活動を少し紹介させていただきます。</p> <p>現在、正会員数は46人で活動しています。主に子育て中のお母さんやお父さんが中心です。1999年、ままとーんは発足し、「子どもがいてもできること」、「子どもがいるからできること」を合言葉に活動しております。</p> <p>現在、行っている主な活動は、子育て支援拠点「ままとーん」です。</p>

	<p>と一んつどいの広場」、これは未就園児の親子が集える場所、相談できる場所を運営しています。</p> <p>次に「赤ちゃんが学校にやってくる」事業です。1歳半までの赤ちゃんとそのお父さんお母さんと一緒に、地域の学校、小学校、中学校や高校を訪れて、児童生徒との交流、触れ合いの場を作っています。この活動は学校を舞台に、地域、世代をつなぎ、未来の子育てを考えていこうという取り組みです。</p> <p>また、マタニティサロン「先輩ママとの交流会」では、初妊婦さん向けに妊娠出産育児のリアルな体験談を伝えています。それに加えて、最近ではマタニティ講演会を行っております。最近、お父さんが育休を取得するという世帯も多くいらっしゃるので、その先輩パパからの経験談を、妊婦さんとその家族を対象にお話しています。</p> <p>フリーペーパーの発行もしております。ままと一んが、1999年に活動したきっかけとして、やはり自分たちがこういうことを知っているといいよねということは、他のお母さんたちもきっと同じことをきっと知りたいと思っているよね、という思いがあり、そこからフリーペーパーや本の発行を行いました。皆様に本日配布させていただきましたが、これらのフリーペーパーが現在発行しているものです。</p> <p>主な活動としては以上ですが、その中で社会力がうまく発揮できているポイントとして2つ紹介させていただければと思います。一つ目は、子育て当事者である私</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>たちが同じ世代の方に向けて活動しているということです。やはり同じ目線で、同じ世代の支援、サポートをしていくところが最大の特徴であると思います。自分たちが知りたいことや、こうしたものがあるといいよねということについて、自分たちが企画運営をして、自分たちが講師になっていることもあります。そうしたことを SNS 等で発信することで、誰かの「面白そうだな」「行ってみようかな」という、新しいコミュニティに参加するきっかけになってくれればいいと感じています。</p> <p>もう一つは、異なる世代や地域に向けての活動として、「赤ちゃんが学校にやってくる」事業があります。新型コロナウイルス感染症の流行までは、小学校や中学校、高校を対象に行わせていただいていたのですが、今年度に関しては、高校を中心に実施しました。</p> <p>この事業については、つくば市内外で実施していますが、赤ちゃんを中心にその学校の生徒、学校の先生、親、そして私たちスタッフで、授業を一緒に行うことにより、世代を超えて赤ちゃんの持つ力を感じあうことができるので、そこを大切にしていけたらいいと感じています。</p> <p>今、つくば市でコミュニティ・スクールの取り組みをしていると思います。この活動では人員不足という点もありますが、コミュニティ・スクールの枠組みと連携させていただくことができれば、より多くの学校で地域住民の皆様との交流も深め、活動の幅をより広げられると思っています。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

武田会長	<p>地域の人たちが、実際赤ちゃんを連れて出向いたり、保護者の方がボランティアに参加して、学校側の運営の立場で取り組んでいったりすることで、「この子がもうこんなに大きくなったんだね」等の地域での繋がりがつくっていけると思っています。</p> <p>そして、私たち自身は子育て真最中の人たちがほとんどで、1999年から来年で約25周年を迎えます。その中で、どんどんスタッフは移り変わっていています。子育てというのは移り変わっていく訳ですが、最初に立ち上げてくれた人たちの思いをつなぎながら、次世代の方につなげていければいいと感じています。</p> <p>ただ、最近は共働き家庭が増えていることで、長期間スタッフとして活動に参加してくれる人が少なくなってきたという印象です。しかし、限られた時間で、育休の間だけでも参加したいという方たちも増えてきております。</p> <p>スタッフの入れ替わりがある中で、今後どのような形で人員を確保していくかが課題になっています。</p> <p>ありがとうございました。鈴木委員からも、やはりママが当事者として活動している、それがままと一んの原点であり、貴重なところだと思います。</p> <p>また、運営サイドでありながら、一緒に学ぶ、一緒に子どもの成長を喜ぶなど、それができる環境を作っていることが、ままと一んの活動がうまくいっているところと思いました。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>田中依子委員</p>	<p>あとは、SNS による情報発信でより参加しやすくなる工夫をされたり、参加している側が今度運営側に回っていったりすることを挙げてもらいました。人の循環ができる仕組みというのも、ままと一んさんが運営継続をしてきて、今ではつくば老舗の NPO 法人になっておりますけども、大事なポイントであると感じました。</p> <p>では、続きまして田中依子委員。よろしくお願いいたします。</p> <p>社会力の発揮には色々な形があり、大きな規模のものもあると思いますが、最近すごくよいと思っている活動があり、資料 3 に書かせていただきました。</p> <p>私の友人で 10 年ほど前に病気をきっかけに障害を負ってしまった人がいます。その人は、すごく努力をしてリハビリをされて元気になり、今つくば市の身体障害者社会福祉協議会のメンバーとして活躍しています。その彼女が、「何とかこの地域の中で」ということで、「ボッチャを楽しみましょう」という会を今年立ち上げました。自分の団地にチラシを配るところから始め、参加は誰でも可能とし、今年 1 月 2 月は月 1 回のペースで、15 名前後活動に参加され、子どもから 80 代の人までが参加しています。そこには仲間の協議会メンバー 3 人も一緒に活動されているということを伺いました。</p> <p>この活動のポイントについて、一点目は、新型コロナウイルス感染症の影響により、昔ほどいわゆる団地の繋がりがどんどん希薄になっている中で、この地域のメン</p>
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

バーとまた親しくなれるきっかけを作っているということ
ことです。

二つ目には子どもから高齢の人まで、幅広い世代の方
が交流できるということ、そして、健常者も障害がある
人も一体となることができるということです。彼女は、体に
不自由が出てくると引きこもっている方がすごく多く、
そうした人たちが地域の人と関われるようになれるこ
とを望んでいました。

運営していく側ということでは、地域で顔見知りの仲
でお願いをすると色々な役割を担ってくれ、メンバーが
増えてきて助かっているそうです。地域の公民館も無料
で使えることもあり、いい形で継続をしていきたいとい
うことを伺いました。

こうした集まりが、特に大きなエネルギーをかけなく
とも、いろいろな地域でできたら素晴らしいと思いまし
た。

もう一つの活動として、私はテニスサークルをずっと
行っています。そうした中で、先日よいお話を聞きました。

私の講師だった方は、つくば市でスポーツ振興に熱心
に取り組まれた人でした。去年亡くなられて、奥様から
聞いたことをここに書きました。サークルを行っている
中で、仕事で行き詰まり、職場に行けなくなっていた人
をサークル活動に呼ぶことで、その彼が本当に元気にな
り、社会復帰をすることができたという話です。それを
聞いて、素晴らしいと思いました。私も、今豊里交流セ

<p>武田会長</p>	<p>ンターでサークル活動を行っていますが、文化祭等になると大きなものになりますが、一緒に参加をして体験してみたり、関わってみたり、そうした機会があつて、コミュニティの場を作ることができると思います。</p> <p>実際活動を行っている1人としては、サークルの中で習っている立場では、なかなかそのようなことは言い出しにくいので、この月、この地域で活動してみようといった、行政からの発信があつて、それに皆で取り組むという方法であれば、いいきっかけができてくると思っています。</p> <p>本当に孤立して引きこもっていたりする人を取り残さないために、地域でできることを考えていけたらと思います。</p> <p>ありがとうございます。「誰でも参加をできる」、特に地域の関係性が希薄になっている中で誰でも参加できるオープンな場をローカルに設ける、それがとても大事だなと感じました。</p> <p>また、地域でお互いにお互いができる関係、これがあるというのも「地域だからこそ協力しよう」という気持ちが生まれるのであろうと思いました。</p> <p>テニスサークルの活動では、公民館の講座からテニスサークル、そのあと御自身でサークルを立ち上げられて、先ほどのお話にもありました参加者から運営側に回っていく、そういった典型的なパターンだと思いました。</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>根本委員</p>	<p>最後に、それぞれの地域にいる人の個性を活かして活躍の場を提供し、それがやりがいに繋がっていく、そういったことをコーディネートされている。そこもまた素晴らしいポイントだなと思いました。</p> <p>では最後に根本委員、お願いします。</p> <p>市民委員の根本です。資料3、17 ページを御覧ください。</p> <p>私は、「みんなの食堂」という活動を紹介します。この活動は、つくば市のこども未来課で実施している事業ですので、少し福祉的な視点になります。</p> <p>この活動は、子供から高齢の人まで対象にして参加を募っており、地域との交流を深めているようです。ひきこもり支援策を含めながら事業を進めており、つくば市にとりましても今後大変重要な事業として発展していくと考えています。</p> <p>その活動では、ボランティアの参加もあり、より良い社会を作ろうとする、社会の向上に寄与していると思います。</p> <p>団体としては、「みんなのための子ども食堂」や「パオバブの子供食堂」などがありまして、7団体が活動をしているということになります。この食堂を知ったのは、他の事業でこの食堂を開催している方から「誰でもおいでよみんなの食堂」というパンフレットをいただき、つくば市ではこのようなすばらしい事業が行われているのかと思いました。</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

そうしたときに、この「社会力の発揮」というテーマで今回教育委員会から意見交換の機会がありましたので、福祉的な視点ではありますけども、社会力の発揮について非常にその力を発揮しているのではないかと思います、御紹介したいと思いました。

次に社会力がうまく発揮できていると考えるポイントです。そもそもこの食堂に関しては皆さんも御存知であると思いますが、子ども食堂は全国的に広まっていった事業でありながら、つくば市では、子どもに限らず、障害のある人、それから外国人も含め、共生社会の実現に向けての動きが中心となっている事業というところが非常にポイントであると思います。

この食堂は、家庭の中で、温かい手づくりの食事ができない子どもたちや高齢者などたくさんの人々が、参加して存在しています。全国的には子ども食堂として活動しているケースが多いと思われます。そうした中で、そのような子供に限らず、誰もが参加できる、そのような参加型の食堂というところが非常に社会力をうまく発揮できているというポイントと考えました。

現在のニーズをしっかりキャッチして、つくば市では共生社会の実現に向けて、食堂への参加者を子どもと限定せず、誰もが参加できる形をとりながら活動を行っている点は非常に評価できると思いました。さらに事業費を応援していただくために、つくば市の補助事業が制度化されていて、このような活動を行っている団体にとってはとてもプラスがあることも評価できます。

	<p>今後もボランティアの人々の手伝いを受けながら、多様な人々が協力してより良い社会を作り上げていく力、つまり社会力の向上にますます寄与していただける活動として、私も応援していきたいと考えています。そして1人でも多くの方々に対して、温かい手づくりの食事を提供している活動を今後も応援していきたいと思いました。</p> <p>資料には記載していませんが、そもそも生涯学習とは何かということになりますと、平成30年度に文部科学省から白書に基づいて発表されている内容を参照すると、一般には「人々が生涯に行うあらゆる学習」となっています。その中でボランティア活動の内容も生涯学習として位置付けられています。</p> <p>人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択できることところが特徴になっていますが、その点についてはこの子ども食堂を運営するに当たりまして、ボランティアや主催者が、栄養学的視点から非常に研究をされているという点が生涯学習に繋がっていくと考えました。栄養学につきましても、人間の体を作りながらエネルギーの基となる栄養について研究する学問となっています。そして、食物から得られる栄養は人間にとって不可欠でありますし、栄養の不足や、極度の偏食は健康を損ないます。そして、病気の原因にもなりかねません。そうした意味から、この子ども食堂を主催している代表者は、常に栄養学を学びながらそしてボランティアの人たちとも、どのような食物が人々の体にどのような影響を与</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>武田会長</p>	<p>えるか、そしてどのような食材が良いのか、常に栄養学の観点から研究を進めているそうです。</p> <p>そうした中で、ボランティアの人たちとも協議しながら、今日は何にしようかなという形で色々と研究しながら食事の提供をしているというところが、やはり生涯学習に通じた素晴らしい学習ではないかと思いました。</p> <p>どのような食事が人間の体づくりにプラスになるか。常にそのようなことを考えながら研究されているこの子ども食堂の活動は、まさに社会力の発揮に寄与し、さらに生涯学習に努めていると考えました。</p> <p>ありがとうございました。丁寧にまとめていただきましてありがとうございます。私でもまとめますと、まず一つ目で、現在のニーズ、きちんとキャッチされているということや、二つ目として子ども食堂とうたってはいるものの、孤立防止、ひきこもり支援などそうしたことも視野に入れ、幅広く誰もが参加できる、そうしたオープンな場をとっているということも、先ほどままとーんさんのケースで出たようにポイントとして挙げられます。</p> <p>3番目のポイントで、この事業を応援するためにつくば市の補助事業で、きちんと体系化されているという的確な行政支援がされているというところも大きなポイントかなと思います。最初の飯島委員もボランティアセンター的な活動をされたり、佐野委員も、個人として社協のボランティアセンターに御登録を考えていらっし</p>
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>やったりと、社会力が発揮しやすい行政の後押しがあるということも、大きな点であると考えました。</p> <p>本来であれば全員から発表いただきたいところですが、今回5名に絞らせていただきました。皆様、発表いただきましてありがとうございます。</p> <p>ここまでのポイントについて事務局が、電子ホワイトボードを使って、ポイントをまとめています。それに加えて、さらにこのような点もあるのではないかとあったり、先ほど発表いただいた方にこの点も深掘りしたいというような御質問でも結構ですので、ぜひ忌憚なく自由に御意見御質問ください。</p>
長橋委員	<p>様々な活動の発表ありがとうございます。聞かせていただいた中で、行政発信のものに参加してから運営側に戻る事例発表や、行政から発信していただきたいといった意見があったと思います。</p> <p>いろいろな活動を立ち上げるのは非常に労力が必要で大変なことであると思うので、行政主導で、まずはきっかけを作るという活動があるといいなと思いました。その点を電子ホワイトボードに書き加えていただけるといいかなと思います。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。市民だけではなくて、やはり行政からも積極的に立ち上げに関わって欲しいということでもあります。</p>

<p>松村委員</p>	<p>ただいまの長橋委員の御意見ですが、私の場合は手話サークルをさせていただいて、30 数年になります。</p> <p>はじめに、荃崎町時代の話になりますが、生涯学習や公民館講座、そちらに手話講座のような社会に貢献できるような講座をやって欲しいというのは再三お願いに行きました。時間はかかりましたが社会福祉協議会を通して手話講座が開かれました。開講から2年ほど経った後、社会福祉協議会から手話サークルを立ち上げて欲しいと依頼があり、立ち上げてそれがずっと続いています。</p> <p>その頃は、行政、社会福祉協議会からの仕掛けというものがたくさんあり、介護教室をしたそのメンバーたちに介護ボランティアを作ってほしいという話があり、それでいまだに続いているというところもあります。行政からの仕掛けというものはとても大事であると思います。</p> <p>社会力を育てるにはそうしたところから、編み物教室もいいのですけれども、そうした社会貢献の分野で社会力を育てるような講座をやっていただけたらなと思っています。</p>
<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。他、いかがでしょうか。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>今の松村委員のお話に関連しますが、すでにつくば市では様々な奉仕員養成講座を行っています。社会貢献という意味では、その奉仕員養成講座で養成された人たち</p>

<p>武田会長</p>	<p>をいかに活用するかということを考えることがボランティア活動をどのように活性化していくかということについての一番の早道です。</p> <p>ボランティアをする人は、その主体となる当事者です。そのボランティアされる対象の人たちというのも、当事者であり、その2つの側面の当事者と一緒に、市が携わって活動や団体などの立ち上げの支援をしていただくことがよいと思います。</p> <p>ありがとうございます。佐野委員は、数々の活動に自ら立ち上げから関わられたと資料3にありましたが、当事者の思いを活動につなげる、団体を立ち上げるというのはハードルが高い気がします。そこをどのように乗り越えられていったのでしょうか。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>それは乗り越えられていません。そこが私にとって一番の課題です。</p> <p>私が見渡したところ、現在奉仕員養成講座というものがあり、すでに養成されている人たちがいます。ですが、養成が終わった途端に解散ということになってしまって、その後奉仕する対象の人たちと繋がりを持つ場というのが用意されていません。</p> <p>それから、自分たちの奉仕活動をどのようにしていけばよいのかということについても、ヒントが用意されないまま放り出された格好になってしまうものですから、それがすごくもったいないと思っています。</p>

	<p>何とかその当事者の団体、私の場合は聴覚障害の方と触れ合う機会が多いものですから、その聴覚障害当事者の人と何とかして、この人たちを活用する場を考えたいという話だけをしているという状態です。</p>
<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。木村委員どうぞ。</p>
<p>木村委員</p>	<p>皆さんの発表、報告に目を通させていただき感動しております。幾つか補足的なものを含めてお話させていただきます。</p> <p>最初に飯島委員から上郷活性化協議会のことを御紹介いただきました。実は私も地元で最初から一緒に取り組んでいる活動であり、現在会員も70名近くに増えておりまして、毎回色々な企画をやるごとに、来場者も先日は700人いて、文化協会の方々、それから青少年を育てる市民の会の皆さんにもお手伝いしていただいて、すごく地域がにぎやかになってきていると思っております。</p> <p>その中でもPDCAサイクルをしっかりと行いながらということで、活動を振り返ると常に反省がありますが、先輩方を含めたみんなで活動している良いきっかけになっているかなというふうに思っております。</p> <p>続いて、佐野委員から手話サークルと要約筆記のお話がありました。私事ではありますが20年手話通訳、要約筆記に携わっております。私は万博で手話通訳の手伝いを行っていたこともありますが、手話や要約筆記、い</p>

	<p>ろいろなスペシャリストの人たちが増えています。</p> <p>本日、1時から総務教育常任委員会、予算審議があるのですが、その中の来年度の予算の中にも手話の予算がいろいろな形でとられています。そういった中において、健常者だけでなく、難聴者とか障害者といった方々が活躍できるような予算も可能な限りとっていただきたいと要望しようと思っています。</p> <p>コミュニケーションについて、飯島委員のお話にありましたが、英語は何のために勉強するのかについては、世界平和のためコミュニケーションをとる、それがきっかけだと思っています。そのためには、まず国内において、難聴者の方とコミュニケーションをすることは本当に大切だと思っており、私も議員をしていますけど、演説会、選挙の時は要約筆記ができません。手話通訳はできるのですけれども、違反になってしまいます。文字は書いても、手話はできない方がたくさんいらっしゃいますので、ぜひそういったことも含めて、コミュニケーションを生活の中でとりたいと思っています。</p> <p>田中依子委員の発表も、地域ということをすごく大切にされていて、やはり地域の活性化の中で、市に何をやってくれ、市が何をやってくれないという話よりも、やはり地域への思いが大切だなというふうに感じました。コミュニケーションを重ねていくことが、地域の社会力の大きな一つ一つの積み重ねになると思いました。</p> <p>最後に子ども食堂の件ですが、根本委員のお話にありましたように、子ども食堂の視野は幅広く、その中に独</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>居の孤食をなくすことも含まれています。子ども食堂だけだと、差別になったり行きにくくなったりしないように、孤食をなくすということで、独居老人であったり、外国人の留学生であったり、技能研修生でも参加の対象になっています。先日も私も豊里の食堂に2回ほど続けて参加させていただきました。</p> <p>その中で、今お話にあった栄養学、食育もそうですが、日本文化の24節気、立春、お月見など、それらに合わせた食事も提供しながら、そういったことも説明されていることで、地域や日本の伝統文化の発信にも幅広く使われているのだなと思っておりました。</p> <p>市内では、様々、本質的な取り組みがされていますので、それぞれの活躍しているものを横に広げて、場合によっては教育局もしくは経済部、市民部など市からお手伝いをさせていただいて、予算も取り、まさしくつくば市全体の社会力、地域力が大きくなっていくことを望みたいと思っています。</p>
武田会長	<p>ありがとうございました。では船橋委員、どうぞ。</p>
船橋委員	<p>皆さんの貴重なお話を聞かせていただきました。一つ、興味を持った点を紹介します。</p> <p>田中依子委員の発表で、テニスサークルの話題がありました。一般に、生涯学習の場としていろいろな教室があると思います。その中で職場に行けなくなってしまった人が救われた、人間性を回復していったという話があ</p>

<p>武田会長</p>	<p>り、そういったことが広く展開できると良いなあと思います。</p> <p>私が思ったのは、生涯学習の場で書道をやったり生け花をやったり、いろいろな取り組みがありますが、地域の障害のある人たちにはテニスや生け花をする経験がほとんどありません。その人たちに向けて、年に1回、地域に対してオープンにする取り組みをしていただくとよいと思います。自分が楽しむだけではなくて、一歩地域に開いた新たな生涯学習の展開になると思います。そうした気持ちが大事な気がします。そうすると、今ある様々な活動が、かなり広がって、多様な人たちを救うことができると思いました。</p> <p>ありがとうございます。第3次つくば市生涯学習推進基本計画では、まさに生涯学習の場で自分だけスキルを高めるだけではなく、それをさらに活かしていこうというところまで踏み込んでおります。まさに船橋委員がおっしゃられたことだと思います。</p> <p>社会力の発揮のポイントということで、皆様から様々な知見を共有いただきまして、例えば現代のニーズをどのように把握するのかであったり、コーディネーション・合意形成の力であったり、支援する力、或いは当事者が自ら動くような環境をつくったり、それをわかりやすく伝える広報であったり、そういった様々なポイントを挙げていただきました。</p> <p>それらを踏まえて、つくば市民が皆様のような社会力</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>長橋委員</p>	<p>を發揮して活躍する人材になるにはどのようなことをしていけばいいのか、それが今、つくば市の生涯学習審議会の中では、求められているテーマとっております。</p> <p>どのようにすれば皆様のように社会力を發揮できる、今ここに挙げられているような、このような力を身につけることができるのか。この辺りについて御意見いただけないでしょうか。長橋委員お願いします。</p> <p>少しずれてしまうかもしれませんが、このような政策の中で、視線として高校や大学が抜けていると感じてまいります。今日の発表の中で、ままと一んさんが高校に行って、赤ちゃんと触れ合ったり、飯島委員が大学と一緒に上郷活性化委員会をしたりするという紹介があって、非常にいい取り組みだなと思います。</p> <p>そして、高校生や大学生は非常に多感で発信力もありますので、そういった方を取り込んでいくことで将来の生涯学習につなげていくという活動をしていくことで、社会力のある人間を育てていくことができると思います。どうしてもつくば市の政策なので幼保小中というところに視線が向きがちですが、やはり高校生・大学生というのは取り込んでいくとすごくいい力になるのではないかなと思います。</p>
<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。やはり、学校教育との連携は重要です。他、特にまだ御発言されていない方を中心に</p>

<p>岡田委員</p>	<p>していかがですか。岡田委員、お願いします。</p> <p>今、学校との関わりが重要だというお話をさせていただきました。</p> <p>私は青少年を育てるつくば市民の会の荃崎支部で活動をしています。私たちの活動では、幼稚園から高校までの子どもさんたちとの関わりをすごく大事にしております。もともと「青少年を育てる」というタイトルにある通り、青少年の健全育成と地域家庭との連携をねらった団体ではありますが、いろいろな行事の中で、小中学生と高校生を取り込んだ活動をしています。今日の資料の2ページを見ていただくと記載がありますが、一つは毎月、学校へ出かけて行って挨拶運動を展開しています。それから、夏休みにはキャンドルナイトと称して、親子で電気を消して語らう場を作りましょうという活動をしております。その写真を撮り、応募していただくと記念品をお送りするという活動です。</p> <p>それから秋には、親子でサツマイモを掘ろう、一緒にそこで語らう場を設けようという活動もしています。</p> <p>ただ新型コロナウイルス感染症の影響で、親子で一緒に掘るといようなことは近年できていません。学校、これも幼保小中高までサツマイモをお届けして、親子で一緒に食べてくださいねといような活動をしています。</p> <p>2月には支部大会と称して、各地区及び学校から児童生徒及び大人の方の善行賞、良い行いを推薦していただ</p>
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>武田会長</p>	<p>いてそれを表彰したり、或いは小中高校生に青少年の主張という形で考えていることを発表していただいたりという活動をしています。</p> <p>基本的には最初に申し上げた通り、青少年の健全育成が根底にあります。茎崎地区はどちらかというと過疎化してきていて、若い子どもたちから地区と密接に結びついた教育をすることが大事だという基本的な考え方があります。</p> <p>先ほどの御意見と重なる部分がありますが、やはり子ども、青少年と関わることはこれからの組織づくりの中にはすごく大事な部分かなというふうに感じておりました。</p> <p>地域の大人が子どもに積極的に関わっていく、そのような社会力を育成するというような取り組みがこの市民の会様の活動だと思いました。資料3の内容を見させていただくと、やはり一緒に大人も子どもも協働しながら学び合うという、実践的なところから社会力を育成していこうという活動であると受け取りました。</p> <p>その中に、善行というようなキーワードで、表彰制度をするといった、エンパワーメントする取り組みも工夫しながら実践されていることが素晴らしいと感じました。</p> <p>他いかがでしょうか。どのように社会力のある人材を育成していくのかというところですね。皆さんのようにどうしたらなっていけるのかということです。</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

木村委員	<p>今、青少年を育てる市民の会荃崎支部様のお話がありましたけれども、豊里地区について、金川支部長、また青少年を育てる市民の会の前会長でもある方がいらっしゃる中、私が説明するのも、僭越ではありますが、実は金川委員より以前から御提言いただいていることで、つくば市ならではの国際的な子どもたちの意識を高めて、人材育成に何かできないかということをお話いただいております。</p> <p>数年前から外国の人を日本に招聘して、今鹿島、沼崎、上郷小学校、豊里中学校それからインターナショナルスクールで、外国の人に対して、教育局の方にもお世話になりながら交流事業を行って、そこで外国の文化をそして日本の文化を表現しています。そして、その中で、英語でコミュニケーションをとることによって、直近ではインドネシアやウクライナの人も来たのですが、世界に知り合いの友達ができます。そうすれば、その子どもたちはその国と戦争するなんてことを考えることにならない、平和に繋がるという願いをもって実施しています。</p> <p>この度も、市民の会等からサポートをいただき、小学生の子どもたちに、インターネットにも、教科書にも書いてないようなつくばの魅力を表現しましょうという取り組みを行いました。そうすると、自分の地域のことをお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんに聞いて、外国の方に発表できます。それもすごくナチュラルな英語で発表ができました。外国の人から、子どもたち</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

金川委員

が刺激を受け、それを自ら発信して、自宅でおじいちゃんおばあちゃんとコミュニケーションをとるということで人材育成に繋がっていると感じています。

青少年について、特につくば市に関しては茨城県の大いにも行きましたが、つくば市は国際化されている都市で、青少年を育てる市民の会では国際交流はどのようなことをされているのですかという質問が大変多いです。

そのような中で今、木村委員の話で出たとおり、ここ2、3年、外国との交流について機運があり取り組んでいます。

また荃崎の青少年を育てるつくば市民の会の皆さんから朝の挨拶声かけ運動の話が出ましたが、ただ大人が子供に挨拶をするというだけではない創意工夫も大事になってきたと感じています。

その他に、私が子どもと関わっていて、学校をしばしばお伺いしています。昔の不良少年というような、タバコを吸ったり、喧嘩をしたりというような子は、今はいませんが、どの学校も周期的に少し乱れる時期があります。それを見逃してしまうと伝染していつてしまうのですが、私なりに感じているのは、地域、学校、家庭という中で特に家庭というのが一番大事であるということです。家庭の中で一番大事であるのは、やはり経済的に余裕を持った家庭であることと、子供の感情的乱れは関係しているのかなと感じています。

経済的に余裕を持つためには、貯蓄や投資が大事であ

	<p>ると子供たちに伝えることもあります。</p> <p>細かく申し上げましたが、家庭が一番大事ですよということを、青少年を育てる市民の会、青少年相談員いろいろありますが、青少年教育活動では軸としています。</p> <p>子どもは地域の皆さんが一生懸命、子どもたちを守ってくれているということは、意外と認識しているようです。そういった点で、我々の役目も大変重要な役目ではないかなと思っています。</p> <p>社会力ということに対して、市の講座に私も何回か出席しました。参加者がこれだけ集まるのだから、社会力というのは一般的に理解されてきたのかなという面と、またある場所の会議に行って社会力というような事という言葉は知っていますか、と言っても、何の反応もないという状況もあるので、こういった場所で色々な意見交換をするというのは非常に大事なことであると思っています。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。ぜひ、田中秀夫委員。どのように社会力を育成していくのかについて、端的にいかがでしょうか。</p>
田中秀夫委員	<p>本日出席している委員の意見が、重要な点を突いていますので、私は何を話そうかと考えていました。</p> <p>私は大学の教員をずっとしてしまして、実を言うと専門馬鹿になるということを恐れていました。</p> <p>学生の教育や研究というものは専門であり、それで皆</p>

	<p>さんと同じでそれで飯を食べているわけですから、それを突き詰めていくことはよいと思います。ただ注意しなくてはいけないことは、「それでいいんだ」と決めて社会活動とは関係が無い人たちが、私の周りにたくさんいるということです。それは、筑波大学を中心とした世界の学園都市であるつくばの特徴で、私もそれを担ってきました。研究所も40以上あり、日本の最高の力を持ってここに皆がいるということは事実です。</p> <p>私は社会活動に参加するようになりましたが、私のような専門馬鹿が社会に出て力を発揮できるかどうかということが、私が定年後に試された形です。</p> <p>私は今文化協会の会長をしていますけれども、私はどちらかと言えば工学系の教授で、文化という部分とは少し離れているような環境いました。私自身は絵を描いたり、俳句や短歌をしたりしていましたので、社会活動への参加ができましたが、つくば市の大部分の大学の先生方、国の研究の人たちは、私が見るところほとんど社会活動をしていません。自分の仕事が終わっただけで、それで終わってしまっています。</p> <p>むしろ、そのような人たちに社会力をつけるようにするには、どのようにしたらいいかなというのが、今私が考えているテーマです。そのような人たちも含めて市民なので、たくさんいるそのような人たちを引っ張り出して活動させる。そのためには彼らに社会力をつけることが必要です。そうすれば、つくば市では、そういった専門性を持ったたくさんの人材、資源があることになりま</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>武田会長</p>	<p>すので、それを今後皆で行いたいということです。</p> <p>ありがとうございます。各自の色々な専門性、能力をどのように自己実現という形で発揮できるか、それはとても大事なポイントであると思いますので、ありがとうございます。あと星埜委員ぜひお願いいたします。</p>
<p>星埜委員</p>	<p>私にとって、生涯学習という言葉に余りにも広がりがあり過ぎて、どうとらえていいのかということはこの会議がある前にはいつも考えるのですが、一つはやはり、座学とといいますか、スポーツもですが、「意識して学ぶ」ということだと思います。</p> <p>もう一つは、生活をしていく中、生きていく中で自然に身につけていくこと。その力が生涯学習の、学びの力ではないかなと思っています。</p> <p>すごく極端なことを言いますと、人間以外の動物は、生きていくためにそれぞれ狩りの能力を磨く等、とにかく自分が生きていくために知恵を使っている。人間だけが学校に行く等の特殊性がありますが、それでも自然の生活をしていく中で学び取っていく力というのが一番基本ではないかなと思っています。</p> <p>資料3にも書きましたが、私は子育て支援の場を開いています。その中で、生後2ヶ月くらい、極端な方は生後3週間で赤ちゃんを抱えていらっしゃる方もいるのですが、やはりその場に出てきてくださることが、生涯学習の第一歩ではないかなと思っています。</p>

同じ経歴、同じ環境や同じ年代ではなくて、幅広い年代の中で学び取っていく力について、私が子育てをしていた時代と今の時代では少し違ってきたような気がするので、家庭教育というものの新しい考え方を、みんなを確認し合っていくことがまず、この社会力の一歩になるのではないかなと思っています。

社会力という考え方もまたすごく難しく、私は日々の生活の中で、御近所付き合いということも、社会力の一つであると最近とみに思うようになりました。私の家の周りにはいろいろな方たちが住み始めてはいるのですが、その中で何人かの方たちが、自分たちのまず地域を楽しくしましょうというので、いろいろな月1回の市を開いてみたり、年1回の市を開いてみたりしています。あと最近できたクリニックなのですが、そこで月1回映画の上映会をして、そのクリニックの専門が訪問看護なので、どちらかというと終末期に向かう映画が主なんですけれども、しかしそのようなものを一緒に地域の人たちが集まって見るというところで、お互いの顔がわかる、そうすると、その地域の社会力は上がっていくと期待しています。そしてそこに足を運べるだけの自分の社会力を高めること、それがとても大事なと最近気づきました。

ですので、先ほど長橋委員が学校教育、高校や大学とおっしゃいましたが、私はやはり小学校からの教育、それぞれの学校・クラスの中で、子供たちの社会力をどう育てていくかということがとても大事だと思っ

武田会長

ています。

一通り皆様から御意見をいただきまして、「社会力を有した人材になるためには」というテーマについて、最後に簡単にまとめさせていただきます。今事務局が電子ホワイトボード上でまとめてくれています。

意見交換の中身では、やはり学びの場に出る、現場に出て行く、これが大事なのではないかということが挙がりました。その実践の現場を通して、学びを自分のものにしていくことが大事であり、実践の中でのいろいろな立場の他者と関わりながら学んでいく、そのような機会が必要なのではないかということであったり、家庭を軸にした育成、そしてやはり地域のところ、大人がもっと子どもに関わる、そういった多様な関わりが必要であることが挙がりました。

あとは、専門性を持った研究者の方の社会力育成という視点もありました。一方で、やはり子どものなるべく早い段階から、そういったマインドを育成するということも大事なのではないかという意見も出てきたように思います。

また、前半で話した「社会力を発揮するためのポイント」についてでてきた意見を挙げますと、地域課題を把握して、それをどのようにいろいろな人と組織を立ち上げること、行政も協力していくこと、活動を進めていく中でどのように利害関係者をつないでいくのかということ、当事者が当事者目線で自ら問題意識を持って動く

事務局	<p>ということなどが挙げられます。その他に、広報やいろいろなコミュニケーション等もポイントとして出ました。</p> <p>事務局から何かありますか。</p> <p>本日は多岐にわたる貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>今、そしてこれからも社会力が大変重要になります。今、市全体では多くの課題を抱えており、地域には地域ごとの課題がございます。これらを解決していく上では、地域に根差した皆様方のような社会力を持った方の力が必要になってきます。こういった取組は、地域全体の活性化だけでなく、人と人の繋がりや、個人各人の生きがいにも繋がってくるものだと考えております。</p> <p>本日の御意見の中には、障害者の方への配慮や、高校生大学生そして家庭にも目を向けた御意見を頂戴いたしました。そのほかにも多くの御意見、そして様々な取組が多くあることを知りまして、深く感謝申し上げます。</p> <p>また、行政の後押しや、市からの働きかけ、これらが大変重要であるということも再認識させていただきました。社会力を持った力多くの方が活躍できる場をこれから行政としても考えていかなければならないなということも再確認させていただきました。</p> <p>本日はテーマを設けて意見交換するという場を初めて設けさせていただきましたが、大変有意義な時間を持</p>
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>つことができたと考えております。本日の御意見は、生涯学習推進基本計画の施策や、次期計画の策定をはじめとしました生涯学習の全般にわたる施策に活用させていただきたいと思っております。本日はありがとうございました。</p>
武田会長	<p>続きまして今日の二つ目の議題「令和4年度以降の第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価方法について」に移りますので、こちらも事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>～資料4、資料5について説明～</p>
武田会長	<p>ただいまの件につきまして意見質問等ありますか。</p>
田中秀夫委員	<p>事務事業が多くあるので、なかなか評価は難しいと感じています。</p> <p>問題は、評価をする時にその評価の観点、事業計画をどのレベルにするか、その上限を決めてしまうことによって、事務事業ごとの評価が変わってきてしまうと思います。</p> <p>ひとつの事務事業に関する計画の規模が大きい場合、実績が低くなりやすくなると感じます。やはり計画の正しさといいですか、正しい評価といいですか、それがかなり大事なのではないのでしょうか。</p> <p>あまり高い目標を掲げたても達成できません。私たち</p>

事務局	<p>も研究をすると、この点が難しいものです。計画の内容の設定レベルをどこにするのか。その点が少し気になります。設定レベルをどうするかによって、いくらでも内容が変わりますので、絶対に適正な設定方法はありませんが、考えて実行いただきたいと感じます。</p> <p>御意見ありがとうございます。委員のおっしゃられるとおりで、計画を立てた時のその計画の妥当性や全体の足並みといった部分を、この生涯学習審議会でお諮りする前に、庁内それぞれの事務担当課でまとめた案を、つくば市役所庁内の生涯学習施策の管理評価を行う「つくば市生涯学習本部」で一旦足並みを揃えて審議会委員の皆様にご覧いただけるようにしていきたいと考えております。この点については、今までもこの計画の進捗管理の課題として、認識させていただいているところです。改めて注意して進めたいと思います。</p>
武田会長	<p>もし後日でも本件について、気づいたところがありましたら、事務局まで一報いただければと思います。</p> <p>以上をもちまして、本日予定されておりました議事は全て終わりました。御協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>武田会長、議事進行ありがとうございました。</p> <p>その他として、今回、委員の皆様にご説明すべき事項はございません。</p>

	<p>次回の開催時期についてですが、今年度同様来年8月頃になる見込みと予定しております。</p> <p>また、委員の皆様は再来年度、令和6年度の7月末日まででございます。各種団体等の代表者様は、4月以降において、皆様に身分の変更がありました際には、生涯学習推進課まで御連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様は御確認の依頼をさせていただき予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして令和4年度第2回つくば市生涯学習審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和4年度第2回つくば市生涯学習審議会 次 第

日時 令和5年(2023年)3月8日(水)

午前10時から正午まで

会場 つくば市役所 2階 会議室203

1 開 会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 意見交換「社会力の『発揮』について」

(2) 令和4年度以降の第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価方法について

4 その他

5 閉会

【配布資料一覧】

- 資料1 議事(1) 意見交換「社会力の『発揮』について」
- 資料2-1 社会力講座の取組状況について
- 資料2-2 令和3年度及び令和4年度社会力講座チラシ
- 資料3 意見交換事前記入シート
- 資料4 議事(2) 令和4年度以降の第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価方法について
- 資料5 評価方法変更に関するサンプル
- 参考資料 つくば市生涯学習審議会条例
つくば市生涯学習審議会委員名簿

議事(1) 意見交換「社会力の『発揮』について」

1 テーマの背景

- 社会力とは、「他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、より良い社会をつくろうとする力であり、つくば市教育大綱において社会力の育成が、「つくばの教育が目指すもの」として位置付けられている。
- 第3次つくば市生涯学習推進基本計画においても「社会力」は、施策の柱に位置付けられており、令和3年度から社会力の育成を目的とした講座を実施している（これまでの取組については資料2-1、2-2参照）。
- 第3次つくば市生涯学習推進基本計画の基本理念「つながる 広がる つくばの生涯学習」において、社会力の育成を、生涯学習の成果を生かした地域や社会の課題への挑戦につなげていくことが掲げられている。

2 意見交換の考え方

- つくば市生涯学習審議会委員が、まさに「社会力を発揮して活躍する人物」という観点から、「生涯学習の成果を生かした地域や社会の課題への取組」の自身の体験談や知っている成功事例とそれが成功したポイント（つながりをどう作る、どう地域とつながる、課題とそれを克服した方法等）を全体で共有する。
- 武田会長をファシリテーターとし、意見交換を運営する。
- 収集した事例や意見から「社会力の発揮において重要であるポイント」を抽出し、今後の社会力育成の現場で活用していく（具体的には、来年度の社会力講座をより実践的に発展させるに当たって活用）。

3 その他

- 各委員に事前記入シートを記入してもらい、事前提出を受ける。
- ファシリテーターは事前提出資料を確認し、それを踏まえて当日5人程度の発表と全体での意見交換の運営を行う。
- 委員の発言のポイントを可視化するためスマートディスプレイ等を活用し、機器操作は生涯学習推進課職員が行う。

社会力講座の取組状況について

1 令和3年度取組状況

1) 全体テーマ

「世界のあしたが見えるまち」つくばの基盤となる社会力について考えよう！

2) 講座の目的

初年度として、「社会力」という考え方を広く周知し、つくば市における先進事例に触れながら、参加者に社会力の必要性や重要性を理解してもらうこと

3) 各回講座の概要（参考資料として講座チラシを添付）

タイトル	内容	参加者の声（サンプル）
つくば市内大学での社会力育成の取組み	基調講演、トークセッション、事例発表	義務教育終了までの段階で、児童生徒が「おとなは信頼できる」「助けてと言えば助けてくれる」「子ども（自分）を守ってくれる」体験を積み上げることが大切かなと思います。親（保護者）・担任以外のおとなと出会える場所をたくさん作ってあげたいですし、その場所は肩肘張らずに参加できる、ただそこに来るだけでいい（それがネット上の場所であっても）場であればいいなと思います。
地域を学びの場に社会力育てを目指すつくばね学	事例発表 現地見学（矢中の杜）	第1回、第2回に参加して、つくば市の地域性をもっとそれぞれに活かしていくための情報収集と人材確保が必要だと思いました。 つくば市の成り立ちを改めて見つめ、歴史的な観点と地域の成り立ちをもう少し大事に考えても良いのではないかと、とも思いました。
女性の社会力が地域を育てる	事例発表 現地見学（モーハウスショップ）	本日は、ご登壇頂きました、お二人の講義につきまして、深く共感し感銘を受けました。私1人が出来ることは、本当に小さな1歩でも、大きなムーブメントの一助になればと思い、私も1市民として、もっとつくばが輝くために活動して行きたいと考えております。
社会力を活かしたサステイナブルな地域活性化の取り組み	事例発表 トークセッション	先ず、話し合いの場に参加、もしくは場を作ってコミュニケーションをとることが大切であることに気づくことができました。

2 令和4年度取組状況

1) 全体テーマ

地域内外の社会資源を繋ぐ「社会力コーディネーター」を養成する

2) 講座の目的

様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせる「社会力コーディネーター」を、つくば市内外で実践されているいくつもの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学ぶことで養成する。

3) 各回講座の概要（参考資料として講座チラシを添付）

タイトル	内容	参加者の声（サンプル）
社会力コーディネーターを目指して！	基調講演、事例発表	すでに市内には、個々の取り組みは様々あるかと思います。今後、新しい仕組みの構築と共に、横の連携が課題かと思いました。つくば市には、同じ思いを持つ方や、多彩なスキルや経験を持つ方がたくさんいらっしゃるかと思います。
地域を幸せにするコーディネーション	トークセッション	内容が具体的で大変参考になりました。ひとりひとりを大切にして、求めない、大切と思う利害関係、大きなことを考えてまとめていきどこに行きつくかが大切だと考えた。
子どもの社会力を育てるためのコーディネーション	フィールドワーク 事例発表	このようなところに集まる機会がある事自体でコーディネーター同士が繋がりと、輪が広がることから、継続してもらってはどうかと思う。まとまり過ぎないことも、つくばの良さと思う。その中で、情報提供の強化ができれば、今一步踏み出せない人にも届く活動、情報になるように思う。
スポーツの力を活かしたコーディネーション	事例発表 トークセッション	子どもたちがこれから中学校、高校生活を迎えるにあたり、部活動との向き合い方を考えることができました。また、仕事で高齢者の体操教室に出向く機会があり、参加者の方への対応、教室作りのヒントを伺うことができました。
地域メディアの社会力～声の力で地域をつなげるコーディネーション	フィールドワーク 事例発表 トークセッション	令和5年（2023年）2月25日実施

令和3年度

「社会力」

一人と人がつながり社会を作るカー

全4回

講座シリーズ

「世界のあしたが見えるまち」つくばの基盤となる社会力について考えよう！

第1回

つくば市内大学での社会力育成の取組み

9月25日(土) 9:00~11:30

オンライン配信

事例発表

池田 幸也 氏 茨城キリスト教大学兼任講師
武田 直樹 氏 NPO法人フュージョン社会力
創造パートナーズ理事長
筑波学院大学、筑波大学、筑波技術大学卒業生

基調講演

社会力で『世界のあしたが見えるまち』
つくばを目指して

講師 門脇 厚司 氏

筑波大学名誉教授、筑波学院大学初代学長、
前つくば市教育長、「社会力」提唱者

第2回

地域を学びの場に社会力育てを目指す
つくばね学

10月24日(日) 10:00~12:00

同時配信
あり

会場 茨城県立筑波高等学校〔北条4387〕

武田 直樹 氏 / 筑波高等学校教員・生徒 / NPO法人”
矢中の杜”の守り人

第3回

女性の社会力が地域を育てる

12月5日(日) 10:00~12:00

同時配信
あり

会場 LALAガーデンつくば〔小野崎278-1〕

堀下 恭平 氏 (株)しびつくばわー代表 / 光畑 由佳 氏
(有)モーハウス代表 / 鷲田 美加 氏 (株)RION代表

第4回

社会力を活かしたサステナブルな
地域活性化の取組み

令和4年

2月6日(日) 14:00~15:30

同時配信
あり

会場 iriai tempo〔北条145〕

堀下 恭平 氏 / 渡辺 一洋 氏 筑波銀行常務執行役員
/ 橋永 貴郁 氏 iriai tempo番頭

申込方法

対象 つくば市在住・在勤の方

- 市ホームページから申し込み

「つくば市 社会力講座」

で検索



つくば市
ホームページ

	申込期限	会場定員 配信は80人
第1回	9月1日(水)~9月14日(火)	—
第2回	10月1日(金)~10月14日(木)	20人
第3回	11月1日(月)~11月25日(木)	20人
第4回	1月4日(火)~1月27日(木)	20人

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

問い合わせ

つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111(内線4511, 4513)
Eメール: edc074@city.tsukuba.lg.jp



社会力コーディネーター を目指して！

オンライン同時配信

地域内外の社会資源を繋ぐ社会力コーディネーターについて考えよう！

「社会力コーディネーター」って？

様々な人が協力して、より良い社会を創り上げる力である「社会力」。社会力コーディネーターは、様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源(人・物・金・情報)を繋ぎ合わせます。この講座では、つくば市内外で実践されているいくつもの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学んでいきます。

日時

6月18日(土) 14:00~16:00

会場

イーアスホール〔研究学園5-19〕

基調講演

社会力コーディネーターに求められる 役割と必要な資質・能力について



講師 門脇 厚司 氏

「社会力」提唱者、筑波大学名誉教授、元つくば市教育長、初代筑波学院大学学長

事例発表

三鷹市でのコミュニティ・スクール推進における
コーディネーターの役割とこれまでの成果



四柳 千夏子 氏

三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員
東京都三鷹市在住。
平成15年より、PTA会長、放課後子ども教室、まちづくり協議会等の活動を経て、平成21年より、地域ぐるみの教育を広げるために、学校と地域をつなぐ三鷹市のコミュニティ・スクール推進に関わる。
令和元年より現職。

今後の開催予定

	講座のテーマ	講師
8月 28日	地域を幸せにする	NPOフュージョン長池創業者 富永一夫 協力世界代表 松原明
10月 29日	子どもの社会力を育てる	つくば遊ぼう広場の会代表 五十嵐亨・泉 株式会社RION代表取締役 鷲田美加
12月 18日	スポーツの力を活かす	株式会社つくばFC代表取締役 石川慎之助 元筑波大学体育系教授 長谷川聖修 株式会社しびつくばわー代表取締役社長 堀下恭平
2月 25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

※ シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

申込方法



6月13日(月)までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

定員 会場:50人
オンライン:80人

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

問い合わせ

つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111(内線4510, 4541)
Eメール:edc074@city.tsukuba.lg.jp

主催 つくば市・つくば市教育委員会

地域を幸せにする コーディネーション

～協力のテクノロジーと「相利」に学ぶ～

*「相利」とは、関わる全ての人が、それぞれの幸せを追求できるようになること

「社会力コーディネーター」って？

様々な人が協力して、より良い社会を創り上げる力である「社会力」。社会力コーディネーターは、様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせます。この講座では、つくば市内外で実践されているいくつかの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学んでいきます。

日時

8月28日(日) 14:00～16:00

会場

〔つくば市高野1197-20〕

豊里交流センター 視聴覚室

トークセッション

オンライン同時配信

講師

富永 一夫 氏

NPOフュージョン長池創業者

講師

松原 明 氏

協力世界代表

今後の開催予定

	講座のテーマ	講師
10月 29日	子どもの社会力を育てる	つくば遊ぼう広場の会代表 五十嵐亨・泉 株式会社RION代表取締役 鷲田美加
12月 18日	スポーツの力を活かす	NPOつくばフットボールクラブ理事長 石川慎之助 筑波大学名誉教授 長谷川聖修 株式会社びっくばわー代表取締役社長 堀下恭平
2月 25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

8月25日(木)まで
募集延長します！

申込方法



8月19日(金)までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

定員 会場:35人
オンライン:80人
応募者多数の場合抽選

抽選結果は8月24日(水)までに
メールでお知らせします。

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

※ シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

問い合わせ つくば市教育局生涯学習推進課 〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111(内線4510, 4541) Eメール: edc074@city.tsukuba.lg.jp

主催 つくば市・つくば市教育委員会

子どもの社会力を育てるための コーディネーション

遊べ！ 子どもたち

子どもが育ち、子育てをつなぐ場づくりを学ぶ

社会力コーディネーターとは、人々が協力してより良い社会を創るために、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせる存在です。この講座では、さまざまな先進事例から、社会資源を発見し繋ぎ合わせるコーディネーションの基本を学んでいきます。

2022年10月29日(土) 10:00-12:00

場所 ▶ 子育て総合支援センター(多目的室) [つくば市流星台61-1]
流星台プレイパーク

フィールドワーク + 事例発表(オンライン同時配信)

*オンライン配信は事例発表のみとなり、10:30から開始します。



コーディネーター

わしだ みか
鷲田 美加 氏
株式会社RION代表取締役



講師

いがらし とおる・いずみ
五十嵐 亨・泉 氏
つくば遊ぶう広場の会代表

今後の開催予定

日程	講座のテーマ	講師
12月18日	スポーツの力を活かす	NPOつくばフットボールクラブ理事長 石川慎之助 筑波大学名誉教授 長谷川聖修 株式会社しびっくばわー代表取締役社長 堀下恭平
2月25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

※ シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

申込方法

10月20日(木)までに市ホームページから、
または生涯学習推進課窓口で

定員 ▶ 会場:20名 オンライン:80名
※応募者多数の場合抽選

抽選結果は10月25日(火)までにメールでお知らせします。

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。



主催 つくば市・つくば市教育委員会

第4回

令和4年度「社会力コーディネーター」養成講座



世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

オンライン同時配信

スポーツの力を活かした コーディネーション

社会力コーディネーターとは、人々が協力してより良い社会を創るために、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせる存在です。この講座では、さまざまな先進事例から、社会資源を発見し繋ぎ合わせるコーディネーションの基本を学んでいきます。

日時 12月18日（日）
10:00～11:30

会場 つくばFC万博グラウンド
クラブハウス

[つくば市水堀550-1]

事例発表 + トークセッション



講師
NPO法人 つくばフットボールクラブ
理事長 石川 慎之助



講師
筑波大学名誉教授
NPO法人日本Gボール協会理事長
長谷川 聖修



コーディネーター
(株)しびつくばわー
代表取締役社長
堀下 恭平



申込方法

12月13日（火）までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

定員 会場：20人
オンライン：80人

※応募多数の場合抽選

抽選結果は12月15日（木）までにメールでお知らせします

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。



問い合わせ
つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111 (内線4510, 4541)
Eメール: edc074@city.tsukuba.lg.jp

次回の開催予定

	講座のテーマ	講師
2月 25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

※シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

主催 つくば市・つくば市教育委員会

地域メディアの社会力

～声の力で地域をつなげるコーディネーション

「社会力コーディネーター」って？

様々な人が協力して、より良い社会を創り上げる力である「社会力」。社会力コーディネーターは、様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせます。この講座では、つくば市内外で実践されているいくつもの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学んでいきます。

日時 2月25日（土）
10:00～12:00

場所 吾妻交流センター

つくば市吾妻1-10-1 つくばセンタービル4階

フィールドワーク+事例発表+トークセッション（オンライン同時配信）

オンライン配信は事例発表+トークセッションのみとなり10:30から開始します。

講師



フリーアナウンサー
木村 さおり氏



つくばコミュニティ放送(株)
代表取締役社長
堀越 智也氏

申込方法

2月20日（月）までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

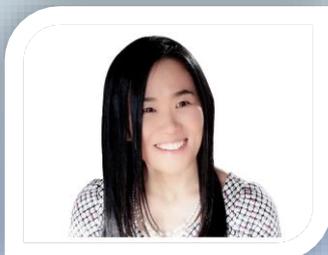


定員 会場:20人
オンライン:80人

抽選結果は2月22日（水）までにメールでお知らせします。

- ・参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

コーディネーター



(株)RION 代表取締役
鷺田 美加氏

問い合わせ

つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111（内線4510, 4541）
Eメール:edc074@city.tsukuba.lg.jp

意見交換「社会力の『発揮』について』事前記入シート

- ・意見交換の目的等の概要は、資料1、資料2-1及び資料2-2を御覧ください。
- ・御記入いただいたシートは、電子メール又はFAXで令和5年(2023年)3月3日(金)までにつくば市教育庁生涯学習推進課へ御提出ください。

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

活動団体の名称、団体の規模、活動内容他

1 「社会力がうまく発揮できている」と思える活動

○上郷市街地活性化協議会（会員37名：2021年総会時）

- ・「上郷フェスティバル」 ・「かみごうマルシェ」 ・「節分祭」 ・「その他」
- ・「上郷なるほどMAP」, 「がんばる上郷！かわら版」等の発行

○つくば市の「社会力講座」で紹介している活動団体は、「より良い社会を創り上げようとしている」点で、社会力がうまく発揮できていると思います。

2 自分の活動（「社会力がうまく発揮できている活動」とは違うと思いますが）

○社会教育主事として茨城県の事業を担当

（例1）令和2年度「茨城県生涯学習ネットワークフォーラム」

子どもの未来を考える「子ども・子育て応援フォーラム」

～子どものみらいのために、今私たちができることを考える～

- ・講師「コウ ケンテツ氏」（料理研究家） ・茨城キリスト教大学教授
- ・土浦市社会福祉協議会主任 ・つくば市立二の宮幼稚園教諭
- ・NPO法人「セカンドリーグ茨城」理事長 ・NPO法人「たまり場ぼぼ」代表理事
- ・茨城県県南地区PTA連絡協議会女性ネットワーク委員会委員長

（例2）茨城県生涯学習ボランティア総合センター

○地区の区長

（例1）通学路の変更

- ・学校との協議 ・保護者（子供会）との協議 ・地権者との協議
- ・教育委員会、警察署に確認

（例2）地区の環境美化

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

リーダーの存在、活動するフィールド（地域）との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。

○生涯学習に関する茨城県の事業の企画・運営を担当してきた経験から

- ①社会の状況（今社会は何を求めているか、課題は何か等）の正確な把握
- ②様々な団体や施設との連携・協力（丁寧な対応、コミュニケーション力）
- ③課題解決への意欲（様々な工夫……広報の重要性（広報内容、場所）等）
- ④変容の確認（課題が解決の方向に向かっているか）

※枠が足りない場合は、紙であれば別紙（様式自由）、データであれば行を追加ください。

意見交換「社会力の『発揮』について』事前記入シート

- ・意見交換の目的等の概要は、資料1、資料2-1及び資料2-2を御覧ください。
- ・御記入いただいたシートは、電子メール又はFAXで令和5年(2023年)3月3日(金)までにつくば市教育局生涯学習推進課へ御提出ください。

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

○活動団体の名称、団体の規模、活動内容他
私の所属する「青少年を育てるつくば市民の会 茎崎支部」の活動を紹介します。

(1) 会員 5500人程度 執行役員 16名

(2) 活動内容

①挨拶運動 月1回 地区内小中高校の登校時間に実施(執行役員を分担して実施)

②キャンドルナイト
地区内の公立幼保小中校の幼児、児童、生徒に1個ずつ「キャンドル」を配り、家族と一緒に、明かりを消して団欒の時間を過ごして貰うという企画。またその時の写真を応募してもらい、「支部大会」の折に掲示し、参加賞も配布している。

③ サツマイモ堀 参加者を募り、親子・家族で芋掘りを行う。
この2年間はコロナ禍のため「芋掘り」は実施せず、とれた芋を幼保小中学校に配った。

④ 支部大会
善行賞の表彰 「善行」を各学校、地区から推薦して貰い、支部大会で表彰した。
少年の主張 小中高校の児童生徒から、「主張」の作文を募り、この場で発表して貰った。
「家庭の日」の絵画ポスターコンクールの出品作品をロビーに掲示した。

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

○リーダーの存在、活動するフィールド(地域)との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。
活動が順調に進むためには以下のようなことが大切だと感じている。

(1) しっかりした組織とリーダーの存在
永年継続してきた組織であることが、円滑な活動につながっていると感じる。

(2) 活動資金
この会は、地区内の住民からの会費と、市からの補助金で運営している。

(3) 活動するメンバーのモチベーションの確保
執行役員の充実感、満足感が次の活動のエネルギー源

(4) 地域に密着している方が活動はスムーズでやりやすい。

継続するためには次の課題解決が必要だと考える。

(1) 人事の確保
実際の運営に携わる方の高齢化が進んでいる。同時に、新たに運営に当たる「執行役員」のなり手がなかなか見つからない。

(2) 新しい取り組みへのアイディアの不足
旧態依然とした活動にとどまってしまっている。新たな活動を生み出すアイディアが求められる。

※枠が足りない場合は、紙であれば別紙(様式自由)、データであれば行を追加ください。

令和4年度第2回つくば市生涯学習審議会

意見公開「社会の『発揮』について」事前記入シート

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要
青少年を育てるつくば市民の会豊里支部は平成4年に発足以来令和4年で30年を迎えました、来年度は役員を世代交代して新しい支部長の下で心機一転積極的に活動できることを期待しています。

基本は青少年が社会の一員として心身共に健やかにたくましく成長することを願い「学校、地域、家庭、」が一体となるなか家庭が最も基礎的な役割を果たす場であると考えています。

9年生を送る会の活動

豊里学園7～9年生の全員が体育館に集合し「9年生を送る会」に豊里地区の有志も参加して令和5年度からの支部長に任命を予定している中山健二さんをリーダーとしたケンニイバンドの演奏と歌と語りそして上郷中央お囃子会の太鼓と笛の演奏を実施しました。ケンニイバンドは地域の魅力を伝える歌を作り照明や演奏と共に歌い、語り子供たちに伝わって行くのが感じられました。又上郷お囃子会の演奏は上郷地域の祭りや上郷小の行事等上郷地区での演奏などで何回か見ているが、7～9年生は沼崎地区、今鹿島地区の子供たちも多いので体育館全体に響き渡る音声に圧倒されて迫力を感じ取っているようでした。

後日に子供たちからの感想文が支部長に教頭先生より沢山届けてくださいましたので作文の中から抜粋してみました

- たくさんの方々の地域の人たちに支えられて生活しているのだということが分かりました。
- 9年生の思い出づくりに地域の方々の支えが伝わっていることが分かりました。
- 地域の沢山の人々の協力があることで9年生を送り出すことが出来ていることを改めて分かることが出来ました。
- 地域の方々の先生のお蔭で良い会にすることが出来ましたこの経験を生かして頑張れる気持ちになりました。
- 送る会は生徒や先生だけでなく地域の協力があるからこそ出来るものだと強く感じました。
- 地域の方々に支えられて毎日を送れていることに改めて気づくことが出来ました。
- 豊中生は地域の方々に支えられ大切に思われる中で生活していることが分かりました。
- 地域の方々が忙しい中豊里中に協力してくれて豊里地区のためを思って動いてくれる人が沢山いて豊里中の凄さというのを感じました。
- もっと自分の住んでいる所を大切にしようと思いました。
- 地域の方々の僕たちへの思いがもの凄く伝わってきました。
- このような大きなイベントを開いてくれた地域の方々にありがとうございます。
- 地域の方々に愛されていることを実感しました。
- 僕も地域に貢献して、この学校の先生や地域の方々に愛されるような自分になりたいと思いました。
- 地域の方々にこのような会を開いていただきありがとうございます。

地域のかかわり

- 人生100年時代を迎えている中若々しく生き、人生の選択肢を考慮している人との活動が大変。
- 事業に対する決意を持ち精一杯努力していれば見ていてくれる人があり興味を示す人が出てくる。

その他

- リーダーは誹謗・ちゅうしょう。嫉妬心に挑戦しなければならないし、何の落ち度もないのに集まりの中で目立つだけで攻撃をうけることがある。

意見交換「社会力の『発揮』について』事前記入シート

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

○活動団体の名称、団体の規模、活動内容他

質問に対するストレートな答えになりませんが、ご容赦ください。

1. 常民大学

昨年の6月ごろから夫が中心になってやっている、月に1回、第3木曜日の午後1時から3時半、二の宮交流センターで開いている学びの会です。もともとは、洞峰公園の犬の散歩のときの犬仲間同士の立ち話から始まったもの。仕事や興味はひとそれぞれ。ある程度の年代の方たちは皆、それぞれの人生の専門家。自分が興味を持ってやってきたこと、自分が仕事として打ち込んできたこと。皆さん、多くの話のネタをお持ちです。また、つくば市には、研究者も多く、実際、犬の散歩仲間の中には、研究者の方が複数人いらっしゃいました。そんなそれぞれの持ちネタを持ち寄って、いろいろな話題を共有することで、知見を広め、さらにそこから自分たちの暮らしに関する智恵を学び取ろうという目的の会です。

「常民」とは、1 普通一般の民。庶民。 2 民俗を伝承し保持している基層文化の担い手としての階層という意味があり、民俗学者の柳田国男が用いた言葉です。

研究者だけが講師というわけではなく、誰でも話者を務めることができるという趣旨で運営しています。

これまでの話題の内容は、話者によってさまざま。獣医さんがご経験を話されたり、日本ミツバチの採蜜ボラティアの話だったり、海女の民俗、人工ダイヤモンド、今昔物語集の講義、日本手話とは何か？、沖縄の御嶽の話、ヒガンバナにまつわる日本文化、南方熊楠と粘菌などなど。多岐にわたっています。話者は基本、ボランティア。資料作成の実費をもらうだけ。参加者は、資料代として当日、300円支払います。

会員制で会員しか聞けないというのではなく、ロコミや常陽リビングが発行されていたころは、その常陽リビングに掲載した記事を読んで、連絡してきた方は誰でも参加可能。その当日の話題に興味があれば、その回だけの参加も可能です。

参加者がほかの参加者を連れてくる、話者がほかの話者を連れてくる、という形で、会の幅を広げています。

2. 竹園手話サークル

つくば市には、手話サークルが複数ありますが、その中で、平日の昼間にやっている手話サークルです。夜間の外出が難しい女性を中心の会。月2回、第2、第4月曜日の午前10時から12時の活動です。そのほかに、去年は、手話の初心者向けの初心者クラスを、約半

年、月2回（第1、第3月曜日の同じ時間）に開催していました。

聾者の方がサークル代表で、私は役員を昨年から務めています。

聴者は、つくば市手話奉仕員養成講座を修了して、継続して手話や聾者支援に関わりたいと思った人、つくば市手話奉仕員養成講座を受講したかったが選にもれてしまった人（定員があり、希望しても全員が講座を受講できるわけではない）、手話は初めてだが何らかのきっかけで手話に興味を持った人、つくば市に転入してくる前の住所地で手話サークルに入っていた人など、さまざまな人がいます。手話に興味があって、聾者と交流したい、という人なら誰でも受け入れています。

聾者は、代表者を含め、数人。ふだん、日常の中で手話で話せる機会があまりなく、日本語に囲まれて暮らしている疎外感があるため、手話をメインのコミュニケーション手段にする手話サークルでの時間は、くつろげる時間だということです。

メンバーとしては、増減がありますが、だいたい、聾者、聴者合わせて10数人。

手話を使っただけの簡単なゲームや、手話単語学習、聾者から茨城県の地元の手話を教えてもらったり、ろう文化を動画素材などで学んだり。

今年1月には、つくば市の聴覚障害者の当事者団体であるNPO法人つくば市聾者協会との共催で、つくば市の災害対策の出前講座を受講し、それに引き続き、聾者にとっての災害対策のあり方に関して皆で考えあうワークショップを行いました。

出前講座を担当された生涯学習推進課のご配慮で、手話通訳者をつけていただきました。

また、聾者にとってわかりやすい内容になるよう、事前に、生涯学習推進課と、実際に出前講座を担当される危機管理課と、打ち合わせの機会も設けていただきました。

ろう協や口コミで、サークル外にも参加を呼びかけて、20人以上の参加を得られました。

「わかりやすかった」「参加してよかった」とご好評をいただきました。

聾者と聴者。

使う言葉が別ですので、両者の間には壁があります。

そして、聾者は、ふだん日本語に囲まれた生活を強いられ、さまざまな社会的不利益を被っています。

手話サークルは、市民レベルで、壁を克服して、聾者のサポートをする試みと言えると思います。

3. PCY298

パソコン要約筆記を行うNPO法人です。今年で創立20周年を迎えました。

私は、市のパソコン要約筆記奉仕員養成講座を受講したのち、この団体に登録して、この団体の活動に従事しています（ただし、ここ2年ほどは、自分の個人としての活動に時間を取られて、この団体での活動はしていない。）

筑波技術大学や他の大学から依頼を受けて、パソコンノートテイクを行ったり、また、市からも依頼を受けて、文化講演会などの要約筆記を行っています。つくば市福祉団体等連絡

協議会が主催する就学学習会などでも、字幕を作成、表示しています。

教育の現場では、小中学校までは、支援員がついて、普通校に在籍する難聴児や聾児に対し、情報保障がなされます。

しかし、高校となると、学校からの情報保障が得られないので、聞こえない学生は、授業内容を目で見える情報によってしか理解することができません。

このNPOでは、そういう聞こえない高校生に対して、授業に出かけて行って、情報保障を行っています。

また、市のパソコン要約筆記奉仕員養成講座の企画運営、講師も務めていて、情報保障の大切さ、支援者の倫理、技能について、啓発、普及を行っています。

このNPO法人。

もともとは、20年前に手書きの要約筆記の講座を受講している最中にたまたまパソコン要約筆記の存在を知った人（現在の代表）が、他の講座受講者に声掛けして、手探りで始めたもの。

20年間の中で、この人たちがいたからこそ、勉強ができた、という若者がたくさんいるはず。この字幕があったからこそ助かったという難聴者も多いことでしょう。

尊い20年間だったと思います。

4. UDワーク

今は株式会社ですが、代表の前田亮一さんは、株式会社設立前から、高齢者がデジタルの便益を享受するためにさまざまな試みをされている方です。

<https://eventcanvas.jp/>

私は、現在、このUDワークのパソコン講座を受講しており、デジタルのつながりの技術を生かして、つながり創出に向けて何かできないかを模索中。友人も誘って、受講者の幅を広げています。

また、今やっている自分の活動にも、デジタル技術を生かして、より広がりを持たせられないか、さらに、なかなかデジタル技術の恩恵を享受できないでいる高齢者や障害者の方に、優しく教えてあげられるようになりたいという希望を持っています。

5. 個人でのパソコン要約筆記活動

PCY298の活動とは別に、個人で、聾者の方に対して、パソコン要約筆記活動を行っています。

聾者の方は、手話通訳者の通訳でその場の話を理解しますが、同時に文字があると、より理解することができる、という人もいます。

また、聾者は、会議の場では手話通訳者の手話を見ているので、話の内容をメモすることができません。

そこで、通訳の補完と記録の意味で、ボランティアで、パソコン要約筆記を行っています。

PCY298もそうですが、基本、パソコン要約筆記は、連携入力です。単独での入力はどうしても限界があるので。

その限界があること前提で、私は単独で、聾者の方にボランティアで字幕と文字記録を提供している、というかっこうです。

その場での入力は、そのまま、議事録にもなりうるものなのですが、私のパソコン入力の速さは、案外、聾者の方以外にも助かる、と感じていただける人が多いのだということを知りました。

そのため、会議の主催者の側から求められて、記録として提供することもあります。

また、許可をもらって録音して、その録音をもとに、その場での記録で入力しそこなった部分を補完して、完全な文字起こしとして、作成、提供することもあります。

けっこう喜んでいただけるので、私としては張り合いです。

6. つくば市聾者協会の賛助会員としての活動

私は聴者なので、聴覚障害者の当事者団体であるつくば市聾者協会の正会員にはなれず、賛助会員です。

これまで自分の職業経験を生かして（企業法務の経験、メディアでのコンテンツ作成経験）、つくば市聾者協会の活動に資するのではないかと思われる情報をリサーチして、まとめて、お知らせするようにしています。

つくば市聾者協会は、聾者の団体であり、コミュニケーション手段は手話です。

でも、実は、この手話も、日本手話、日本語対応手話、中間手話とさまざまですし、地域によっても異なります。

聾者の方の成育歴によって、手話を後から習得した方、生まれつきの聾で手話が母語だという方など、やはり、手話を使えるレベルもさまざまです。

そういう中であってつくば市聾者協会を運営されているのですから、正会員の方々、とりわけ、事務局の方々のご苦労は大きいと思います。

聾者同士の支えあい、ピアカウンセリングの場としても、それから権利擁護、確保活動を行う主体としても、こうした当事者団体の活動はとても意味があることだと考えます。

他の障害者団体とも連携を密にしておられ、意義ある活動をされていると思います。

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

○リーダーの存在、活動するフィールド(地域)との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。

1 について

思いつきで始めた活動が継続できているのは、夫のリーダーシップによるところが大きい

いと思います。

口コミで、つまり顔が見える形で関心を持つ人を集めてゆく、というのがコツなのかもしれません。

運営の補佐を買って出てくださいる方も複数おられますし、人と人との関係がしりとりゲームのように広がってゆく（デジタルではないSNSのようです）のが、面白いです。

活動の継続のためには、もう少しシステム化する必要を感じています。

規約の整備、資料費などで残金が出ている場合の処理、関心を持つ人に参加の機会が得られるように広報の方法を考えるなどです。

ただ、手作り感満載の、今のやり方だからこそ、ついてこられるというシニア世代の方もおられるでしょうし、あまりシステム化するのも、考えもののような気がします。

課題は、この常民大学のバリアフリーですね。

実際、情報保障をつけるだけのお金のゆとりがありませんので、聴覚に障害のある方は、受け入れることができません。

「ろう文化を学ぶ」という企画を立てて、それを事業としてどこかから補助金、助成金をもらうのでないと、聾者や難聴者の方に、この学びの場を開放することができない。そこが悩みの種です。

また、話者は、多くの方が引退した研究者の方だったりするのですが、皆さん、楽しそうにボランティアで話してくださいます。話者にとっても、自分が打ち込んでいることを話すというのは、いい経験、いいボランティア活動になっていると思います。

2について

手話サークルとしての活動の意義は、代表が聾者であることに拠るところが大きいです。

手話は聾者の言語ですので、聴者同士で手話を学ぶのはもともと難しいし、たとえ学んだとしても、聴者の独善になってしまいます。

聾者のリーダーシップを得て初めて、聾者と聴者の学び合い、ふれあいの場をつくることが可能となります。

代表の聾者の方は、市の手話奉仕員養成講座の講師も務めておられますが、聾者の方を通じて、聴者の間に、サークルの枠を超え、ゆるい手話の学び合いの輪ができあがっています。

聾者の方による積極的な働きかけが、功を奏している点だと思います。

3について

NPO法人として、しっかり組織だって活動されていると思います。

ただ、パソコン要約筆記という活動内容の性質上、会員全員が数人、現場で会うことはあるのですが、なかなか会員全員が一堂に会して交流するというような機会が持てません。

コミュニケーションは勢い、メールやラインになってしまうので、どうやって会員相互のコミュニケーションを活性化するのが、課題であると思います。

4 について

前田さんの社会力には頭が下がります。

同時に、私は、デジタル弱者である高齢者世代の一人であり、パソコンについては通り一遍の知識や技能しかなく、デジタル強者というわけではありません。

そこで、私としては、前田さんの講座に参加することを通じて、当事者の声を前田さんに届けるつもりでおります。

また、何とか、ボランティアができるまでの技能を身に着けられたときには、既存のパソコンボランティアの方々と合流させていただいて、パソコンボランティアの活動にも携わっていきたく、デジタル技術を使ってつながりを創出する方向で探索をしていきたいと思っています。

5 について

個人の繋がりでのボランティア活動ですが、今後は、社協にボランティア登録して、お求めに応じられる機会を増やしていきたいと思っています。

6 について

1) のほうで、詳しく書きました。

意見交換「社会力の『発揮』について』事前記入シート

- ・意見交換の目的等の概要は、資料1、資料2-1及び資料2-2を御覧ください。
- ・御記入いただいたシートは、電子メール又はFAXで令和5年(2023年)3月3日(金)までにつくば市教育局生涯学習推進課へ御提出ください。

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

○活動団体の名称、団体の規模、活動内容他

●団体名称：NPO法人ままとーん

●団体の規模：正会員数46人

●活動内容：私たちは、「子どもがいてもできること」「子どもがいるからできること」を合言葉に、茨城県南地域の中で母親たちが楽しく生き生きと生活できるための情報提供をおこない、母親が子育て仲間を作り、母親自身も子どもと一緒に成長できる機会をひろげ、のびやかで豊かな地域生活を過ごすことができる環境づくりを進めてきました。

従来の情報提供に加えて、県内に存在するさまざまな子育て支援活動をしている個人、団体を結び、ネットワークさせ、よりパワフルな母親支援・子育て支援に発展させること、さらに母親の視点からより良い子育て環境のあり方を考え、企業及び行政とのパートナーシップの確立をめざし、企画提案を行っていくこと、この3本柱で子育て真っ最中の若い母親たちの立場から地域社会に貢献していきたいと考えています。

現在の主な活動内容としては、

①子育て支援拠点「ままとーん つどいの広場」（未就園児の親子が集える場所、相談できる場所を運営）

②赤ちゃんが学校にやってくる！（1歳半までの赤ちゃんとその親と一緒に地域の学校（小中高校）を訪問。児童生徒との交流や触れ合いの場を作っています。学校を舞台に、地域・世代をつなぎ、未来の子育てを考えます。）

③つくば市マタニティサロン「先輩ママとの交流会」

（初妊婦さん対象の講座に赤ちゃん連れでスタッフが出向き、妊娠・出産・育児のリアルな体験談を地域の子育て情報も交えてお伝えしています。）

④つくば市マタニティ講演会「先輩パパからの経験談」

（妊婦さんとそのご家族を対象に、先輩パパとして産前産後の経験、育休の話などをお伝えしています。）

⑤フリーペーパー発行（子育て真っ最中の母親・父親目線で取材した地域の子育て情報を発信。子育てをもっと楽しめるまちを目指して、地域の幅広い世代の方に届けています。）

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

○リーダーの存在、活動するフィールド（地域）との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。

私たちは、主に子育て中の母親、父親の支援を目的とした団体で、構成メンバーの多くも同じ立場・境遇にあります。私たちの活動で社会力が発揮されているポイントは、大きく分けると2つあると考えています。一つは、同じ子育て世代に向けた活動、もう一つはより広く異なる世代や地域に向けた活動です。

一つめの、同じ子育て世代に向けた活動は、つくば市の委託事業でもある子育て支援拠点「ままとーん つどいの広場」の運営です。このつどいの広場は、主に未就園児がいる親子を対象に、平日週3回（9時半から14時半）館野にある空き家を利用して開設し、下記に定める基本事業を実施しています。

①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

②子育てなどに関する相談・援助の実施

③地域の子育て関連情報の提供

④子育て支援に関する講習などの実施

つくば市には他にも子育て支援拠点がありますが、そのスタッフは主に専門知識を持った保育士さんなどです。しかし、私たちの特徴は、参加者と同じ立ち位置にある子育て当事者であるということです。このため参加者と同じ目線に立ち、より親しみやすい存在として相談しやすい環境を提供できています。また、ここはスタッフ自身も知識や経験を共有し、学ぶことができる、学びに貢献できる場であるとも言えます。子育て支援に関する講習に外部講師を招いて実施することもあります。スタッフ自身が務めることもあり、これは子育て中の学びのモチベーションや今までの仕事の経験を活かす場ともなっています。またこうしたイベントをSNSなどで発信することで、新しいコミュニティーに参加することに少し抵抗を感じる方にとっても参加のきっかけになっていると感じています。

また、もう一つのより広く、異なる世代や地域に向けての活動として「赤ちゃん学校が学校にやってくる！」があります。赤ちゃん学校は、1歳半までの赤ちゃんとお母さんやお父さんが、地域の学校を訪問し、出産や子育てについて話す取り組みです。小さな子供を持つ家庭と、学校に通う児童・生徒との交流の場になっています。参加した赤ちゃん連れの親御さんからは、子育てを振り返る良いきっかけになって良かったという感想をいただいています。また、先生からの感想としては、普段の生徒の様子からは見られない反応があり、生徒への印象を改めるきっかけになっているそうです。学校で行っている事前・事後のアンケートからも、実際に赤ちゃんやお母さんお父さんと触れ合うことで、児童・生徒たちの子育てや家族についての考え方への良い影響が見て取れるそうです。こうした活動は、乳幼児を持つ家庭、児童・生徒とその保護者、学校、地域の方々が多方面に関わるきっかけとして、つくば市が提唱している「コミュニティスクール構想」の取り組みと合わさるとさらにおもしろい活動ができるのではないかと考えています。

こうした活動を通じ、私たちの取り組みに興味を持った方は支援側になることもできます。各自の負担できる範囲で子どもを連れながらも参加できるので、会社に勤めるほど時間をとることができない場合でも、自分の経験を活かし、学びを継続できる場になっています。ただし、そのようにして参加するスタッフの多くが子育て当事者であるため、子どもたちの成長に伴い、構成メンバーは常に移り変わっていきます。これまではこのような形で、スタッフが維持され継続的な運営を行ってきました。一方で、最近は共働き家庭が増え、育休期間中のみスタッフとして活動してくれる方が多い印象です。そういう方は限られた時間だからこそ、地域や社会とつながりたいと強い思いを持って来ていますが、スタッフとしての入れ替わりのスパンも早く、人員をどのように確保していくかが課題になっています。

※枠が足りない場合は、紙であれば別紙（様式自由）、データであれば行を追加ください。

意見交換「社会力の『発揮』について』事前記入シート

- ・意見交換の目的等の概要は、資料1、資料2-1及び資料2-2を御覧ください。
- ・御記入いただいたシートは、電子メール又はFAXで令和5年(2023年)3月3日(金)までにつくば市教育庁生涯学習推進課へ御提出ください。

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

○活動団体の名称、団体の規模、活動内容他

- ・筑波学院大学「つくば市をキャンパスにした社会力育成教育」（通称：オフ・キャンパス・プログラム）（現在はかなり縮小してしまっていますが。。）
- ・「つくば市をキャンパスに」をスローガンに、全学生1～3年次の必修科目（当初）として、2005年度にスタート。学生が市民の一員として、つくば市を中心とした行政、企業、NPOなど約80団体で受入れていただき、市民と協働した社会貢献活動の実践を通して「社会力」を育成する教育プログラム。（2006～2008年度は文部科学省から助成金を獲得）
- ・1年生（実践科目A）：1回型の社会貢献活動、2年生（実践科目B）：30時間以上の社会貢献活動、3年生（実践科目C）：自らイベントを企画立案・実践する社会貢献活動、と3年間を通したステップアップ型の取組となっている。

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

○リーダーの存在、活動するフィールド（地域）との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。

1. 最大のポイントは、理念も去ることながら、プログラムに対する「本気度」！！
＝失敗を恐れずに、挑戦をしているかどうか！！

1) 学内

- ①プログラム立上げ時に社会力育成の理念を練り上げ、自ら外部資金を獲得、学内外の合意形成を図った門脇厚司学長（当時）の強いリーダーシップ
- ②大学と地域の受入団体との連携を図り、学生指導に当たるなど、大学と地域とのバランスを取りながらプログラム推進を担ってきた「社会力コーディネーター」の存在
- ③プログラムを体験した先輩が、現役時代のみならず、卒業後に大学職員や地域の受入側の一員となって後輩に指導できる循環型の体制づくり

2) 学外

- ①学生受入に快諾し、本気で指導してくれる受入団体の存在
（つくば市内には多様な活動を行う、協力的な行政・企業・NPO・財団等の多様な組織が多い）

※枠が足りない場合は、紙であれば別紙（様式自由）、データであれば行を追加ください。

令和5年2月28日

意見交換「社会力の（発揮）について」事前記入シート

田中秀夫

I

1) 自身の活動、もしくはご存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

①活動団体の名称 つくば市文化協会（会長）

②団体の規模 協会は3部門（芸術部、芸能部、歌謡部）、61団体、会員数614人で構成されている。

③活動の内容 各部は年1回ないし2回の部大祭（芸術祭、芸能祭、歌謡祭）のほか、各団体はそれぞれ年数回の発表会、展示会等を行っている。

④活動のこれまでの問題点 協会は30年以上継続している伝統ある協会であるが、長きがゆえに種々の功罪も蓄積してきた。功は、3部門それぞれが活動を活発に継続してきている点である。罪は、3部門の連携が十分に行われているとは言えず、相互不信感がある点と、会計上の不公平感があった。なお、コロナ禍の影響もあり、会員数は年々減少しているが、減少の根本的原因として、会員の高齢化と60歳前後（定年後）の人たちの新規参入がほとんどないことと考えられる。

「社会力がうまく発揮できている」と思える。

⑤問題点の改善 私は5年程度の新人協会員であることから、伝統にとらわれない協会の運営を期待されて、令和2年に会長に就任した。会員の協力を得て、3部門間の相互不信間の解除と会計上の不公平感の解除に取り組み、この2年間である程度成功していると思える。

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント。

①問題点の解決方法

イ. 協体内3部門間の相互不信間の解除 「つくば市文化協会 総覧」のつくば文化協会規約の内容について、問題点を整理し、分かりやすく改善を行い、各部及び会員が新規約を遵守することにより、3部門間の相互不信間の解除を図った。

ロ. 協会3部門間の会計上の不公平感の解除 協会組織内の特に事務局の強化を図り、3部門の会計内容の整理、予算作成にあたって公平性を保持することにより、不公平感の解除を図った。

なお、会員数の減少の歯止めと新規会員の増員の対策は今のところ十分には出来ていない。

II

1) 自身の活動、もしくはご存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

①活動団体の名称 豊里俳句短歌の会（代表）

②団体の規模 俳句の部 13人、短歌の部 12人

③活動の内容 41年の長い伝統のある会である。いずれの部も外部より講師の先生を向え、誰もが自分の作品を提出するとともに、会員皆が平等に発言する機会が設定されている。勉強時間はいずれも1時間半である。毎月月刊誌が出され、その内容は会員作品を中心に纏められている。さらに、3から5年ごとにその集大成として合同作品集を出版している。作品のレベルは高く、NHK 俳句短歌の全国大会はじめ多くの大会に応募して、毎年数々の入賞を果たしている。

「社会力がうまく発揮できている」と思える。

④活動のこれまでの問題点 現在のところ問題点がない。

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント。

①問題点のない現状 活動が順調に行われているのは、長い伝統を背景に適正環境が常に保持されるように会員、特に執行部の運営努力がなされてきたからである。例えば、1部屋15人程度として全員の顔が相互に見えて自由に意見を言えるようにしている。また、楽しい自由な雰囲気で行句および短歌を勉強し、それらの結果を年数回つくば市の会場で展示発表したり、全国大会などに挑戦し意欲向上を図っている。さらに、毎月の月刊誌の充実に務めている、など。

令和4年度第8回つくば市生涯学習審議会

意見交換「社会力の『発揮』について』事前記入シート

- ・意見交換の目的等の概要は、資料1、資料2-1及び資料2-2を御覧ください。
- ・御記入いただいたシートは、電子メール又はFAXで令和5年(2023年)3月3日(金)までにつくば市教育局生涯学習推進課へ御提出ください。

No.1

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

○活動団体の名称、団体の規模、活動内容他

「ボッチャを楽しましろう」基町の自由ヶ丘地域
 地域にある公民館を利用し、月1回日曜日に開催
 参加は誰でもOK (15名前後の参加者 子ども～80代)
 中心のSさんはつくば身体障害者社会福祉協議会のメンバーで
 仲間3人で今年1月から開催している

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

○リーダーの存在、活動するフィールド(地域)との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。

この活動はSさんの地元自由ヶ丘の団地にちゅうと自ら配布し
 呼びかけるところから始った
 コロナ禍で地域で以前程のつながりも薄くなる中
 まず地域のメンバーが親しくなる。世代を問わずに、他世代間
 交流ができる。そして障害が起きて、ひきこもっていた方も足を運ぶこと
 ができた。健常者と障害のある方が一体となる。など
 又活動の持続が課題だが、地域で顔見知りの方も多いため
 お願いとあると役割を担ってくれるメンバーがいるので助かっている

※枠が足りない場合は、紙であれば別紙(様式自由)、データであれば行を追加ください。

市民委員 田中 依子

No. 2

○テニスサークル

公民館講座から始ったテニスサークル

現在19年目を迎える

私はその会の代表だが

コーチであった **O・T** 氏の功績は大きい

1昨年病の為 逝去されたが

多くのテニスサークルが今も続いている

その中で先日奥様から伺ったお話で

1つのサークルのコーチとして娘さんの矢張り合...の方が
仕事で行き過ぎる会社に行けなくはった

学生時代テニスをしたことと聞き、手伝いに来らうこと
にした。

次第に彼は元気をとり戻し、社会復帰をすることできた

今子どもの不登校や大人のひきこもりなど、適応できずに
孤立するケースが増えている

そういう人々も参加しやす...生涯学習の場が
提供できると...と思う

- ・意見交換の目的等の概要は、資料1、資料2-1及び資料2-2を御覧ください。
- ・御記入いただいたシートは、電子メール又はFAXで令和5年(2023年)3月3日(金)までにつくば市教育局生涯学習推進課へ御提出ください。

塚田様・大久保様

根本典子

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

○活動団体の名称、団体の規模、活動内容他

名称: 「みんなの食堂」

この活動においては、子どもに限らず、子どもからお年寄りの方までを対象として参加を呼びかけ、地域との交流を深めています。ひきこもり支援策を含めながら事業を進め、大変重要な事業と考えます。その活動においては、ボランティアの方々の参加もあり、より良い社会を作り出す社会の向上に寄与していると思っております。

「ミニオのための子ども食堂」、「ハオバブの子供食堂」は、今も団体活動中。

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

○リーダーの存在、活動するフィールド(地域)との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。

家庭の中であたたかい手作りの食事ができる子供たちや高齢者等、たくさんの方が存在している中で、全国的には、子供食堂として活動しているケースが多いと思っております。現在のニーズをしっかりとキャッチし、つくば市では、共生社会の実現に向けて、食堂への参加者を子供と限定せず、たれもが参加できる型をとりつつ、活動を行っている点は評価できます。さらには、事業費を応援するために、つくば市の補助事業として体制化されている点も評価できます。今後もボランティアの人々の導入も行いながら、様々な人々が協力し、より良い社会を作り上げる力、つまり「社会力」の向上に増々寄与していただける活動として応援しております。一人でも多くの方々に対して、あたたかい手作りの食事を提供している活動を応援しております。

意見交換「社会力の『発揮』について」事前記入シート

船橋秀彦 つくば市福祉団体等連絡協議会

《確認》

社会力＝他者を積極的に理解良い関係性をつくり、より良い社会をつくろうとする力

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

つくば市の生涯学習推進課が中心に取り組んでいる「障害者のための生涯学習」推進（主に知的障害者のための）の取組みが、社会力にふさわしい取り組みだと評価いたします。一度、きちんとその歩みを委員のみなさんと共有された方が良いと思います。

《活動の歩み》

■国の動向

- ・2017年度 文部科学省に「障害者学習支援推進室」設置：特別支援教育の生涯学習化政策開始
- ・2018年3月 文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」設置
- ・2019年3月 有識者会議「障害者の生涯学習の推進方策について－誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して－」最終報告

■つくば市・生涯学習推進課の取組み ※抜けていたり、誤記があるかもしれません

2019年度

- ・2020年3月「障害者の生涯学習活動」に関するアンケート調査報告
対象：つくば特別支援学校の「成人の祝い（1月26日）」参加卒業生
- ・2020年3月14日 「みんなのサタデーウォーク in Tsukuba」（コロナのため中止）
会場と内容：Bivi（抹茶）、つくばセンタービル（吾妻交流センター、アフリカン太鼓とダンス）、センター広場（関所ハイク）

2020年度

- ・10月31日 みんなで茶の湯を楽しもう（実施） 会場：交流サロン
- ・12月 ヒーリングヨガ体験（コロナで中止）
- ・2021年2月13日 午前：ヒーリングヨガ体験（コロナで中止）
午後：クッキー作り体験講座（コロナで中止、参加希望者にクッキーを贈る）
対象：つくば特別支援学校、福祉型専攻科シャンティつくば

2021 年度

- ・6月5日 オンライン料理教室「ふくふくオンラインレッスンーとりの唐揚げを作ろう！」(実施)
講師 食育教室ふくふく 岡富陽子先生
- ・12月11日 「自分らしさを輝かせ、豊かに生きる 生涯学習体験ー知的障害者の18歳以降の学びの場と生涯学習」(オンライン)(実施)
講師 船橋秀彦(福祉型専攻科シャンティつくば※)
※2019年3月の有識者会議最終報告書に、「障害者サービスと連携した学びの場づくり」として位置づけられている。

2022 年度

- ・6月25日 第1回ふくろう学級開催：シャンティつくば卒業生に「共に学ぼう生涯学習！」の事業説明
- ・7月23日 第2回ふくろう学級：「学んでみたい、やってみたい」ことを知的障害者から募った。→風船バレー体験講座
- ・11月26日 キックオフイベント(事前練習と確認)；風船バレーの練習(シャンティつくば、ごきげんファームが参加)
- ・12月3日 みんなで楽しく 風船バレー体験講座
会場 東光台体育館
参加チーム シャンティつくば、ごきげんファーム、スマイルバスケットチーム
- ・2023年2月5日 保護者家族向け 「きょうだい児」も自分らしく人生を歩むために
講師 藤木和子氏(聞こえないきょうだいをもつSODAの会代表)
実際に「きょうだい児」から話を聞いた。
手話通訳・要約筆記配置、オンライン(手話通訳と字幕を付けた)：
情報保障への配慮をした

2)「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

- ・これまで取り組んでいない、なおかつ自分たちもあまり接していない障害者(主に知的障害)を対象とした、障害者のための生涯学習に取り組んできた。
- ・コロナ禍の中でも、実施に向けて計画を立て、あきらめずにオンラインで実施するなどの工夫をして取り組んでいる。
- ・初めに、実態調査を実施している。その後、自分たちでできるところから少しずつ対象者を広げている。また、活動内容も多彩な中身に挑戦している。
- ・講演会では、障害者への情報保障として会場には手話通訳、要約筆記を配置し、オンラインでも手話通訳と字幕を付与するなど、優れて先駆的な取り組みをしている。
- ・常に障害福祉関係者と相談しながら取り組みを進めている。
- ・取り組みが進む中で、知的障害者本人との学習を設定し、知的障害者の声や思いを聞き取り、ニーズに応えた講座(風船バレー講座)を設定している(本人主体の生涯学習)。

・保護者家族向け講座で、「きょうだい児」を講師に招き、その話を聞くなど、「他者を積極的に理解良い関係性をつくる」（社会力）にふさわしい中身であった。

以上、長くなりましたが、思いつくままに書きました。

船橋秀彦

意見交換「社会力の『発揮』について』事前記入シート

- ・意見交換の目的等の概要は、資料1、資料2-1及び資料2-2を御覧ください。
- ・御記入いただいたシートは、電子メール又はFAXで令和5年(2023年)3月3日(金)までにつくば市教育生涯学習推進課へ御提出ください。

1) 御自身の活動、もしくは御存知の活動で「社会力がうまく発揮できている」と思える活動の概要

○活動団体の名称、団体の規模、活動内容他

団体名称

- ①子育て休憩室
- ②子育てほっとステーションオアシス
- ③すくすく子育て広場

団体の規模

- ・場所守り（初めての場所への不安感を軽減するためと、部屋使用の準備・片づけのため）数名

活動内容

- ・市内3か所の公共の施設を利用し、毎週（一部隔週）定期的に行っている子育て支援及び交流の場
- ・子育てが初めて、つくばに住み始めて間もない親子連れの方たちの、地域デビューの場所ともなっている。
- ・年に3回ほど、市の保健センターからの出張相談も開催。

2) 「社会力がうまく発揮できている」と考えるポイント

○リーダーの存在、活動するフィールド（地域）との関わり合い、メンバーの増員への工夫、活動が持続する運営体制、苦労した経験談 等様々な観点から自由に記載ください。

☆リーダーの存在

- *一人ではできないけれど、二人なら、三人なら、とにかく場所を開けることが大事なことと考え、私たちの場合は、便宜上のリーダーは必要だが、参加者はみんな同じ立場、と考えた。
- *数年に一回ぐらい場所守り全員が欠席、ということがあったが、その時は、利用場所の担当者に事前に連絡の後、いつも参加のお母さんたちが代わりに運営をしてくれた。
- *誰もが同じ立場、という気持ちで、かえってそれぞれの社会力を育てているようで、卒業したお母さまの中には、地域の乳幼児学級のボランティアや児童館でのサークル活動のリーダー、PTA役員などで活動を続けている様子。

☆活動地域

- *活動当初は、当時外からの転入者が多かった吾妻地区。その後すぐに当時の並木公民館の職員からの相談を受けて、並木で活動を始める。
- *数年前に、保健師さんとの話の中で、研究学園地区でも開くことになる。
- *基本的には、バギーを押して、またはお子さんと歩いて行ける範囲での、子育ての仲間（知り合い）が出来ること。

☆ボランティア

活動当初のメンバー2人のうち、1人は遠方のためリタイア。休憩室活動直後に参加したメンバーや地域の児童委員のひと、また研究学園地区においては、地域の民生委員が主となっている。とにかく、開始日に場所を開け、閉めることが大事なことと思ひ、あとは自分たちも楽しむ、ことを大事にしているので、子育てに一区切りついた先輩お母さんたちも、時間のある時に場所守りに来てくれる。

☆活動が持続しているのは

- ・開催の場所では、だれもが「子どもたちが大事」ということを一番に思っていること。月齢が同じでも成長の差があること、性格も違うことなど、一人の子育てでは分かりえないことも、目のまえで、一週間の時間の中でも変化を感じられる、そのことが続いている元だと思う。また、指導されないこと、も。

「あ、そうなんだ」と言われても、「これでいいのかな？」と考えてみて、それを誰かに伝えていける、そのような関係が継続して参加する理由になっているのかもしれない。

- ・活動開始当初はいわゆる市民活動として、団体として開催場所などの手続きを行っていたが、行政の協力を得ることが出来て、開催場所の年間予約の労力が軽減されたことは、定期的に同じ場所で開催できるという安心感が得られた。
- ・公共の場所を利用するので、自分たちの活動が社会にとって有益なものであるかどうか。他者から見ての意見を事前に求めた。（当時の教育長や社会教育指導員）そのことが、継続の一助となっていると思う。

☆その他①

- ・今の社会状況の中では、産休育休でゆっくり子育てを楽しむことが出来ない方たちも居る。それでも「今日はお休みを取って遊びに来ました」と来てくださることもあり、活動は続けたい、と思う。
- ・新しい住宅開発によって、市の居住地区は大きく変化しているのに、子育て支援の開催場所に偏りがあると思う。高齢者も乳幼児も、同じように公共の場に出かけやすくするための手段があればと思う。特に、乳児1人を連れて、まして乳幼児二人連れで出かけるとなると、車での移動にはかなりの困難を伴うことになる。出来るだけ住んでいる地区の中での交流の場が必要だと思う。年代別ではない、誰もが立ち寄れる場所が必要と思うが、もともと人の往来も少ない車社会の街では空き商店街も無く、地域の中で思い立った人の「社会力」を期待するしかないのかもしれない。

☆その他②

地域の中での交流場づくりなど、意識せずに社会力を発揮している個人や団体が増えたように思う。自分がその輪に入っていけるかどうか、それこそが自分の社会力なのだとも思う。いま、自分の住んでいる地域の中で、どのような活動が行われているのか、知りたいと思う反面、自分の仲間づくりと社会力とは、別物？と思うこともある。

※枠が足りない場合は、紙であれば別紙（様式自由）、データであれば行を追加ください。

議事(2) 令和4年度以降の第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価方法について

1 課題

現在、各事務事業は「有効性」（事業成果の達成度合い）と「効率性」（事業費及び人件費の費用対効果）の2つの観点で評価し、また、各事務事業の評価の分布状況から施策の方向性ごとの達成状況の評価している（別紙1参照）。

この評価方法について、現状客観的な判定基準が存在せず、「各事務事業」「施策の方向性ごと」それぞれの評価に評価者による揺れが生じてしまうとの指摘が、つくば市生涯学習審議会にてなされており、検討課題としている。

また、「効率性」として事業の費用対効果を評価することは、行政が実施する各種施策において、事務担当セクションが客観的に評価することは難しく、また、昨今市の各種計画においても「効率性」の評価は行わないようになってきている（例：つくば市戦略プラン）。

2 評価方法の改善の方向性

つくば市の他計画（「つくば市戦略プラン」、「つくば市男女共同参画基本計画」等）の評価方法を参照し、令和4年度実施分から以下の考え方で評価を行う。

(1) 各事務事業の評価

ア) 事務事業の実施状況に対する評価

イ) 事務事業で掲げた指標の達成状況による評価

→①・②をクロスさせた評価を事務事業の総合評価とする。

※令和4年度の事業費予算と決算は数字で比較ができるように表記する。

(2) 施策の方向性ごとの評価

(1)で実施した各事務事業の評価結果を得点化し、それらが属する施策の方向性ごとに平均し、その得点に基づいて評価を行う。

3 計画期間中に評価手法を変更することの考え方について

第3次つくば市生涯学習推進基本計画自体の成果目標は、毎年の評価方法とは異なる形で定めているため（別紙2「第3次つくば市生涯学習推進基本計画」P46参照）、中途での評価方法の変更にも対応ができると思料する。

令和3年度評価は、令和4年度第1回つくば市生涯学習審議会及び令和4年

度つくば市生涯学習推進本部会議にて確定、公表しているため、変更はできない。令和4年度評価時（令和5年度上半期を予定）に、参考として令和3年度実績を変更後の評価手法で評価した資料を示すことは可能である。

3 具体的な評価方法の案（資料5参照）

(1) 各事務事業の評価

ア) 事務事業の実施状況に対する評価（事務事業担当課が実施）

事務事業の実施状況について、以下の評価を行う。

- 1 年度当初の計画を上回って事業を実施できた
- 2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた
- 3 年度当初の計画に遅れが生じた
- 4 年度当初の計画を全く実施できなかった
- 特別な事情により全く実施できなかった

※特別な事情（新型コロナウイルス感染症）がありながらも工夫して事業が実施できた場合は、「おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた（「2」評価）」とする（令和3年度評価の考え方を参照）。

イ) 事務事業で掲げた指標の達成状況による評価

指標の目標値に対する実績値の割合に応じて、以下の点数を割り当て、複数指標がある場合はそれを平均する。

その点数を以下の表に当てはめ、指標に関する評価とする。

○指標毎の評点

100%以上	10点
70%以上	7点
50%以上	5点
50%未満	3点
0%	0点
特別な事情による未実施	—

※複数指標がある事業に「—」がある場合は、その指標を除いて平均する

○指標の達成状況による評価

10～8.0点以上	a ※指標を（概ね）達成している
8.0未満～5.0点以上	b ※指標を達成できていない
5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない

ウ) 事務事業総合評価

①、②の評価をクロスさせ、以下の評価とする

		進捗				
		1	2	3	4	-
指標	a	S	A	B	C	
	b	A	B	C	D	
	c	B	C	D	E	
	-		C			-

- ・進捗評価が「-」で、指標評価に「a~c」がつくことはないため、評価設定をしない
- ・指標が「-」であって、事業が工夫してできた場合は「C」評価とする

(2) 施策の方向性ごとの評価

各事務事業の総合評価をそれぞれ以下の表に基づいて点数化し、それを平均した値（小数点以下は四捨五入する）を施策の方向性ごとの評価の進捗状況を図る目安とし、併せて文言による評価を生涯学習推進課が行う。なお、施策の方向性に含まれる事務事業の中に、総合評価が「-」となっている事務事業が含まれる場合は、その事務事業を除いて平均する

●各事務事業の点数化

S	10点
A	8点
B	6点
C	4点
D	2点
E	0点

第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価基準

別紙1

①方向性ごとの達成状況と課題(資料2-3)

評価者:生涯学習推進課

方法:方向性ごとに、達成状況と課題を抽出

- 評価: A 計画以上に進んでいる
B 計画どおり進んでいる
C 計画より遅れている
— 評価することができない

評価方法の課題

有効性、効率性の評価基準における各評定(高、中、低)の決定について、客観的な基準がなく、評価が全体として揺れてしまいやすい。

対応方針

つくば市の他計画(つくば市未来構想戦略プラン等)における評価方法を参考として、令和4年度計画に対する評価から、評価基準を改訂するべく、今後検討を行う。

②事務事業評価(資料2-4)

事務事業評価は、つくば市役所の全課が自分の課で行っているすべての事務事業を評価しているものです。

有効性と効率性を評価した後、その組み合わせで総合評価(SからEまでの6段階)で評価します。

なお、特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)により、総合評価を行わない場合は、「—」で表記します。

■有効性

事業を実施した結果、成果の達成度合いを年度当初と比較するもの

高…年度当初の目標値と比較し、成果が大きく向上、又は高水準を維持

中…年度当初の目標値と比較し、同程度の成果

低…年度当初の目標値と比較し、成果が大きく低下、又は低水準を維持

—…特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)が生じたため、
年度当初の目標値と比較することができない

※特別な事情により、事業が実施できなかった場合は、「—」と表記してください。
事業内容を工夫して実施できた場合は、「中」と表記してください。

■効率性

得られた成果に対して、費やした事業費や人件費(=費用対効果)を評価するもの

高…年度当初の目標値と比較し、費用対効果が大きく向上、又は高水準を維持

中…年度当初の目標値と比較し、同程度の費用対効果

低…年度当初の目標値と比較し、費用対効果が大きく低下、又は低水準を維持

—…特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)が生じたため、
年度当初の目標値と評価することができない

※特別な事情により、事業が実施できなかった場合は、「—」と表記
事業内容を工夫して費用対効果を評価できた場合は、「中」と表記

■総合評価

有効性/効率性

高/高 S成果・費用対効果を維持して継続実施

高/中 A成果を維持して継続実施

中/高 A費用対効果を維持して継続実施

中/中 B成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施

高/低 C成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り

低/高 C費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り

中/低 D費用対効果を向上させる必要有り

低/中 D成果を向上させる必要有り

低/低 E事業の抜本的な見直しの必要有り

—/— —総合評価は行わない

※有効性及び効率性の両方又はいずれかに「—」がある場合は、特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)を考慮して総合評価は行いません。

第5章 計画の推進

1 事業の推進方法

第2次計画では、重点事業を5つ掲げ、優先的に推進するものとしていましたが、第3次計画では、重点的に優先して取り組む事業を精選したことから、それらの達成状況について、進行管理を行うこととします。

そのため、重点事業を別に掲げることはしないこととします。

2 計画の進行管理と推進体制

(1) 個別事業の進行管理・評価

本計画では、事業ごとに「評価の観点」を定め、「評価の観点」を中心に翌年度初めに事業の取組状況を各担当課、本計画の主管課（生涯学習推進課）で評価を行います。

「評価の観点」とは、第3次つくば市生涯学習推進基本計画の基本理念を実現する上で、各事業で特に達成を図る内容です。数値による目標だけでなく、数値以外の観点を設定することで、生涯学習の取組をより多面的に把握することとします。

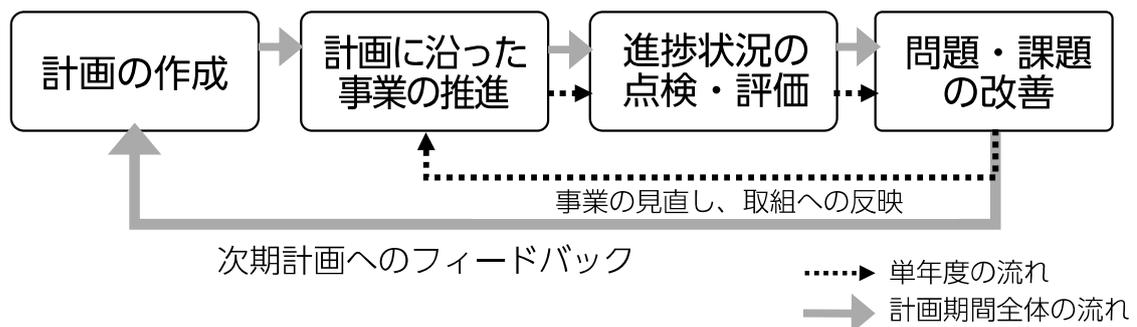


図 5-1 第3次計画の進行管理・評価の流れ

(2) 計画全体の進行管理・評価

各個別事業の評価を踏まえ、計画全般の進行管理は各部長等で構成される生涯学習推進本部を設置し実施します。

また、計画全体の進行管理や評価は、市議会議員、各種団体等の代表者、学識経験者、市民委員から構成される生涯学習審議会で審議し、今後の取組の改善にいかしていきます。

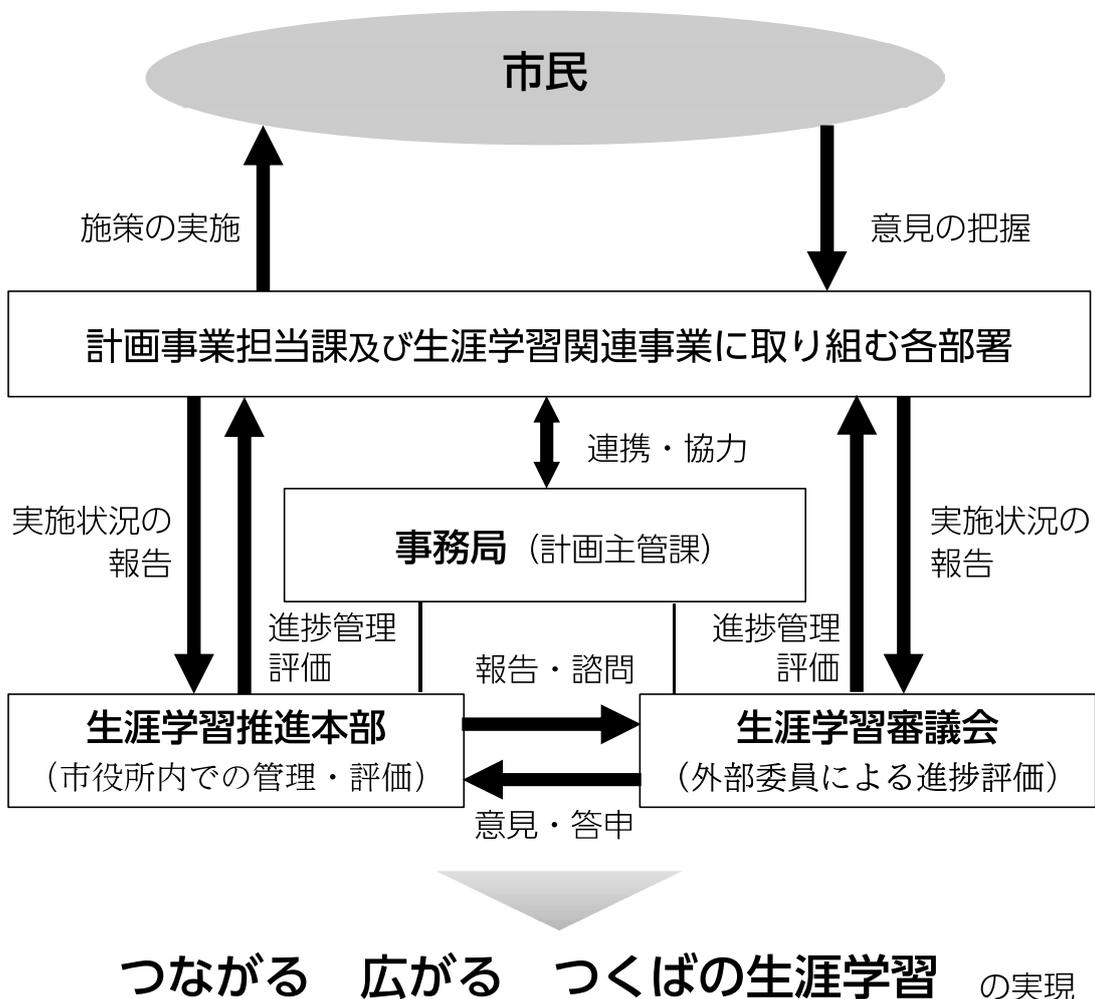


図 5-2 計画推進体制の概略

3 成果目標と目標の設定

計画全般にわたる成果目標は次のとおりとし、次回実施の生涯学習に関する市民意識調査等で確認します。

成果指標	目標 (令和6年度)	実績 (令和元年度)
(1) 多様な学びの実現		
生涯学習に取り組んでみたい人の割合 (生涯学習に関する市民意識調査)	80%	78.1%
(2) 誰一人取り残さない生涯学習		
実際に学習活動に取り組んだ人の割合 (生涯学習に関する市民意識調査)	60%	57.9%
(3) 地域で学び合う生涯学習		
地域交流センターの利用者数	520,000 人	506,845 人
(4) 「社会力」を持った人材の育成		
自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 (生涯学習に関する市民意識調査)	60%	49.6%
(5) 計画全体の評価		
市の施策のうち、 生涯学習に満足／どちらかといえば満足な人の 割合 (つくば市民意識調査)	40%	32.8%

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					
			No.	事業名	事業概要	担当課					令和3年度事業計画	令和3年度事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況評価	指標評価
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	引き続き土日の閉館時間を午後5時から午後7時に変更し、開館時間を2時間延長するとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上を図る。 市内47か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車2台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションには2週間に1回の頻度で巡回する。令和3年度には、現在の2台の移動図書館車両に加え、右左外架書架設備による最大限約600冊積載可能な移動図書館車を新たに1台導入し、サービスの拡充を図るとともに、新型コロナウイルスの影響下における中央図書館への来館者の分散化を図る。 並木・広岡・大穂・豊里の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターで図書資料の返却ができるようにする図書返却事業を実施する。また、新たに島名交流センター及び筑波大学附属中央図書館へのブックポストの設置について検討を進める。	土日の開館時間を2時間延長し、午後7時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上を図った。 市内48か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車2台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。既存の2台の移動図書館車両に加え、右左外架書架設備による最大約600冊積載可能な移動図書館車を新たに1台導入した。新規車両は、令和4年度から運行し、サービスの拡充を図るとともに新型コロナウイルス感染症の影響下における中央図書館への来館者の分散化を図っていく。 島名交流センターにブックポストを設置し、新たに図書の返却できるサービスポイントを増設した。	〇〇千円	××千円	2	b	B			
			1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課	生涯学習活動として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多種多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。	新型コロナウイルス感染症の影響で、部屋の定員を通常定員の50パーセントとしての貸出としたが、利用者数、登録団体ともに目標値を上回った。	388,361千円	××千円	1	a	S			
						年間開館日数291日 年間開館時間2,740.5時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数55,000冊 返却窓口への返却冊数130,000冊	年間開館日数260日 年間開館時間2,458時間 自動車図書館利用人数9,678人 自動車図書館貸出冊数37,244冊 返却窓口への返却冊数162,984冊	・指標の達成状況評価を行う。複数指標がある場合は、各項目の評価点数の平均を全体の評価とする。 $260 \div 291 = 89.3\% \rightarrow 7$ 点 $2,458 \div 2,740 = 89.7\% \rightarrow 7$ 点 $9,678 \div 14,000 = 69.1\% \rightarrow 7$ 点 $37,244 \div 55,000 = 67.7\% \rightarrow 7$ 点 $162,984 \div 130,000 = 125.5\% \rightarrow 10$ 点 $(7 \times 4 + 10) \text{点} \div 5 \text{項目} = 7.6 \text{点} \rightarrow b \text{評価}$		「事業の成果・達成状況」の記載から、各担当課が実施状況評価を行う。		実施状況評価、指標評価の結果から、事務事業の総合評価を記入する。				

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価						
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価	成果	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業でのニーズと必要性に沿った生涯学習の機会を提供していく。提供方法は、会場参加・オンライン・動画配信により実施し、参加機会を拡充する。 また、講座終了後にアンケートを実施し、アンケート等の集計結果から、今後の講座内容として反映させ、生涯学習の環境や取組みを促進する。	市内民間企業に対する家庭教育学級を1回実施し、併せてつくば市出前講座の周知を実施した。	〇〇千円	××千円	2	c	C				
							講座開催数2回 参加者数(動画視聴含む)40人	講座開催数1回 参加者数(動画視聴含む)13人									
			1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	市民が希望している生涯学習に応じた生涯学習講座を把握し、気軽に参加できる生涯学習講座をオンラインや動画配信等で行う。	オンライン講座(同時配信のみ、現地と同時配信の併用)については、人間学講座で2回、社会力講座で4回の実施を行った。 動画配信(事後のアーカイブ閲覧が可能であるもの)については、ちびっ子博士事業及び人間学講座のうち1回(「私とGeorgia(ジョージア)」)にて実施を行った。	〇〇千円	××千円	2	a	A				
						オンライン講座3回 動画配信3回	オンライン講座6回 動画配信2回										
			1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課	新型コロナウイルス感染拡大防止のため対策を行ったうえで、夜間や休日に地域交流センター講座を開講することで、夜間休日における学習機会を提供する。	天体観測や日本舞踊等の夜間講座を開催した。また、応急手当や防災に関する講座等を休日に開催した。平日には交流センター講座への参加が難しい人に対して学習機会を提供することができた。	〇〇千円	××千円	1	a	S				
							夜間休日の講座の開講10回	夜間休日の講座の開講11回									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価	成果	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	気軽に生涯学習を相談できる機会として、生涯学習相談をオンラインで行い、情報提供体制を整える。 相談数5件	具体的なオンラインでの生涯学習に関する相談受付の実現には至らなかったが、インターネットに掲載したつくば市生涯学習指導者情報に対して10件の情報提供をおこない、また、つくば市出前講座についてはオンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成を行った。 相談数0件	〇〇千円	××千円	3	c	D			
			1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	市の生涯学習に関する取組みについて、生涯学習推進課だけでなく、様々な部署で行われ全庁的な実施体制である一方、個別に周知を行っているため、開催スケジュールなど、市民のわかりづらさがあるとの声に応える。各課で行っている生涯学習について、情報収集し市民に提供できる体制を整え、情報収集した内容を広報誌やホームページ等で広く市民に周知していく。 広報紙5回 ホームページ5回	つくば市出前講座について、オンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成をおこなった。 広報紙0回 ホームページ1回	〇〇千円	××千円	3	c	D			

令和3年度(2021年度)第3次生涯学習推進基本計画 施策の方向性ごとの評価一覧

※検討案のとおり評価を令和3年度評価で実施した場合の計算方法に関する資料(サンプル)

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価(E~S)を点数化し、平均した点数(0~10)を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁(資料)	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度事務事業評価		
								実施状況評価	指標評価	総合評価
多様な学びの実現										
1-(1)-ア	施設の利便性の向上	「施設の利用」は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける部分であるが、予防対策や事業の創意工夫を行うことで、一定の実績を上げ、特に地域交流センターについては目標値を大きく上回る実績を上げており、計画以上に施策が進んでいると評価する。 (6+10)点÷2=8点	8	1	開館時間延長の継続、地域で図書館サービスを受けられる自館ステーションと返却ができるスポットの増設等	図書館	図書館利便性向上事業	2	b	B
1-(1)-ア				1	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	生涯学習推進課	市民交流施設利便性向上事業	1	a	S
1-(1)-イ	参加機会の拡充	民間企業等での生涯学習講座の実施促進については、つくば市内の企業や研究機関のニーズの把握の段階にあり、実施数という評価指標から低い事業評価となったが、その他の2事業は目標値に近い、もしくは高い実績となり、十分な有効性をあげており、施策全体としては計画どおり生涯学習に対する参加機会の拡充を図ることができていると評価する。 オンラインによる事業の展開は、今後も社会からの要請も高いことが想定されるが、配信に要する人的・物的コストは高いと考えられ、効率性とのバランスをとることが重要になると考えられる。	7	2	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業での生涯学習事業	2	c	C
1-(1)-イ				2	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンラインによる生涯学習講座事業	2	a	A
1-(1)-イ				2	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課	地域交流センター活用事業	1	a	S
1-(1)-ウ	生涯学習の相談・情報の提供	2事業とも目標値に届かない結果となった。「生涯学習」という幅広い分野をカバーする領域に対して、市民にとってわかりやすく、利用しやすい相談業務や情報発信をおこなうためには、その基盤となるホームページや周知に要する資料等の媒体を整理・準備する必要があり、丁寧な事業及び施策の進行を行っていく必要がある。	2	3	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	生涯学習相談事業	3	c	D
1-(1)-ウ				3	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	情報収集・発信事業	3	c	D

○つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

(設置)

第1条 市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動(以下「生涯学習」という。)の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

- (1) 生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項
- (2) その他生涯学習の推進に必要な事項

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学する者
(平9条例43・平30条例29・一部改正)

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 [前条第2項第1号](#)又は[第2号](#)に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(平9条例43・一部改正)

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平9条例43・一部改正)

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 [前項](#)の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

(委任)

第8条 [この条例](#)に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

[この条例](#)は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年条例第43号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成30年条例第29号)

この条例は、公布の日から施行する。

つくば市生涯学習審議会委員

任期:令和4年8月1日～令和6年7月31日

No.	氏名	役職等	区分
1	飯島 眞市		市民委員
2	伊藤 達也	つくば市シルバークラブ連合会 会長	各種団体等の代表者
3	岡田 克司	元学校長(手代木中学校長)	学識経験者
4	金川 清治	青少年を育てるつくば市民の会 会長	各種団体等の代表者
5	木村 清隆	市議会議員	市議会議員
6	佐野 洋子		市民委員
7	鈴木 朱里	NPO法人ままとーん 副代表理事	各種団体等の代表者
8	関 瑞穂		市民委員
9	武田 直樹	NPO法人 フュージョン社会力創造パートナーズ理事長	学識経験者
10	田中 秀夫	つくば市文化協会 会長	各種団体等の代表者
11	田中 依子		市民委員
12	長橋 進也	つくば市PTA連絡協議会 顧問	各種団体等の代表者
13	根本 典子		市民委員
14	萩原 武久	つくば市スポーツ協会 会長	各種団体等の代表者
15	平野 浩之	つくば市学校長会(つくば市立要小学校校長)	各種団体等の代表者
16	船橋 秀彦	つくば市福祉団体等連絡協議会 副会長	各種団体等の代表者
17	星埜 祥子	子育て休憩室・ほっとステーションオアシス代表	各種団体等の代表者
18	松村 美枝子	つくば市ボランティア連絡協議会世話人代表	各種団体等の代表者
19	溝上 智恵子	筑波大学 副学長	学識経験者

敬称略、50音順